

**第 3 期下野市地域福祉計画
第 3 期下野市地域福祉活動計画**

市民アンケート調査 報告書

令和 3 年 10 月

下 野 市

目次

I. 調査の概要	1
（1）調査の目的	1
（2）実施概要	1
（3）回収状況	1
（4）報告書を見るにあたっての注意点	2
II. 調査結果の概要	3
III. 調査結果の一覧	7
（1）あなたご自身について	7
（2）地域との関わりについて	11
（3）地域活動やボランティア活動などについて	31
（4）福祉サービス・相談について	43
（5）権利擁護について	60
（6）地域福祉に関する施策について	68
（7）市からの情報について	74
（8）～地域との付き合い度合い別にみた調査結果～	82
IV. 調査票	90

I. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、「第3期下野市地域福祉計画及び地域福祉活動計画」の策定にあたり、近所付き合いや地域活動への参加状況、福祉活動などの実態及び市民の考え方や意識の傾向を把握し、今後の地域福祉施策を検討するための基礎資料とするために実施しました。

(2) 実施概要

調査地域： 下野市全域
調査対象者： 市内在住の18歳以上の市民 2,000人
調査期間： 令和3年7月9日～7月26日
調査方法： 郵送配布・郵送回収

(3) 回収状況

発送数	回収数	回収率
2,000件	985件	49.3%

(4) 報告書を見るにあたっての注意点

1. 図表中の「n (number of case)」とは、その設問の回答者数を表しています。
2. 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを示しています。そのため、単数回答（SA：複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
3. 複数回答（MA：複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答比率の合計は100%を超える場合があります。
4. 図表中「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、又は回答の判別が困難なものです。
5. 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
6. クロス分析において、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。
7. 下野市においては平成22年度に第1期・平成28年度に第2期の地域福祉計画策定に向けたアンケートを実施しました。

本報告書の中で、一部の設問において、意識の変化や事業の進捗を把握するために、経年比較を行っています。これらの調査の実施概要は、以下の通りです。

・第2回調査（平成28年度）

調査期間	平成28年8月		
調査方法	郵送配布・郵送回収による郵便調査法で実施		
回収結果	配布件数	回収件数	回収率
	2,000件	832件	41.6%

・第1回調査（平成22年度）

調査期間	平成22年8月～9月		
調査方法	郵送配布・郵送回収による郵便調査法で実施		
回収結果	配布件数	回収件数	回収率
	2,000件	777件	38.8%

II. 調査結果の概要

(1) あなたご自身について

- 居住年数については、「20～49年住んでいる」が42.8%と最も高く、次いで「10～19年住んでいる」が18.1%、「50年以上住んでいる」が15.9%となっています。
- 普段の1日あたりの就労時間についてみると、「8～12時間未満」が37.4%と最も高く、次いで「就労していない(新型コロナウイルスの影響はない)」が26.7%、「4～8時間未満」が21.1%となっています。
- 家族構成についてみると、「親と子の2世代世帯」が52.4%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が19.5%、「親と子と孫の3世代世帯」が13.0%となっています。
また、<70歳代以上>では、「ひとり暮らし世帯」と「夫婦のみの世帯」を合わせると、5割を超えて高くなっています。

(2) 地域との関わりについて

- あなたが考える「地域」の範囲についてみると、「自治会」が35.1%と最も高く、次いで「下野市全域」が26.0%、「中学校区」が13.0%となっています。
- 地域への愛着についてみると、「ある程度ある」が55.8%と最も高く、次いで「大いにある」が19.3%、「どちらともいえない」が12.4%となっています。
- 近所の人との付き合いの程度についてみると、「会えばあいさつをかわす」が42.2%と最も高く、次いで「たまに立ち話をする」が28.1%、「付き合いがほとんどない」が11.9%となっています。
- 地域の助け合い・支え合いへの積極性についてみると、「どちらともいえない」が35.6%と最も高く、次いで「ある程度積極的だと思う」が29.1%、「あまり積極的だと思わない」が19.4%となっています。
- 地域の中での問題点や不足していると思うものについてみると、「世代間の交流が少ない」が29.5%と最も高く、次いで「隣近所との交流が少ない」が25.7%、「特にない」が24.0%となっています。
- あなたのできる、高齢者や障がいのある人の介助・介護や子育てなどで困っている家庭への手助けについてみると、「安否確認の声かけ」が57.7%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が49.4%、「災害以外の緊急時の手助け」が32.3%となっています。
- 将来隣近所の人にしてもらいたい手助けについてみると、「災害時の手助け」が53.2%と最も高く、次いで「安否確認の声かけ」が47.4%、「災害以外の緊急時の手助け」が36.1%となっています。
- 日常生活での問題に対する解決方法についてみると、「行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」が41.9%と最も高く、次いで「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ住民同士で協力して解決したい」が39.3%となっています。

(3) 地域活動やボランティア活動などについて

- 地域や住民に対する各種の支援活動等についてみると、「取り組んだことはない」が39.9%と最も高く、次いで「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」が21.0%、「現在、継続的に取り組んでいる」が12.4%となっています。
- 現在取り組んでいる各種支援活動等についてみると、「自治会の活動」が62.6%と最も高く、次いで「子ども会の活動」が22.3%、「PTAの活動」が21.6%となっています。
- 今後の各種支援活動への取り組み意欲についてみると、「機会があれば取り組んでもよい」が46.2%と最も高く、次いで「あまり取り組みたくない」が19.9%、「できるだけ取り組んでいきたい」が12.6%となっています。

(4) 福祉サービス・相談について

- 「福祉」への関心についてみると、「ある程度関心がある」が54.7%と最も高く、次いで「あまり関心がない」が26.8%、「とても関心がある」が10.5%となっています。第1回・第2回調査と比較すると、「とても関心がある」が一貫して減少している一方、「あまり関心がない」が一貫して増加しています。
- 子どもや高齢者、障がいのある人などにとってのまちの暮らしやすさについてみると、「まあまあ暮らしやすいと思う」が45.3%と最も高く、次いで「わからない」が23.7%、「暮らしやすいと思う」が12.4%となっています。
- 様々な悩みや困難を抱える方にとってのまちの暮らしやすさについてみると、「まあまあ暮らしやすいと思う」が37.2%と最も高く、次いで「わからない」が35.6%、「あまり暮らしやすいとは思わない」が9.2%となっています。
- 自分に必要な「福祉サービス」の情報の入手状況についてみると、「十分ではないが、入手できている」が34.1%と最も高く、次いで「今のところ情報を得る必要がない」が29.5%、「入手できていない」が27.8%となっています。
- 「福祉サービス」に関する情報の入手先についてみると、「市役所の窓口や広報紙」が76.1%と最も高く、次いで「インターネット」が33.2%、「近所の人・知人・友人」が22.9%となっています。
- 団体や機関・制度等の認知度についてみると、「社会福祉協議会」が49.4%と最も高く、次いで「民生委員児童委員」が48.5%、「地域子育て支援センター」が37.5%となっています。
- 認知している再犯防止に協力する民間協力者についてみると、「保護司」が46.2%と最も高く、次いで「いずれも知らない」が36.1%、「更生保護施設」が30.1%となっています。
- 犯罪をした人の立ち直りへの協力についてみると、「わからない」が31.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば思う」が22.1%、「どちらかといえば思わない」が20.1%となっています。
- 広報誌「しもつけ社協だより」の認知状況についてみると、「興味があるところは読む」が32.7%と最も高く、次いで「知らない」が22.5%、「知っているが読んでいない」が21.9%となっています。
- 地域で暮らしやすくしていくために、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことについてみると、「高齢者の福祉サービス」が37.8%と最も高く、次いで「福祉に関する総合相談窓口」が33.0%、「子育てに関する支援」が27.9%となっています。

(5) 権利擁護について

- 成年後見制度の認知度についてみると、「知っている」が35.1%と最も高く、次いで「制度名は知っているが、内容は知らない」が31.8%、「制度名も内容も知らない」が29.7%となっています。
- 日常生活自立支援事業（あすてらす）の認知度についてみると、「制度名も内容も知らない」が56.5%と最も高く、次いで「制度名は知っているが、内容は知らない」が28.8%、「知っている」が10.5%となっています。
- 将来的な成年後見制度の利用意向についてみると、「わからない」が45.8%と最も高く、次いで「利用したい」が37.2%、「利用したくない」が11.1%となっています。
- 後見人になって支援してほしい人についてみると、「配偶者や子どもなどの親族」が85.2%と最も高く、次いで「弁護士や司法書士などの専門職」が32.0%、「社会福祉協議会などの団体」が12.8%となっています。

(6) 地域福祉に関する施策について

- 下野市地域福祉計画の認知度についてみると、「計画名も内容も知らない」が69.4%と最も高く、次いで「計画名は知っているが、内容は知らない」が21.2%、「知っている」が4.7%となっています。
- 下野市地域福祉活動計画の認知度についてみると、「計画名も内容も知らない」が71.1%と最も高く、次いで「計画名は知っているが、内容は知らない」が20.0%、「知っている」が3.7%となっています。
- 地域福祉を進めるためには、市民の参加・協力が必要とされていることの認知度についてみると、「知らない」が57.2%と、「知っている」の38.8%を上回っています。
- 下野市の保健福祉施策（サービス）への評価についてみると、「わからない」が56.8%と最も高く、次いで「まあまあ充実している」が26.5%、「あまり充実していない」が7.9%となっています。
- 下野市の保健福祉施策をより充実していくために重要と考える取り組みについてみると、「災害時に支援を必要とする人の把握と支援体制を充実させる」が48.6%と最も高く、次いで「隣近所など、周囲の理解と協力による、支え合い助け合えるまちづくりをすすめる」が38.2%、「どんなことでも相談できる、相談支援体制を充実させる」が35.4%となっています。

(7) 市からの情報について

- 市政に関する情報の入手先についてみると、「広報紙」が76.1%と最も高く、次いで「ホームページ」が36.2%、「ケーブルテレビ」が8.5%となっています。
 - ラジオを聴く際に利用する機器についてみると、「カーラジオ」が41.5%と最も高く、次いで「聴かない」が32.2%、「スマートフォン」が18.4%となっています。
 - 下野コミュニティ FM「FM ゆうがお」の認知度についてみると、「知っているが聴いたことはない」が56.3%と最も高く、次いで「知らない」が24.3%、「番組を聴いたことがある」が16.1%となっています。
 - 「FM ゆうがお」の利用頻度についてみると、「月に1～2回程度」が69.2%と最も高く、次いで「週に1回」が14.5%、「週に3回ほど」が10.1%となっています。
 - 好きな「FM ゆうがお」の番組についてみると、「特にない」が52.2%と最も高く、次いで「ゆうがおパラダイス」が5.7%、「さわやかスタジオ 879」「しもつけピタッとラジオ（市提供）」が5.0%となっています。
- また、本報告書では（8）～地域との付き合い度合い別にみた調査結果～として、地域での付き合いの状況が地域活動や支援への意向、情報の入手状況などにどのような影響を与えているかを分析しています。

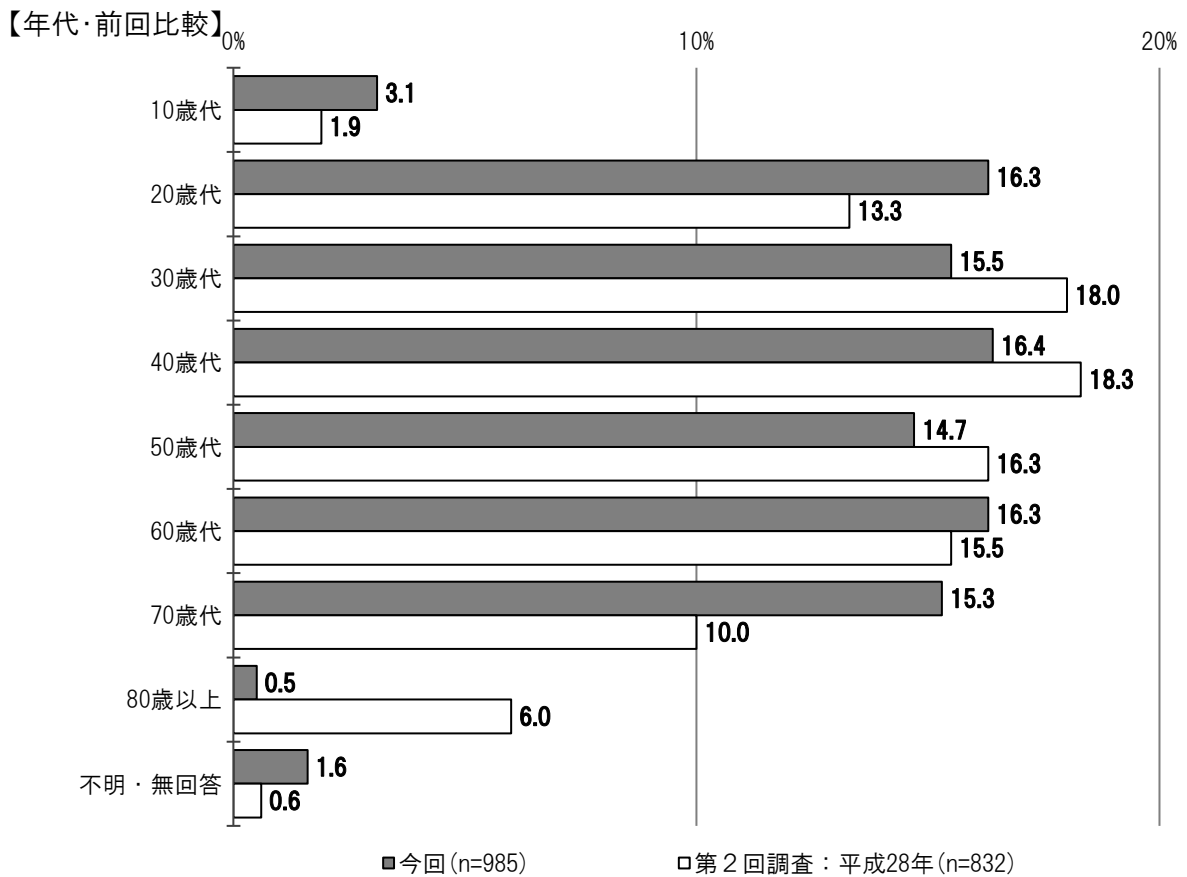
III. 調査結果の一覧

(1) あなたご自身について

【年代】 あなたの年代はどれですか。

(単数回答)

年代についてみると、「40 歳代」が 16.4%と最も高く、次いで「20 歳代」「60 歳代」が 16.3%、「30 歳代」が 15.5%となっています。

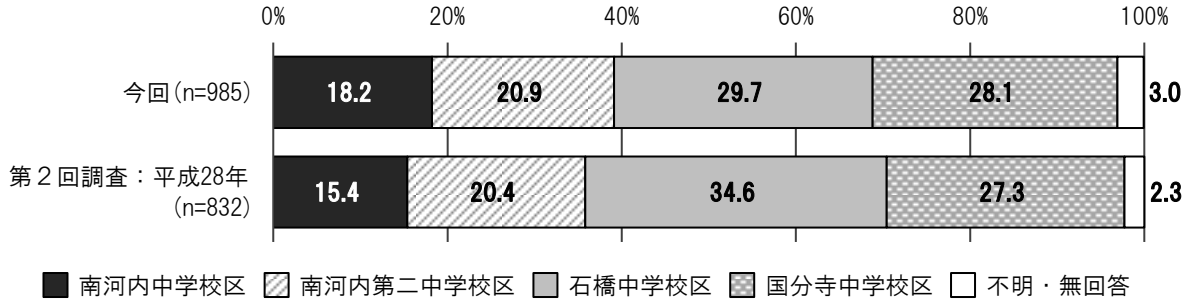


【中学校区】 あなたが住んでいる中学校区は次のどれですか。

(単数回答)

中学校区についてみると、「石橋中学校区」が29.7%と最も高く、次いで「国分寺中学校区」が28.1%、「南河内第二中学校区」が20.9%となっています。

【中学校区・前回比較】



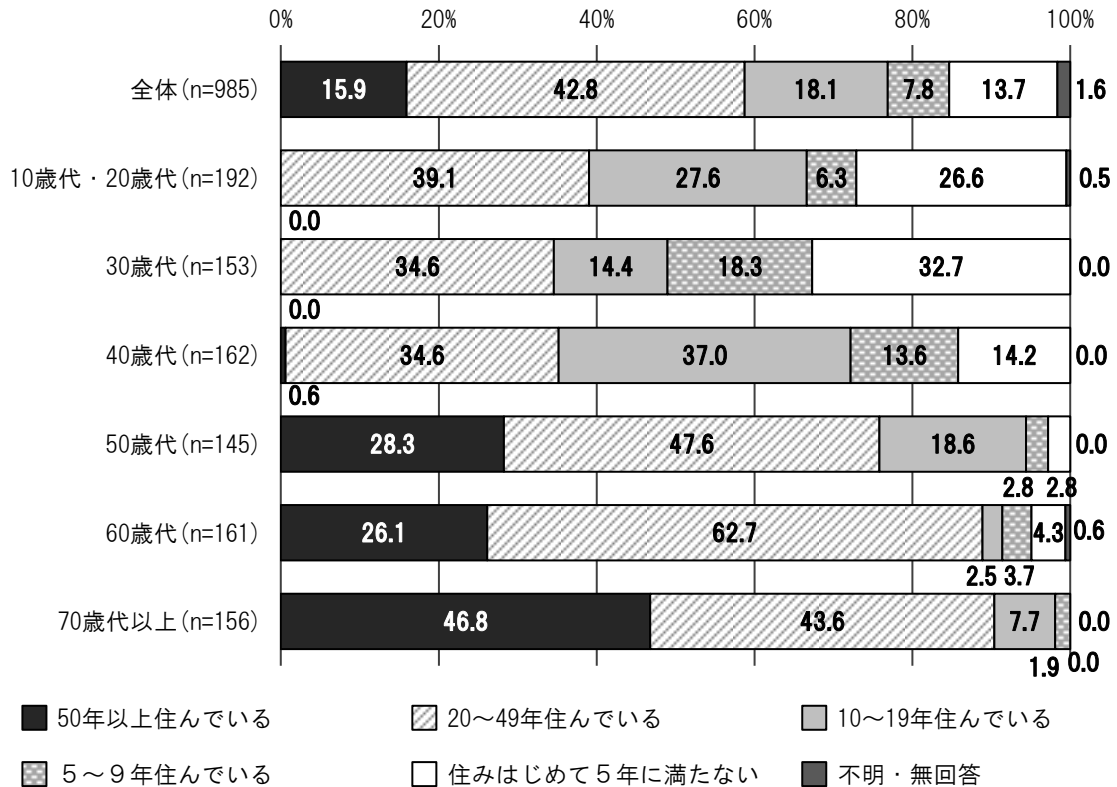
【居住年数】 あなたは現在の地区（回答された中学校区）に何年住んでいますか。

(単数回答)

居住年数についてみると、全体では「20～49年住んでいる」が42.8%と最も高く、次いで「10～19年住んでいる」が18.1%、「50年以上住んでいる」が15.9%となっています。

年代別にみると、<10歳代・20歳代><30歳代>では、「20～49年住んでいる」が最も高くなっています。また、<30歳代>では、「住みはじめて5年に満たない」が32.7%と、他の年代に比べて高くなっています。

【居住年数・年代別】



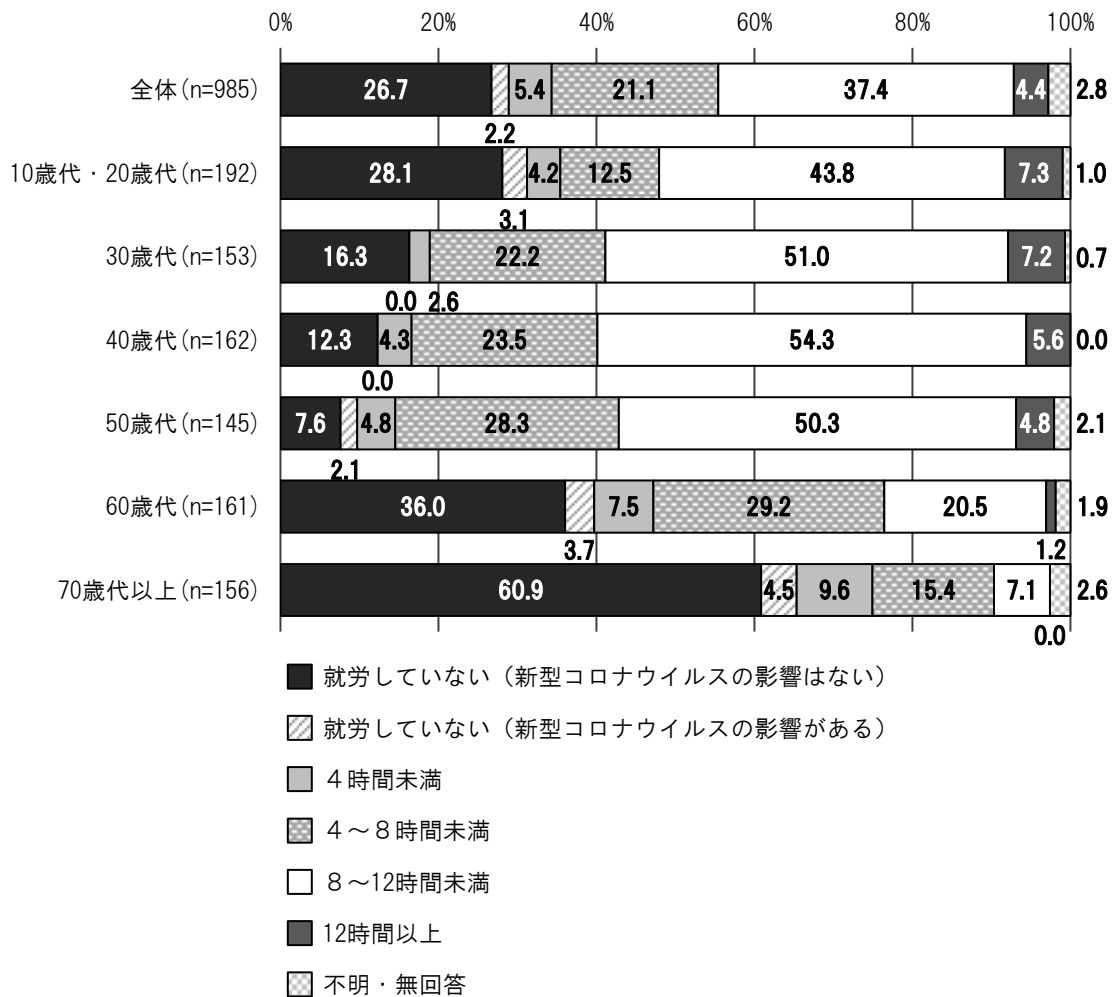
【就労時間】 普段の1日あたりの就労時間（休憩時間を含む）はどのくらいですか。一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。（単数回答）

普段の1日あたりの就労時間についてみると、全体では「8～12時間未満」が37.4%と最も高く、次いで「就労していない（新型コロナウイルスの影響はない）」が26.7%、「4～8時間未満」が21.1%となっています。

年代別にみると、<50歳代>以下の年代では、「8～12時間未満」が、<60歳代><70歳代以上>では、「就労していない（新型コロナウイルスの影響はない）」が最も高くなっています。

<10歳代・20歳代><50歳代><60歳代><70歳代以上>では、「就労していない（新型コロナウイルスの影響がある）」が、いずれもわずかながら見られます。

【就労時間・年代別】



【家族構成】 あなたの家族構成はどのようになっていますか。

(単数回答)

家族構成についてみると、全体では「親と子の2世代世帯」が 52.4%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が 19.5%、「親と子と孫の3世代世帯」が 13.0%となっています。

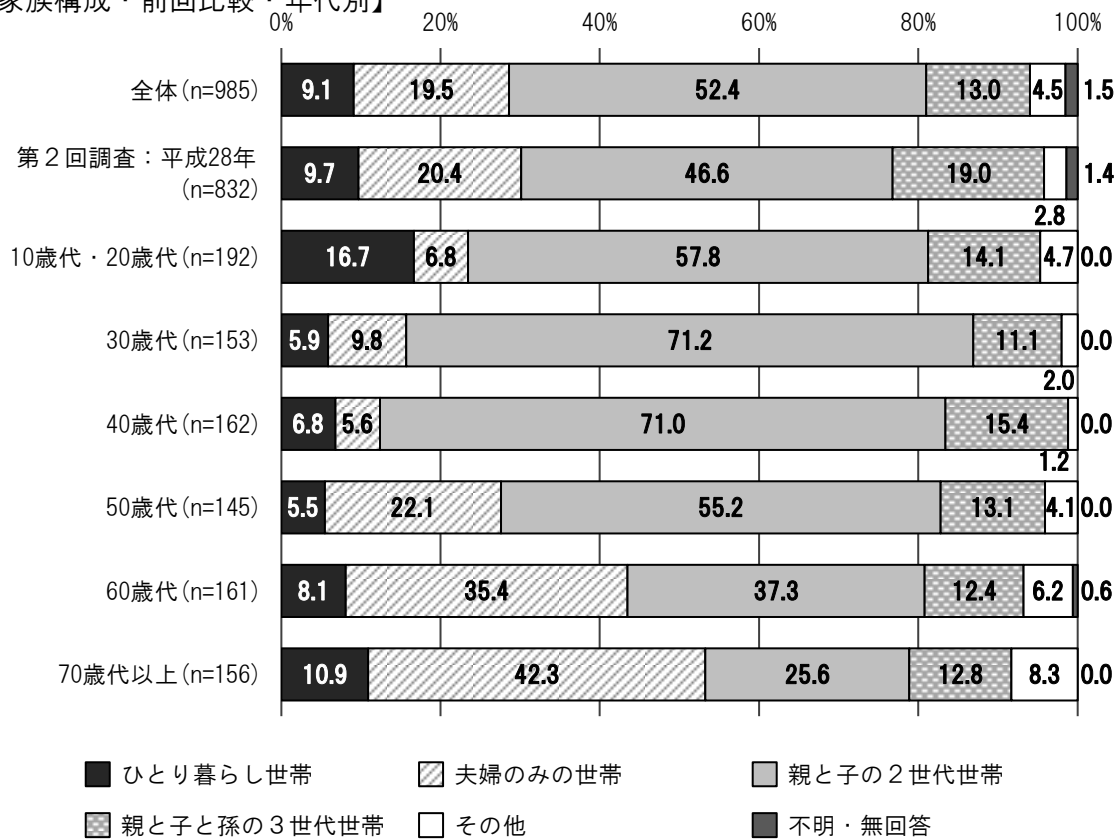
第2回調査と比較すると、概ね同様の結果となっているものの、「親と子の2世代世帯」がやや増加している一方、「親と子と孫の3世代世帯」がやや減少しています。

年代別にみると、<60歳代>以下の年代では、「親と子の2世代世帯」が最も高くなっています。

一方で、「ひとり暮らし世帯」の割合は<10歳代・20歳代>で 16.7%、<70歳代以上>で 10.9%と、他の年代と比較して高くなっています。

また、<70歳代以上>では、「ひとり暮らし世帯」と「夫婦のみの世帯」を合わせると、5割を超えて高くなっています。

【家族構成・前回比較・年代別】



(2) 地域との関わりについて

問1 あなたが考える「地域」の範囲をお答えください。

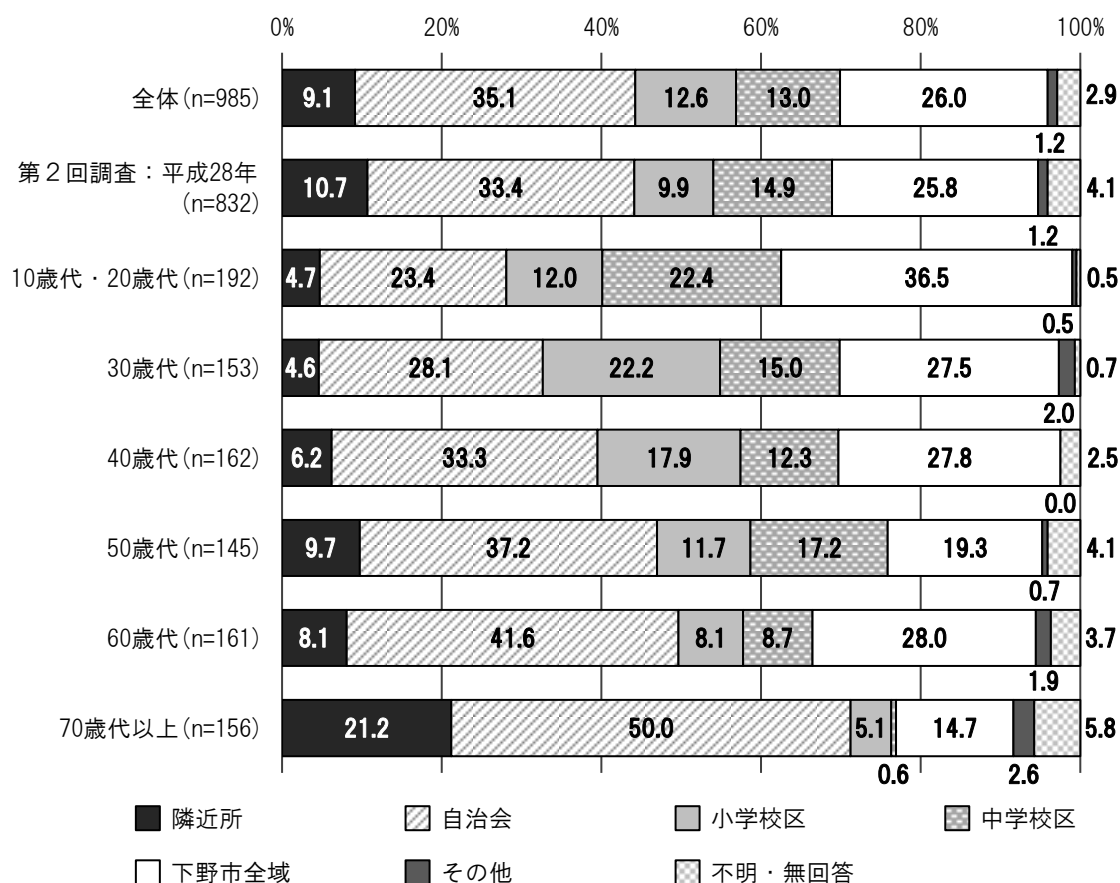
(単数回答)

あなたが考える「地域」の範囲についてみると、全体では「自治会」が35.1%と最も高く、次いで「下野市全域」が26.0%、「中学校区」が13.0%となっています。

第2回調査と比較すると、概ね同様の結果となっています。

年代別にみると、<10歳代・20歳代>では、「下野市全域」が36.5%と最も高く、次いで「自治会」が23.4%、<30歳代>から<60歳代>の年代では、「自治会」が最も高く、次いで「下野市全域」、<70歳代以上>では、「自治会」が最も高く、次いで「隣近所」となっており、年代が上がるほど狭い圏域を地域として捉えている傾向が見られます。

【地域の範囲・前回比較・年代別】



問 2 あなたは、今住んでいる地域に愛着がありますか。

(単数回答)

地域への愛着についてみると、全体では「ある程度ある」が 55.8%と最も高く、次いで「大いにある」が 19.3%、「どちらともいえない」が 12.4%となっています。

過去の調査と比較すると、第2回調査では“愛着がある”が 5.5 ポイント減少しましたが、今回の調査では「どちらともいえない」が減少し、“愛着がある”が 11.4 ポイント増加しています。

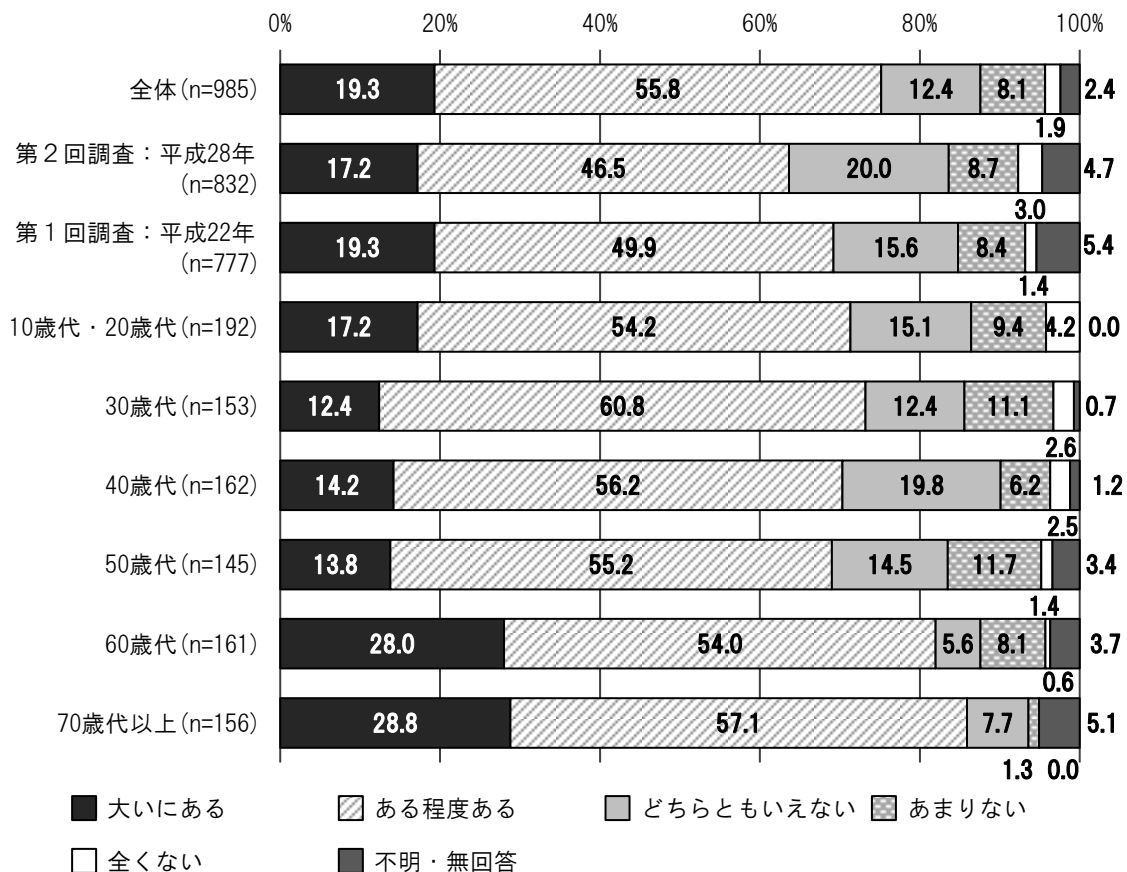
年代別にみると、いずれの年代でも“愛着がある”が6割を超えて高くなっています。

中でも、<60 歳代><70 歳代以上>では、8割を超えて特に高くなっています。

一方で、<10 歳代・20 歳代><30 歳代><50 歳代>で“愛着がない”が1割を超えています。

分析における “愛着がある”とは「大いにある」「ある程度ある」の合計、
“愛着がない”とは「あまりない」「全くない」の合計です。

【地域への愛着・前回比較・年代別】

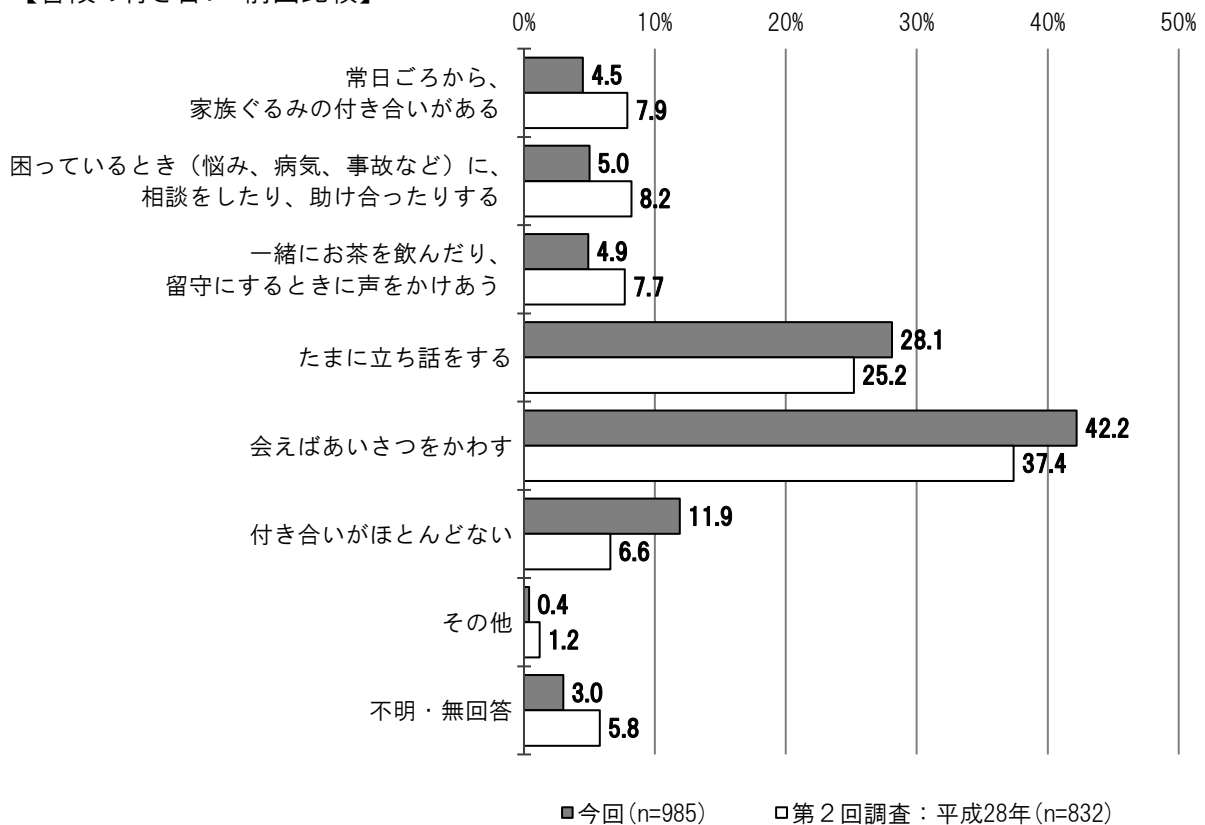


問3 あなたは、ふだん近所の人とどの程度の付き合いをされていますか。（単数回答）

近所の人との付き合いの程度についてみると、「会えばあいさつをかわす」が42.2%と最も高く、次いで「たまに立ち話をする」が28.1%、「付き合いがほとんどない」が11.9%となっています。

第2回調査と比較すると、「常日ごろから、家族ぐるみの付き合いがある」「困っているとき（悩み、病気、事故など）に、相談をしたり、助け合ったりする」「一緒にお茶を飲んだり、留守にするときに声をかけあう」が減少する一方、「たまに立ち話をする」「会えばあいさつをかわす」「付き合いがほとんどない」が増加していることから、付き合いの程度が希薄していることが伺えます。

【普段の付き合い・前回比較】



《年代別》

年代別にみると、「付き合いがほとんどない」について<10 歳代・20 歳代>では2割台、<30 歳代><40 歳代>では1割台と、他の年代に比べて高くなっています。

<70 歳代以上>では「常日ごろから、家族ぐるみの付き合いがある」「困っているとき(悩み、病気、事故など)に相談をしたり、助け合ったりする」が1割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。

%		問3あなたは、ふだん近所の人との程度の付き合いをされていますか。									
		n	常日ごろから、 家族ぐるみの 付き合いがある	困っているとき (悩み、病気、事 故など)に、相談 をしたり、助け 合ったりする	一緒にお茶を飲ん だり、留守にする ときに声をかけあ う	たまに 立ち話をする	会えばあいさつを かわす	付き合いが ほとんどない	その他		
年代	全体	985	4.5	5.0	4.9	28.1	42.2	11.9	0.4		
	10・20歳代	192	0.5	3.1	0.5	13.0	57.3	25.0	0.0		
	30歳代	153	3.3	2.6	3.3	16.3	56.9	16.3	0.7		
	40歳代	162	3.7	2.5	1.9	28.4	48.8	11.7	0.6		
	50歳代	145	4.1	4.1	2.1	31.7	46.9	7.6	0.0		
	60歳代	161	5.0	5.6	11.2	46.0	21.7	6.2	0.6		
	70歳代以上	156	10.9	12.2	9.0	37.2	21.2	1.3	0.6		
		n	不明・無回答								
年代	全体	985	7.1								
	10・20歳代	192	11.9								
	30歳代	153	14.7								
	40歳代	162	6.6								
	50歳代	145	10.8								
	60歳代	161	7.5								
	70歳代以上	156	2.9								

《中学校区別》

中学校区別にみると、概ね同様の結果となっていますが、<国分寺>で「会えばあいさつをかわす」が50.9%と、他の中学校区に比べて高くなっています。

%		問3あなたは、ふだん近所の人との程度の付き合いをされていますか。									
		n	常日ごろから、 家族ぐるみの 付き合いがある	困っているとき (悩み、病気、事 故など)に、相談 をしたり、助け 合ったりする	一緒にお茶を飲ん だり、留守にする ときに声をかけあ う	たまに 立ち話をする	会えばあいさつを かわす	付き合いが ほとんどない	その他		
中学 校区	全体	985	4.5	5.0	4.9	28.1	42.2	11.9	0.4		
	南河内	179	6.1	5.6	7.8	32.4	33.5	12.3	0.6		
	南河内第二	206	2.9	4.9	3.9	27.7	42.2	14.6	0.5		
	石橋	293	5.5	3.4	3.8	33.1	41.0	10.2	0.0		
	国分寺	277	3.6	6.1	3.6	22.4	50.9	9.4	0.7		
			n	不明・無回答							
中学 校区	全体	985	3.0								
	南河内	179	1.7								
	南河内第二	206	3.4								
	石橋	293	3.1								
	国分寺	277	3.2								

問 4 あなたが住んでいる地域の人々は地域の助け合い・支え合いに積極的だと思いますか。 (単数回答)

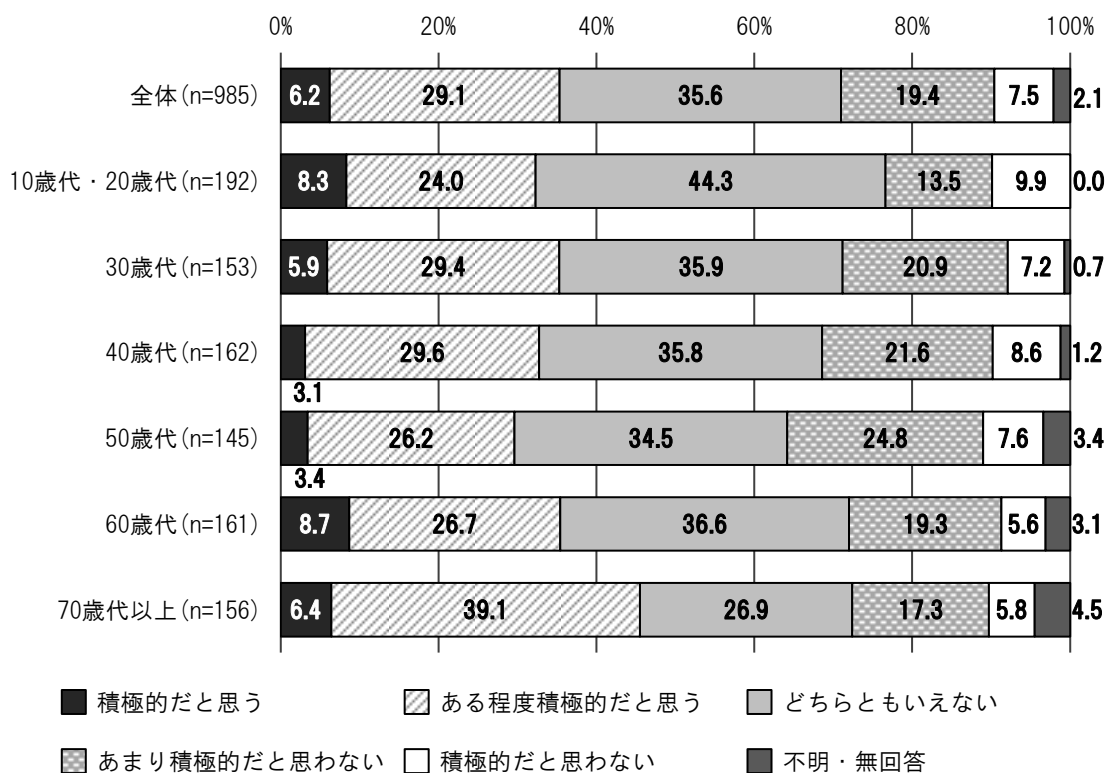
地域の助け合い・支え合いへの積極性についてみると、全体では「どちらともいえない」が35.6%と最も高く、次いで「ある程度積極的だと思う」が29.1%、「あまり積極的だと思わない」が19.4%となっています。

年代別にみると、<70 歳代以上>では、「ある程度積極的だと思う」が39.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」となっていますが、それ以外の年代では「どちらともいえない」が最も高く、次いで「ある程度積極的だと思う」となっています。

<50 歳代>以外の年代で“積極的”が“積極的でない”を上回る一方、<50 歳代>では“積極的でない”が32.4%と、“積極的”を上回っています。

分析における “積極的”とは「積極的だと思う」「ある程度積極的だと思う」の合計、
 “積極的でない”とは「あまり積極的だと思わない」「積極的だと思わない」の合計です。

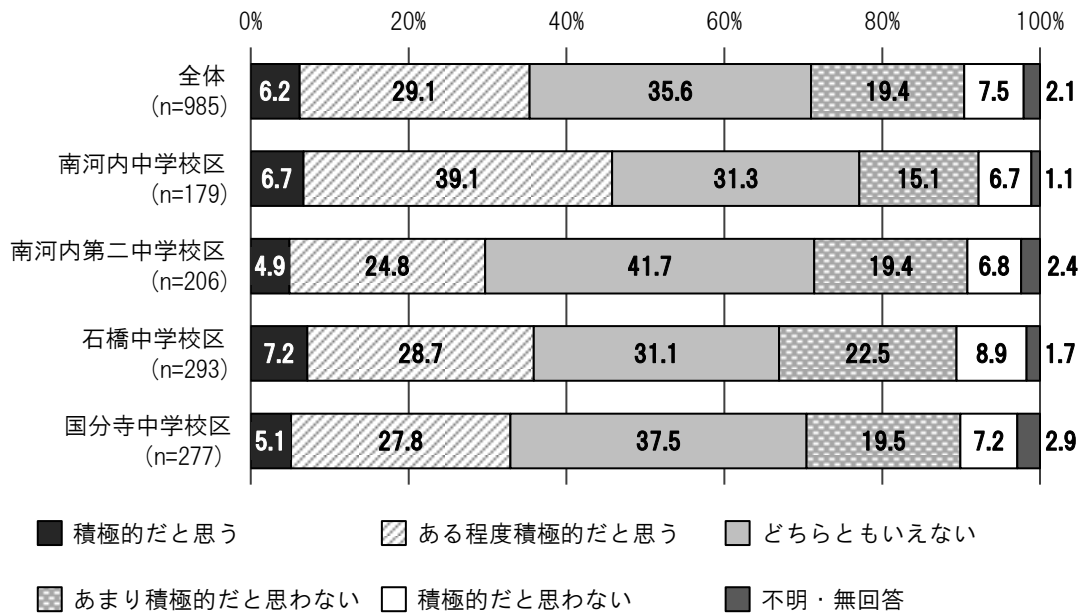
【地域の助け合い/支え合いへの積極性・年代別】



《中学校区別》

中学校区別にみると、〈南河内中学校区〉では、「ある程度積極的だと思う」が 39.1%と最も高く、また“積極的”が 45.8%と他の中学校区に比べて高い割合となっています。それ以外の中学校区では、「どちらともいえない」が最も高く、次いで「ある程度積極的だと思う」となっています。

【地域の助け合い/支え合いへの積極性・中学校区別】

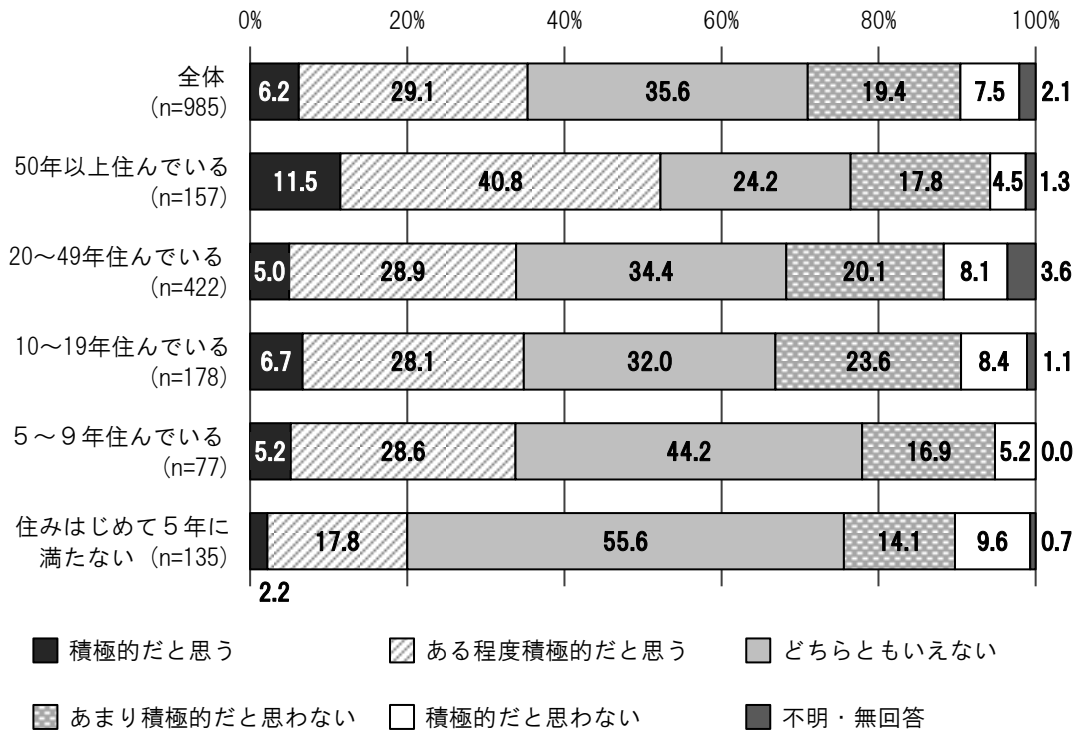


《居住年数別》

居住年数別にみると、〈50年以上住んでいる〉では「ある程度積極的だと思う」が40.8%と最も高く、また「積極的」が52.3%と他の居住年数に比べて高い割合となっています。

全体として、居住年数が長いほど「積極的」の割合が高くなる傾向となっています。

【地域の助け合い/支え合いへの積極性・居住年数別】

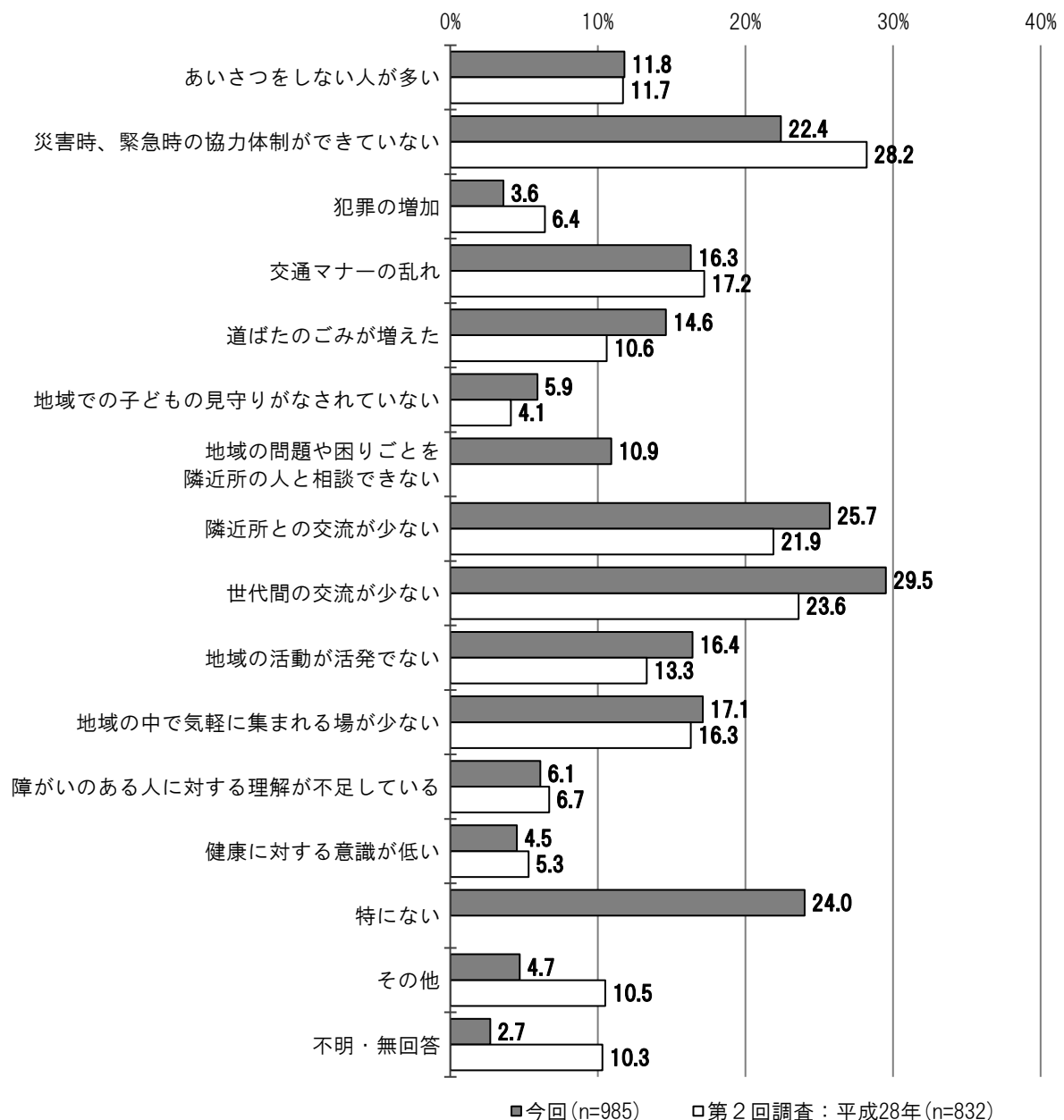


問 5 現在、あなたの住んでいる地域の中での問題点や不足していると思うものは何ですか。
(複数回答)

地域の中での問題点や不足していると思うものについてみると、「世代間の交流が少ない」が 29.5%と最も高く、次いで「隣近所との交流が少ない」が 25.7%、「特にない」が 24.0%となっています。

第2回調査では「地域の問題や困りごとを隣近所の人と相談できない」「特にない」の選択肢が無く単純な比較はできませんが、「災害時、緊急時の協力体制ができていない」「その他」がいずれも 5.8 ポイント減少している一方、「道ばたのごみが増えた」「世代間の交流が少ない」がそれぞれ 4.0 ポイント、5.9 ポイント増加しています。

【地域の中での問題点や不足していると思うこと・前回比較】



■今回 (n=985) □第2回調査：平成28年 (n=832)

《年代別》

年代別にみると、いずれの年代も「災害時、緊急時の協力体制ができていない」「隣近所との交流が少ない」「世代間の交流が少ない」「特にない」が高い傾向にあります。

<10歳代・20歳代>で「交通マナーの乱れ」が21.9%、<60歳代><70歳代以上>で「災害時、緊急時の協力体制ができていない」が2割台後半、<70歳代以上>で「隣近所との交流が少ない」が32.7%と、他の年代に比べて高くなっています。

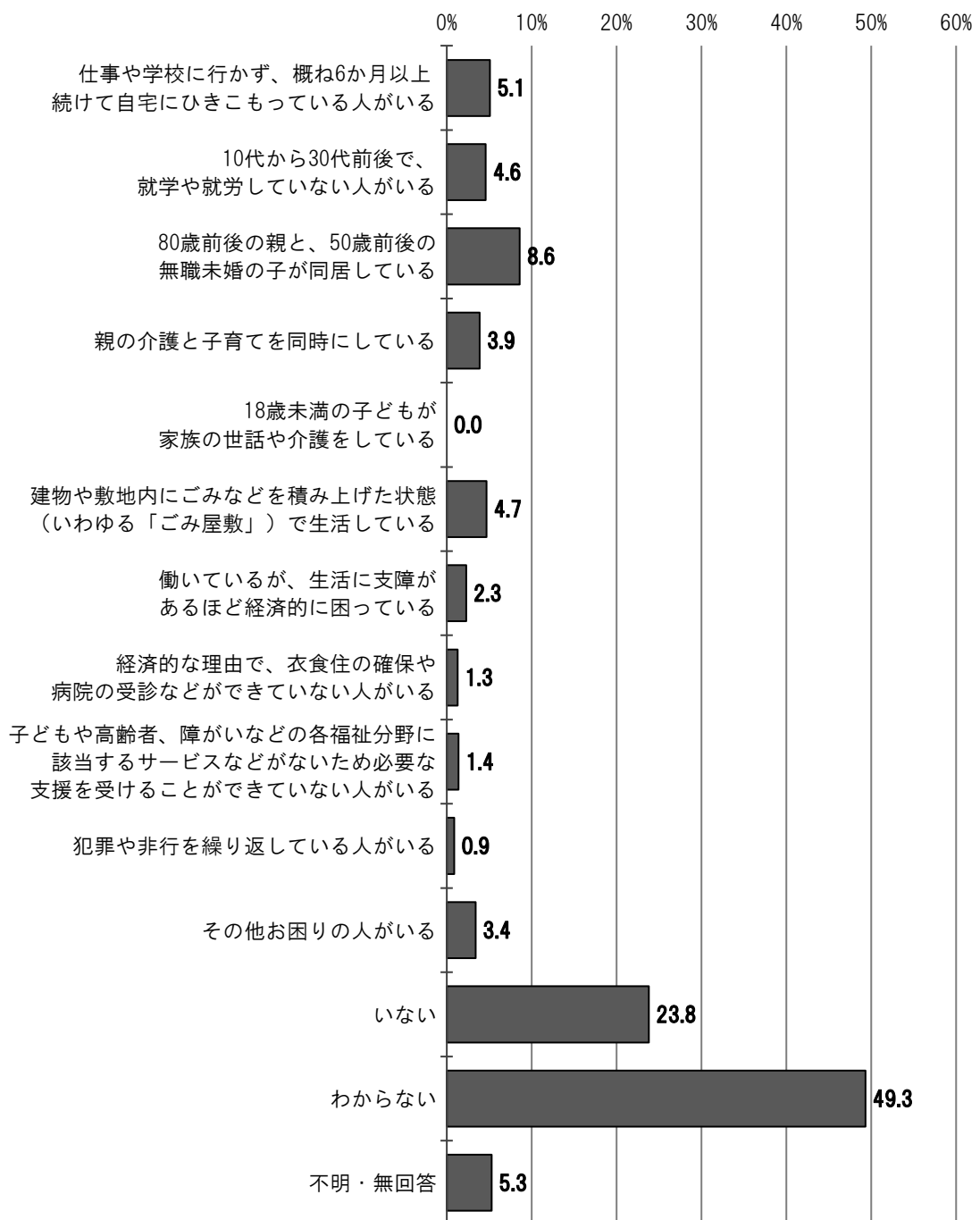
%		問5現在、あなたの住んでいる地域の中での問題点や不足していると思うものは何ですか。							
		n	あいさつをしない人が多い	災害時、緊急時の協力体制ができていない	犯罪の増加	交通マナーの乱れ	道ばたのごみが増えた	地域での子どもの見守りがなされていない	地域の問題や困りごとを隣近所の人と相談できない
年代	全体	985	11.8	22.4	3.6	16.3	14.6	5.9	10.9
	10・20歳代	192	7.8	15.6	3.1	21.9	14.1	5.2	8.3
	30歳代	153	10.5	20.3	2.6	18.3	12.4	4.6	13.1
	40歳代	162	11.7	19.1	3.7	16.7	14.2	9.9	11.1
	50歳代	145	11.7	24.1	5.5	16.6	18.6	5.5	11.0
	60歳代	161	14.9	29.8	4.3	14.3	14.3	5.6	8.1
	70歳代以上	156	14.7	28.2	2.6	9.6	14.7	4.5	15.4
年代	全体	985	25.7	29.5	16.4	17.1	6.1	4.5	24.0
	10・20歳代	192	22.9	25.0	16.1	18.8	2.6	3.1	27.6
	30歳代	153	24.8	26.8	9.8	14.4	5.2	3.9	27.5
	40歳代	162	22.8	30.2	14.2	14.2	9.3	2.5	24.1
	50歳代	145	26.2	31.7	20.0	17.2	6.9	6.2	26.2
	60歳代	161	24.8	30.4	16.8	15.5	6.8	6.2	22.4
	70歳代以上	156	32.7	34.6	22.4	21.8	5.1	3.8	15.4
年代	全体	985	4.7	2.7					
	10・20歳代	192	4.2	0.5					
	30歳代	153	8.5	3.3					
	40歳代	162	6.2	3.7					
	50歳代	145	3.4	2.8					
	60歳代	161	4.3	3.1					
	70歳代以上	156	1.9	3.2					
		n	隣近所との交流が少ない	世代間の交流が少ない	地域の活動が活発でない	地域の中で気軽に集まれる場が少ない	障がいのある人に対する理解が不足している	健康に対する意識が低い	特にない
		n	その他	不明・無回答					

**問 6 あなたの住んでいる地域の中に、以下のように見受けられる世帯はありますか。
(複数回答)**

地域の中の世帯の生活実態についてみると、「わからない」が 49.3%と最も高く、次いで高い「いない」との合計が 73.1%となっています。

課題の内容としては「80歳前後の親と、50歳前後の無職未婚の子が同居している」が 8.6%と最も高く、次いで「仕事や学校に行かず、概ね 6 か月以上続けて自宅にひきこもっている人がいる」が 5.1%となっています。

n=985



《年代別》

年代別にみると、いずれの年代も「いない」「わからない」が高くなっています。中でも、〈10 歳代・20 歳代〉〈30 歳代〉で「わからない」が5割半ばを超えており、他の年代に比べて高くなっています。

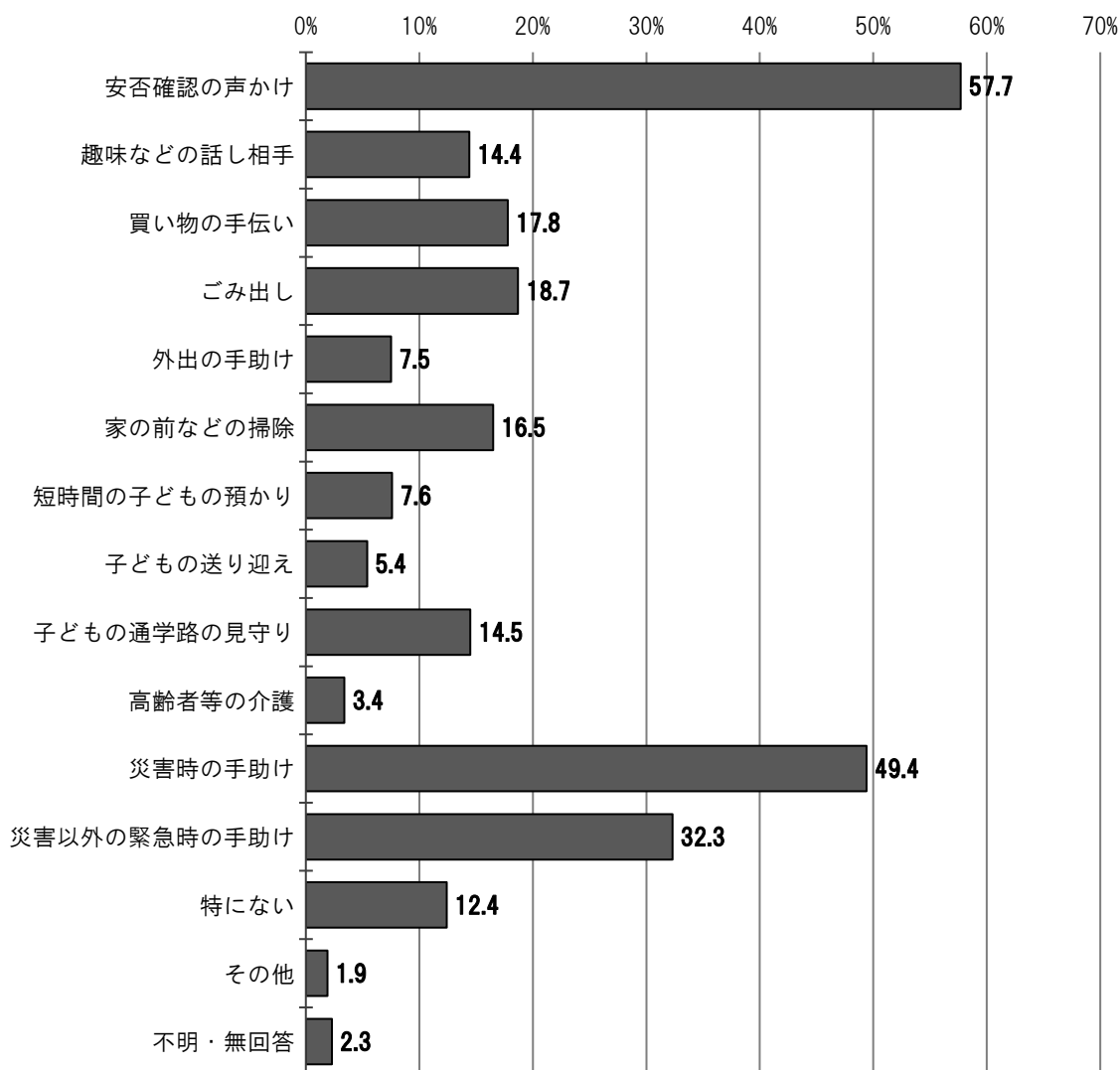
〈50 歳代〉で「80 歳前後の親と、50 歳前後の無職未婚の子が同居している」が 16.6%と、他の年代に比べて高くなっています。

%		問6あなたの住んでいる地域の中に、以下のように見受けられる世帯はありますか。							
		n	仕事や学校に行かず、概ね6か月以上続けて自宅にひきこもっている人がいる	10代から30代前後で、就学や就労していない人がいる	80歳前後の親と、50歳前後の無職未婚の子が同居している	親の介護と子育てを同時にしている	18歳未満の子どもが家族の世話や介護をしている	建物や敷地内にごみなどを積み上げた状態（いわゆる「ごみ屋敷」）で生活している	働いているが、生活に支障があるほど経済的に困っている
年代	全体	985	5.1	4.6	8.6	3.9	0.0	4.7	2.3
	10・20歳代	192	3.1	4.2	4.2	4.2	0.0	4.2	2.6
	30歳代	153	2.6	2.6	4.6	3.3	0.0	3.3	2.0
	40歳代	162	4.9	4.3	9.9	6.2	0.0	5.6	3.1
	50歳代	145	6.2	4.1	16.6	3.4	0.0	5.5	2.1
	60歳代	161	8.1	6.2	9.3	3.1	0.0	7.5	0.6
	70歳代以上	156	5.1	5.8	9.0	3.2	0.0	2.6	3.2
年代	全体	985	1.3	1.4	0.9	3.4	23.8	49.3	5.3
	10・20歳代	192	0.5	0.5	1.0	0.5	16.1	62.5	4.7
	30歳代	153	1.3	1.3	0.7	3.9	21.6	55.6	5.9
	40歳代	162	2.5	1.9	1.2	3.7	21.6	49.4	3.7
	50歳代	145	0.0	1.4	1.4	2.8	22.1	49.7	4.1
	60歳代	161	1.9	1.9	0.6	8.1	29.2	36.6	5.6
	70歳代以上	156	1.9	1.9	0.6	1.9	34.0	41.7	5.8

問 7 隣近所で、高齢者や障がいのある人の介助・介護や子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができますか。(複数回答)

あなたのできる、高齢者や障がいのある人の介助・介護や子育てなどで困っている家庭への手助けについてみると、「安否確認の声かけ」が 57.7%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が 49.4%、「災害以外の緊急時の手助け」が 32.3%となっています。

n=985



《年代別》

年代別にみると、いずれの年代も「安否確認の声かけ」「災害時の手助け」「災害以外の緊急時の手助け」が高くなっています。

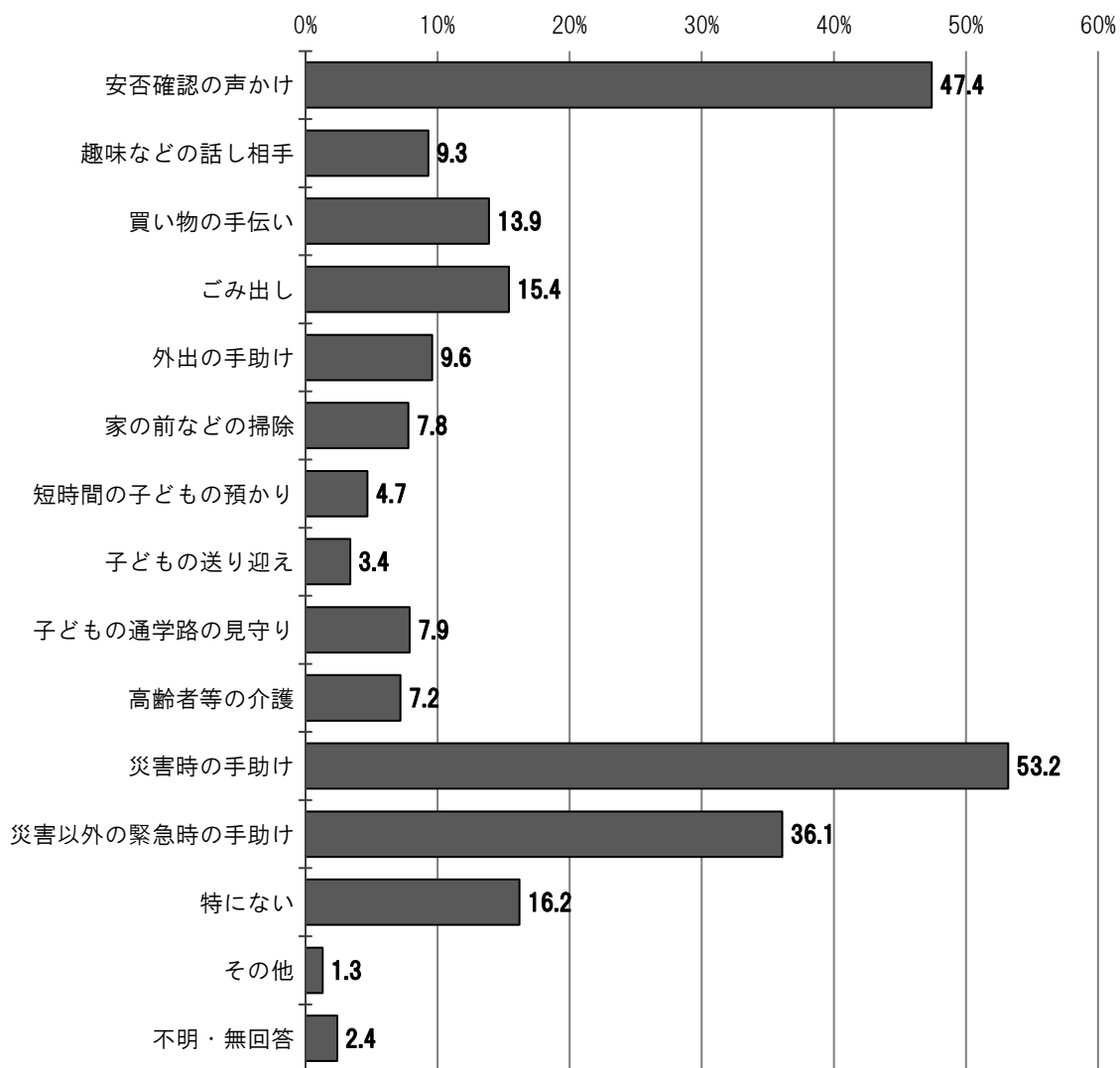
また、〈50歳代〉以上の年代で「ごみ出し」「家の前などの掃除」「買い物の手伝い」が、他の年代に比べて高くなっています。

%		問7隣近所で、高齢者や障がいのある人の介助・介護や子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができますか。							
		n	安否確認の声かけ	趣味などの話し相手	買い物の手伝い	ごみ出し	外出の手助け	家の前などの掃除	短時間の子どもの預かり
年代	全体	985	57.7	14.4	17.8	18.7	7.5	16.5	7.6
	10・20歳代	192	49.0	20.8	10.4	13.5	3.1	12.0	6.8
	30歳代	153	54.9	14.4	13.7	14.4	3.9	13.1	11.8
	40歳代	162	61.1	9.3	17.3	13.0	4.9	9.3	8.6
	50歳代	145	57.9	10.3	21.4	19.3	6.9	20.7	8.3
	60歳代	161	66.5	13.7	22.4	22.4	11.8	20.5	6.2
	70歳代以上	156	58.3	14.7	24.4	31.4	15.4	26.3	5.1
		n	子どもの送り迎え	子どもの通学路の見守り	高齢者等の介護	災害時の手助け	災害以外の緊急時の手助け	特にない	その他
年代	全体	985	5.4	14.5	3.4	49.4	32.3	12.4	1.9
	10・20歳代	192	4.7	13.0	2.6	55.7	29.7	14.1	1.0
	30歳代	153	8.5	13.1	4.6	57.5	35.3	11.8	0.7
	40歳代	162	4.3	13.6	1.9	46.9	30.2	11.7	1.9
	50歳代	145	6.9	15.2	3.4	51.7	35.2	11.0	3.4
	60歳代	161	3.1	18.6	5.0	47.8	36.6	10.6	3.1
	70歳代以上	156	5.1	14.7	2.6	37.2	28.2	15.4	1.3
		n	不明・無回答						
年代	全体	985	2.3						
	10・20歳代	192	0.5						
	30歳代	153	2.0						
	40歳代	162	3.1						
	50歳代	145	2.1						
	60歳代	161	1.9						
	70歳代以上	156	5.1						

問 8 あなたが将来日常生活で困ることがあった場合、隣近所の人にどのような手助けをしてもらいたいと思いますか。
(複数回答)

将来隣近所の人にしてもらいたい手助けについてみると、「災害時の手助け」が 53.2%と最も高く、次いで「安否確認の声かけ」が 47.4%、「災害以外の緊急時の手助け」が 36.1%となっています。

n=985



《年代別》

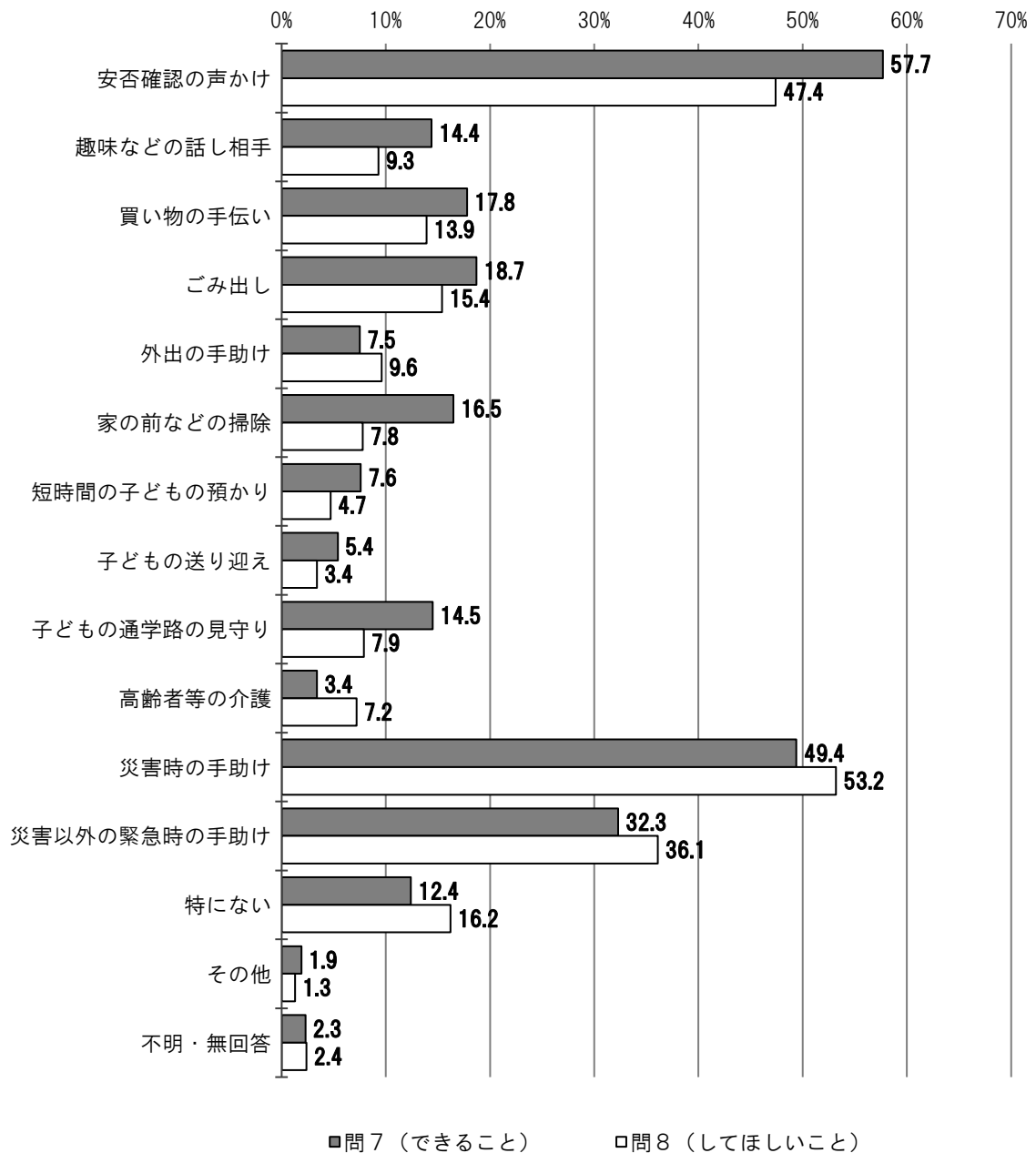
年代別にみると、いずれの年代も「安否確認の声かけ」「災害時の手助け」「災害以外の緊急時の手助け」が高くなっています。

また、〈50 歳代〉以上の年代で「買い物の手伝い」「ごみ出し」「外出の手助け」、〈10 歳代・20 歳代〉〈30 歳代〉で「子どもの通学路の見守り」が、他の年代に比べて高くなっています。

%		問8あなたが将来日常生活で困ることがあった場合、隣近所の人にどのような手助けをしてもらいたいと思いますか。								
		n	安否確認の声かけ	趣味などの話し相手	買い物の手伝い	ごみ出し	外出の手助け	家の前などの掃除	短時間の子どもの預かり	
年代	全体	985	47.4	9.3	13.9	15.4	9.6	7.8	4.7	
	10・20歳代	192	40.6	14.1	10.9	8.3	6.3	6.3	7.8	
	30歳代	153	43.8	11.1	9.8	9.8	5.9	5.2	15.0	
	40歳代	162	46.3	4.3	9.9	9.9	6.2	4.9	3.1	
	50歳代	145	51.7	6.9	15.9	18.6	12.4	7.6	0.0	
	60歳代	161	53.4	9.3	17.4	21.7	13.0	12.4	0.6	
	70歳代以上	156	51.3	8.3	21.2	23.7	16.0	10.9	1.3	
		n	子どもの送り迎え	子どもの通学路の見守り	高齢者等の介護	災害時の手助け	災害以外の緊急時の手助け	特にない	その他	
年代	全体	985	3.4	7.9	7.2	53.2	36.1	16.2	1.3	
	10・20歳代	192	3.6	16.7	7.8	58.9	34.4	17.2	1.6	
	30歳代	153	7.8	18.3	5.2	59.5	37.3	13.1	0.7	
	40歳代	162	5.6	6.2	5.6	62.3	38.3	13.0	1.9	
	50歳代	145	0.7	2.1	7.6	51.7	37.2	18.6	1.4	
	60歳代	161	0.0	1.2	8.7	47.8	37.9	16.8	1.9	
	70歳代以上	156	1.9	1.9	7.7	40.4	33.3	18.6	0.6	
		n	不明・無回答							
年代	全体	985	2.4							
	10・20歳代	192	0.5							
	30歳代	153	2.6							
	40歳代	162	1.9							
	50歳代	145	2.1							
	60歳代	161	3.7							
	70歳代以上	156	4.5							

《問7(どのような手助けができると思うか) と 問8(どのような手助けをしてもらいたいと思うか) の比較》

困りごとに対する近所での手助けについて、問7のできることと問8のしてもらいたいと思うことを比較すると、「外出の手助け」「高齢者等の介護」「災害時の手助け」「災害以外の緊急時の手助け」について、問8(してほしいこと)での回答割合が問7(できること)を上回っています。

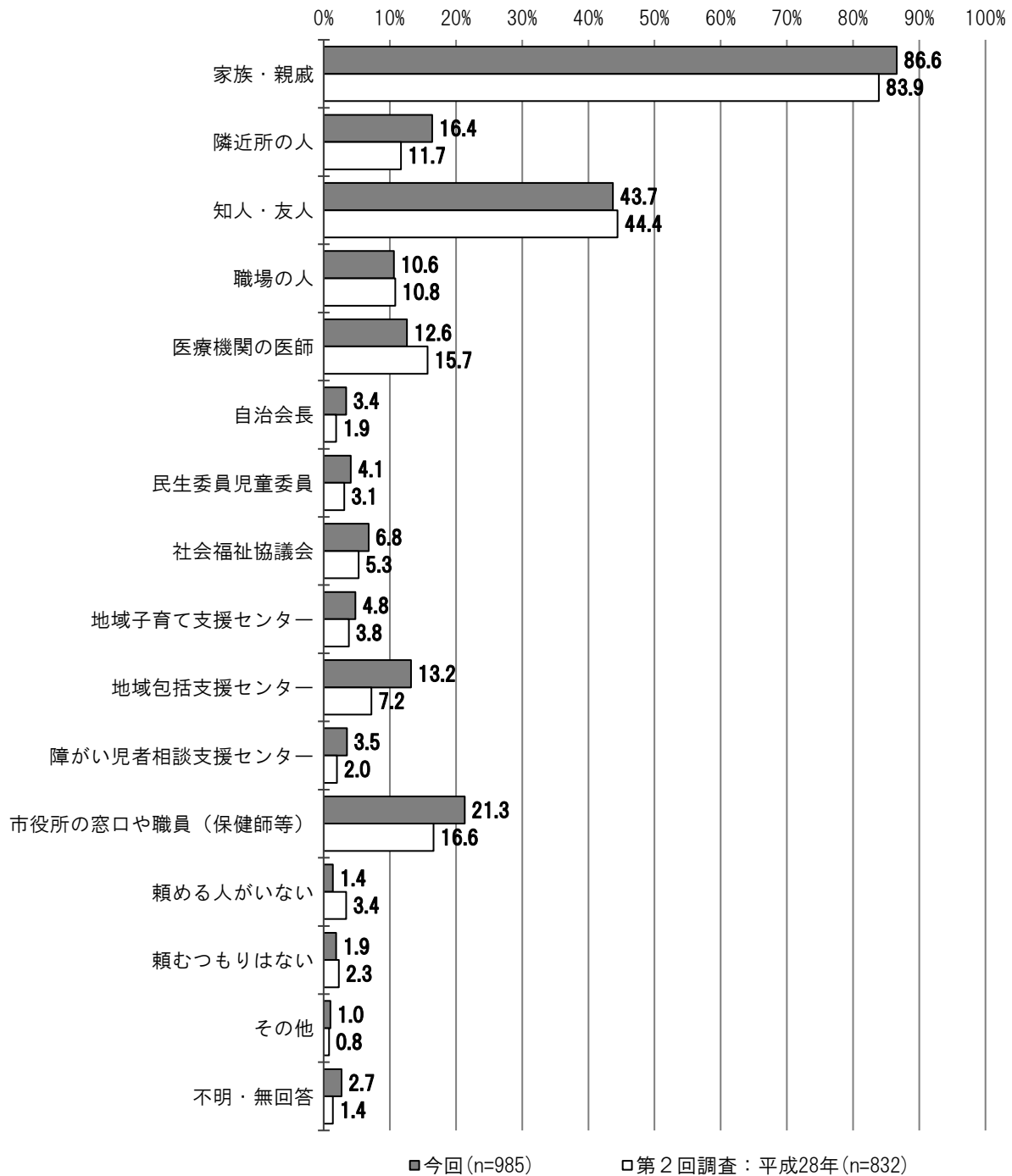


問9 あなたは、暮らしの中で相談や手助けが必要なとき誰に頼みたいと思いますか。
(複数回答)

暮らしの中で相談や手助けを頼みたい人についてみると、「家族・親戚」が86.6%と最も高く、次いで「知人・友人」が43.7%、「市役所の窓口や職員(保健師等)」が21.3%となっています。

第2回調査と比較すると、「地域包括支援センター」「市役所の窓口や職員(保健師等)」がやや増加しています。

【暮らしの中で相談や手助けが必要なときに誰に頼みたいと思うか・前回比較】



《年代別》

年代別にみると、いずれの年代も「家族・親戚」「知人・友人」が高く、その中でも<10歳代・20歳代><30歳代>が、他の年代に比べて高くなっています。

また、<40歳代>以下の年代では「職場の人」「地域子育て支援センター」が、他の年代に比べて高くなっています。

一方で、<50歳代>以上の年代では「隣近所の人」「民生委員児童委員」「社会福祉協議会」「地域包括支援センター」が、他の年代に比べて高くなっています。

%		問9あなたは、暮らしの中で相談や手助けが必要なき誰に頼みたいと思いますか。							
		n	家族・親戚	隣近所の人	知人・友人	職場の人	医療機関の医師	自治会長	民生委員児童委員
年代	全体	985	86.6	16.4	43.7	10.6	12.6	3.4	4.1
	10・20歳代	192	93.2	10.9	58.3	15.6	12.0	0.0	1.0
	30歳代	153	92.8	9.8	57.5	19.0	11.1	1.3	2.0
	40歳代	162	82.7	9.3	48.8	13.0	13.0	1.2	1.9
	50歳代	145	84.8	16.6	37.9	11.0	12.4	4.1	3.4
	60歳代	161	84.5	23.6	32.3	3.1	11.2	8.1	5.6
	70歳代以上	156	81.4	29.5	25.0	1.9	16.0	5.8	10.9
		n	社会福祉協議会	地域子育て支援センター	地域包括支援センター	障がい児者相談支援センター	市役所の窓口や職員（保健師等）	頼める人がいない	頼むつもりはない
年代	全体	985	6.8	4.8	13.2	3.5	21.3	1.4	1.9
	10・20歳代	192	3.6	6.8	6.8	5.2	17.2	0.0	2.1
	30歳代	153	3.3	13.1	5.9	2.6	24.8	2.0	0.0
	40歳代	162	6.2	6.8	13.6	5.6	21.6	1.9	3.1
	50歳代	145	6.9	0.7	17.9	2.8	29.0	2.8	1.4
	60歳代	161	11.2	0.6	18.6	1.9	17.4	1.2	2.5
	70歳代以上	156	10.9	0.6	18.6	2.6	21.8	1.3	1.9
		n	その他	不明・無回答					
年代	全体	985	1.0	2.7					
	10・20歳代	192	0.0	0.5					
	30歳代	153	1.3	2.0					
	40歳代	162	2.5	3.7					
	50歳代	145	0.7	2.8					
	60歳代	161	1.2	1.9					
	70歳代以上	156	0.6	4.5					

《中学校区別》

中学校区別にみると、概ね同様の結果となっていますが、〈南河内第二〉〈国分寺〉で「市役所の窓口や職員(保健師等)」が2割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。

%		問9あなたは、暮らしの中で相談や手助けが必要なとき誰に頼みたいと思いますか。							
		n	家族・親戚	隣近所の人	知人・友人	職場の人	医療機関の医師	自治会長	民生委員児童委員
中学校区	全体	985	86.6	16.4	43.7	10.6	12.6	3.4	4.1
	南河内	179	87.2	21.2	41.9	10.1	11.7	5.0	6.1
	南河内第二	206	86.9	15.5	46.1	11.2	13.6	1.5	3.4
	石橋	293	88.1	16.7	44.0	12.3	14.3	3.8	3.4
	国分寺	277	86.3	14.4	42.6	9.4	10.5	3.2	4.0
		n	社会福祉協議会	地域子育て支援センター	地域包括支援センター	障がい児者相談支援センター	市役所の窓口や職員(保健師等)	頼める人がいない	頼むつもりはない
中学校区	全体	985	6.8	4.8	13.2	3.5	21.3	1.4	1.9
	南河内	179	9.5	3.4	10.6	2.2	17.9	0.0	1.1
	南河内第二	206	7.8	5.3	13.6	4.4	27.2	1.9	1.5
	石橋	293	6.5	4.8	14.7	3.8	18.4	2.4	2.4
	国分寺	277	5.1	5.4	13.4	3.2	23.5	1.1	1.8
		n	その他	不明・無回答					
中学校区	全体	985	1.0	2.7					
	南河内	179	1.7	3.4					
	南河内第二	206	1.0	1.5					
	石橋	293	0.3	2.7					
	国分寺	277	1.4	2.2					

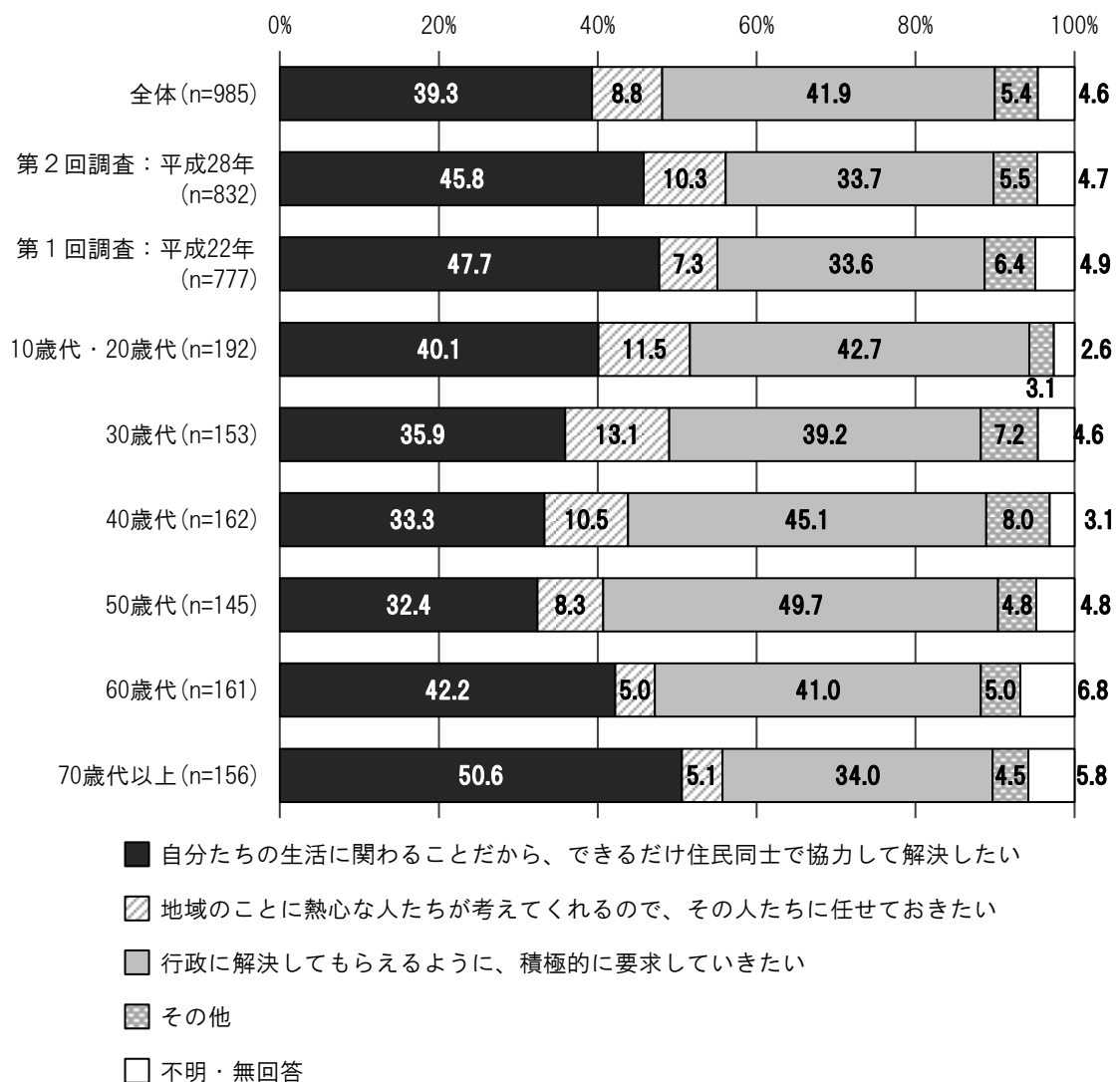
問 10 日常生活の中で起こる問題に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。
(単数回答)

日常生活での問題に対する解決方法についてみると、全体では「行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」が 41.9%と最も高く、次いで「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ住民同士で協力して解決したい」が 39.3%となっています。

過去の調査と比較すると、3回の調査を通して「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ住民同士で協力して解決したい」が一貫して減少している一方、「行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」が一貫して増加しています。

年代別にみると、<50 歳代>以下の年代では「行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」が最も高く、<60 歳代><70 歳代以上>では、「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ住民同士で協力して解決したい」が最も高くなっています。

【日常生活での問題に対する解決方法・前回比較・年代別】



(3) 地域活動やボランティア活動などについて

問 11 あなたは、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等について、取り組んでいますか。(単数回答)

地域や住民に対する各種の支援活動等についてみると、全体では「取り組んだことはない」が 39.9%と最も高く、次いで「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」が 21.0%、「現在、継続的に取り組んでいる」が 12.4%となっています。

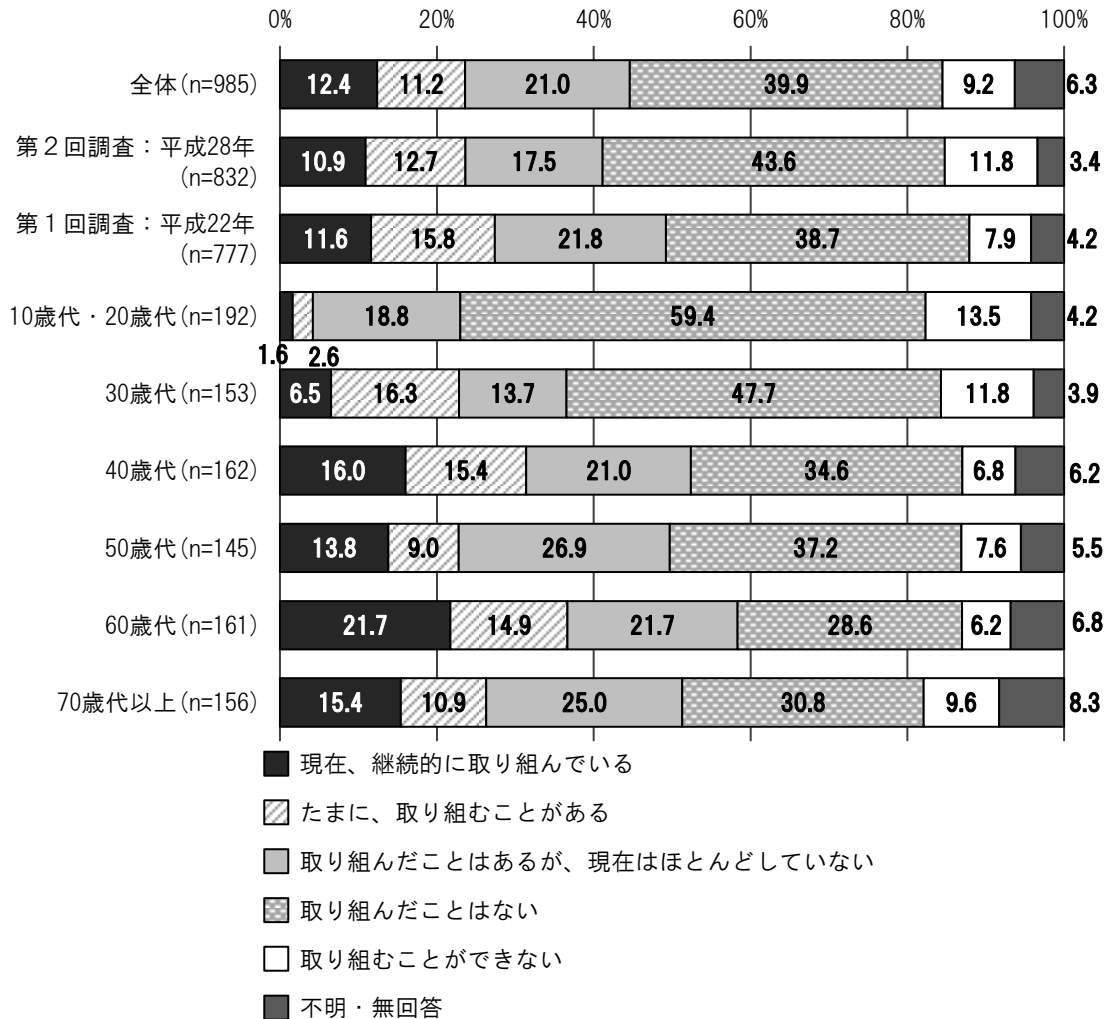
過去の調査と比較すると、第2回調査では取り組んでいる割合が減少しましたが、今回の調査ではわずかに「現在、継続的に取り組んでいる」の増加傾向がみられます。

年代別にみると、いずれの年代でも「取り組んだことはない」が最も高くなっています。

また、<10 歳代・20 歳代><30 歳代>で“取り組んだ経験がない”が“取り組んだ経験がある”を上回っており、<40 歳代>以上の年代で“取り組んだ経験がある”が“取り組んだ経験がない”を上回っています。

分析における “**取り組んだ経験がある**”とは「現在、継続的に取り組んでいる」「たまに、取り組むことがある」「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」の合計、
 “**取り組んだ経験がない**”とは「取り組んだことはない」「取り組むことができない」の合計です。

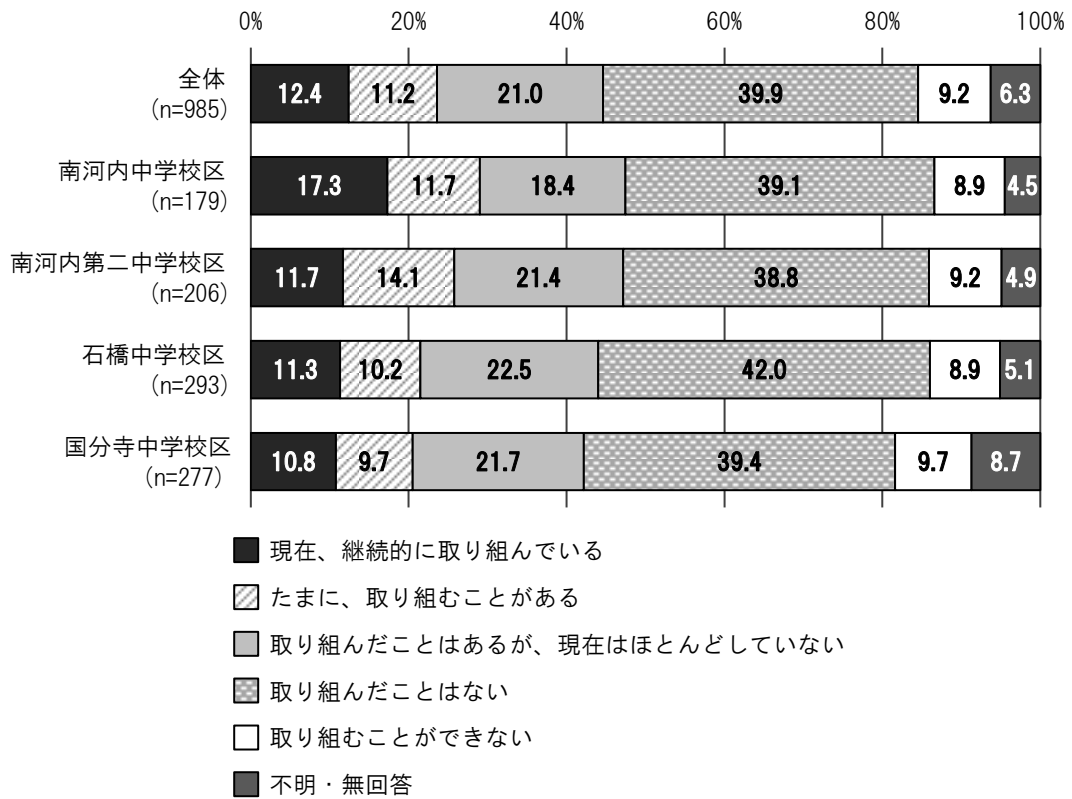
【各種支援活動・前回比較・年代別】



《中学校区別》

中学校区別についてみると、いずれの中学校区でも「取り組んだことはない」が最も高く、次いで「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」となっており、“取り組んだ経験がない”が“取り組んだ経験がある”を上回っています。

【各種支援活動・中学校区別】

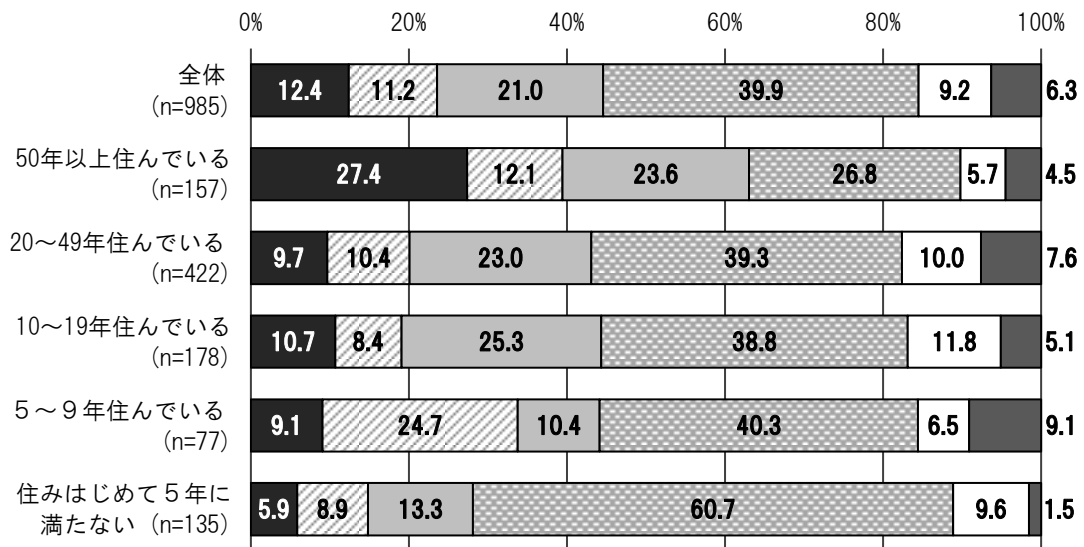


《居住年数別》

居住年数別にみると、〈50年以上住んでいる〉では、「現在、継続的に取り組んでいる」が最も高く、また“取り組んだ経験がある”が63.1%と、“取り組んだ経験がない”を上回っています。

一方で、〈住みはじめて5年に満たない〉では”取り組んだ経験がない“が70.3%と、他に比べて高くなっています。

【各種支援活動・居住年数別】



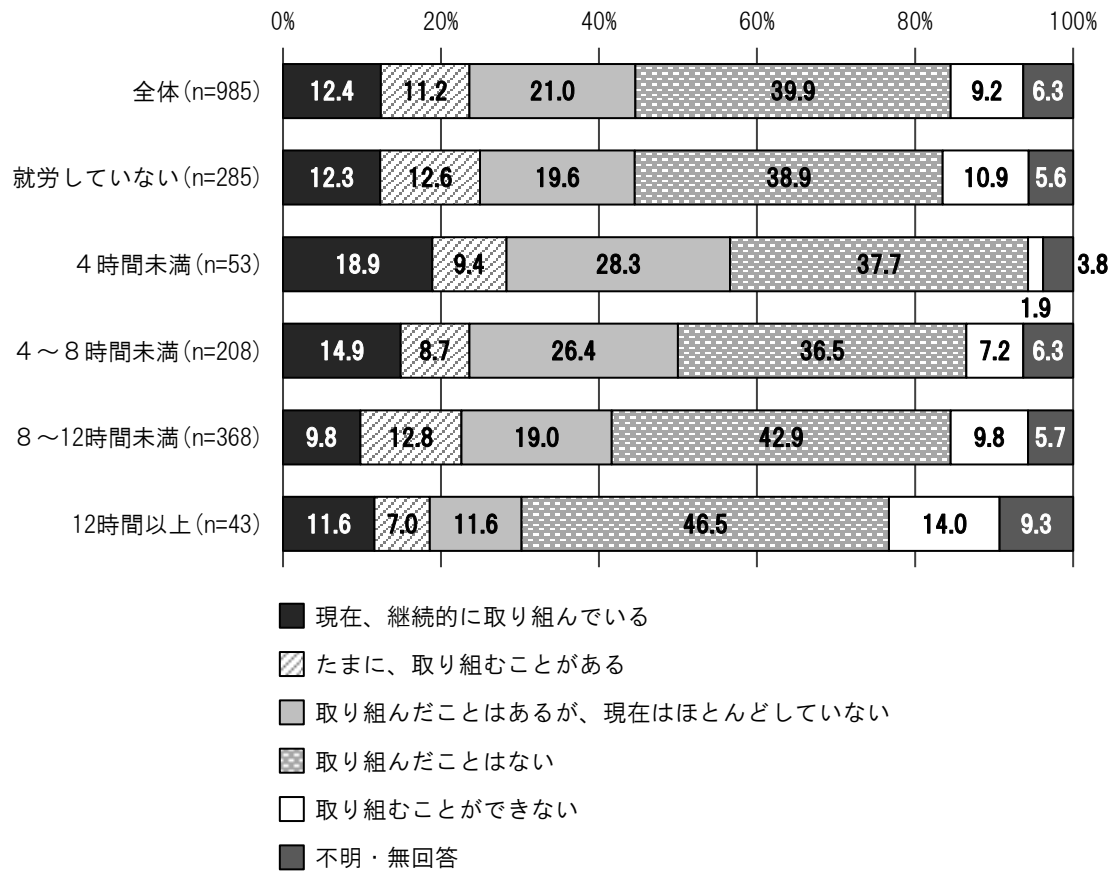
- 現在、継続的に取り組んでいる
- ▨ たまに、取り組むことがある
- 取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない
- ▨ 取り組んだことはない
- 取り組むことができない
- 不明・無回答

《就労時間別》

就労時間別にみると、〈就労していない〉では全体と同様の傾向となっています。

就労している区分の中では、就労時間が長いほど“取り組んだ経験がある”が低い傾向にあります。

【各種支援活動・就労時間別】



問 11 で「現在、継続的に取り組んでいる」「たまに、取り組むことがある」「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」を選んだ人におたずねします。

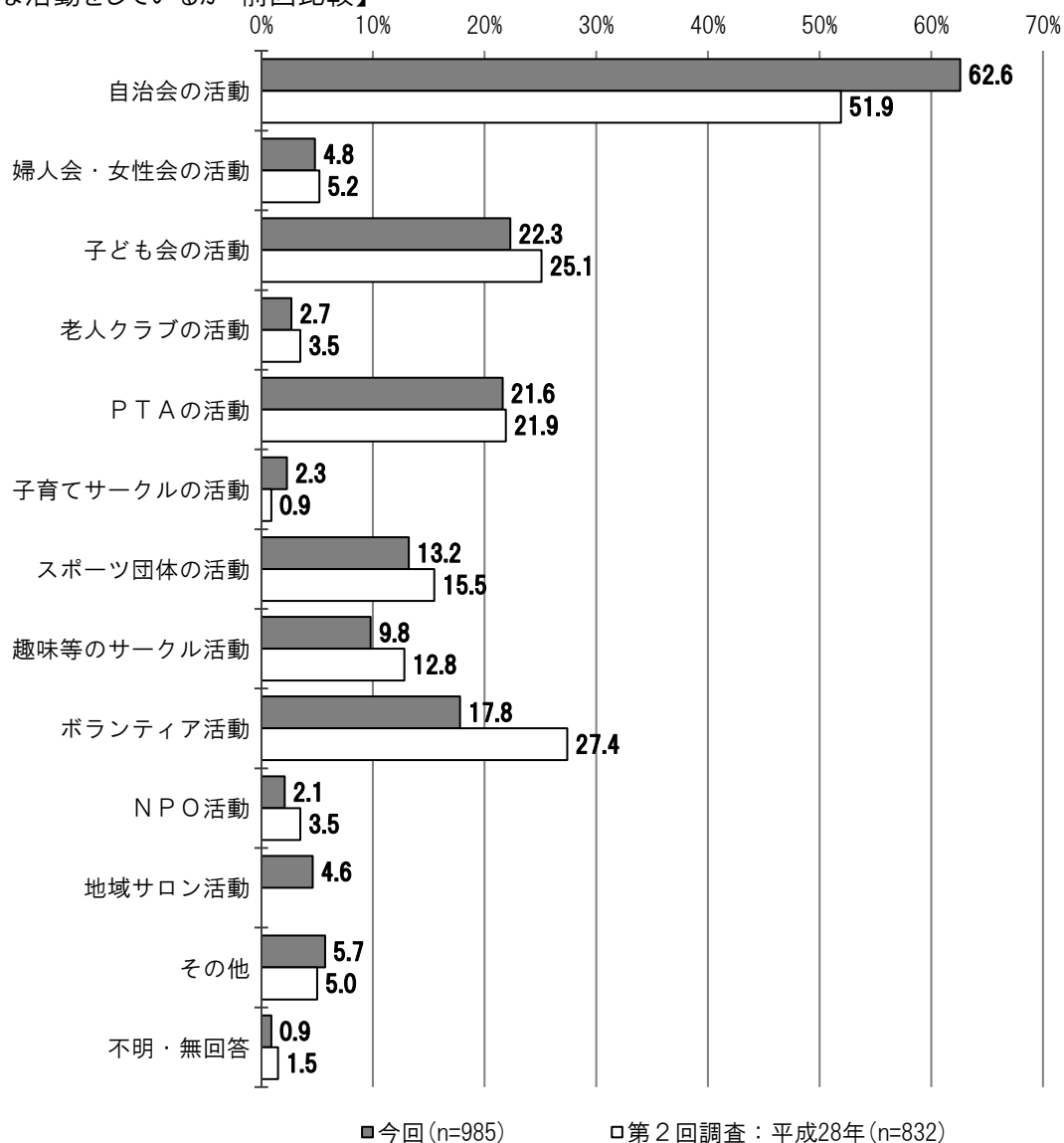
問 11-2 どのような活動をしていますか。

(複数回答)

現在取り組んでいる各種支援活動等についてみると、「自治会の活動」が 62.6%と最も高く、次いで「子ども会の活動」が 22.3%、「PTAの活動」が 21.6%となっています。

第2回調査では「地域サロン活動」の選択肢が無く単純な比較はできませんが、「自治会の活動」が 10.7 ポイント増加している一方、「ボランティア活動」が 9.6 ポイント減少しています。

【どのような活動をしているか・前回比較】



《年代別》

年代別にみると、〈40 歳代〉以上の年代で「自治会の活動」が6割を超えています。

また、〈30 歳代〉〈40 歳代〉〈50 歳代〉で「子ども会の活動」が3割台、〈40 歳代〉で「PTAの活動」が48.2%、〈10 歳代・20 歳代〉〈70 歳代以上〉で「ボランティア活動」が2割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。

%		問11-2 どのような活動をしていますか。							
		n	自治会の活動	婦人会・女性会の活動	子ども会の活動	老人クラブの活動	P T A の活動	子育てサークルの活動	スポーツ団体の活動
年代	全体	439	62.6	4.8	22.3	2.7	21.6	2.3	13.2
	10・20歳代	44	47.7	0.0	13.6	0.0	4.5	2.3	18.2
	30歳代	56	51.8	1.8	30.4	0.0	26.8	5.4	5.4
	40歳代	85	62.4	4.7	35.3	0.0	48.2	3.5	17.6
	50歳代	72	73.6	0.0	33.3	1.4	25.0	2.8	11.1
	60歳代	94	70.2	8.5	13.8	1.1	10.6	0.0	11.7
	70歳代以上	80	65.0	10.0	10.0	11.3	11.3	1.3	16.3
		n	趣味等のサークル活動	ボランティア活動	N P O 活動	地域サロン活動	その他	不明・無回答	
年代	全体	439	9.8	17.8	2.1	4.6	5.7	0.9	
	10・20歳代	44	4.5	29.5	6.8	0.0	4.5	0.0	
	30歳代	56	5.4	17.9	1.8	0.0	5.4	1.8	
	40歳代	85	2.4	15.3	1.2	0.0	7.1	0.0	
	50歳代	72	8.3	8.3	1.4	4.2	6.9	0.0	
	60歳代	94	16.0	18.1	1.1	3.2	7.4	0.0	
	70歳代以上	80	17.5	21.3	2.5	16.3	1.3	1.3	

《中学校区別》

中学校区別にみると、〈南河内〉では「地域サロン活動」が他の中学校区に比べてやや高い一方、「ボランティア活動」が低くなっています。

〈南河内第二〉では「自治会の活動」「子ども会の活動」が他の中学校区に比べてやや高い一方、「スポーツ団体の活動」がやや低くなっています。

〈石橋〉ではおおむね市全体の結果と同様の傾向となっています。

〈国分寺〉では「自治会の活動」が57.3%と、他の中学校区に比べてやや低くなっています。

%		問11-2 どのような活動をしていますか。							
		n	自治会の活動	婦人会・女性会の活動	子ども会の活動	老人クラブの活動	P T A の活動	子育てサークルの活動	スポーツ団体の活動
中学校区	全体	439	62.6	4.8	22.3	2.7	21.6	2.3	13.2
	南河内	85	67.1	8.2	23.5	2.4	20.0	0.0	16.5
	南河内第二	97	72.2	2.1	27.8	3.1	23.7	1.0	7.2
	石橋	129	61.2	7.8	20.2	3.9	19.4	3.1	15.5
	国分寺	117	57.3	1.7	20.5	0.9	25.6	4.3	14.5
		n	趣味等のサークル活動	ボランティア活動	N P O 活動	地域サロン活動	その他	不明・無回答	
中学校区	全体	439	9.8	17.8	2.1	4.6	5.7	0.9	
	南河内	85	9.4	12.9	1.2	9.4	5.9	0.0	
	南河内第二	97	13.4	19.6	2.1	2.1	2.1	0.0	
	石橋	129	6.2	18.6	3.9	2.3	7.0	0.8	
	国分寺	117	11.1	17.9	0.9	5.1	6.0	0.9	

問 11 で「取り組んだことはない」「取り組むことができない」を選んだ人におたずねします。

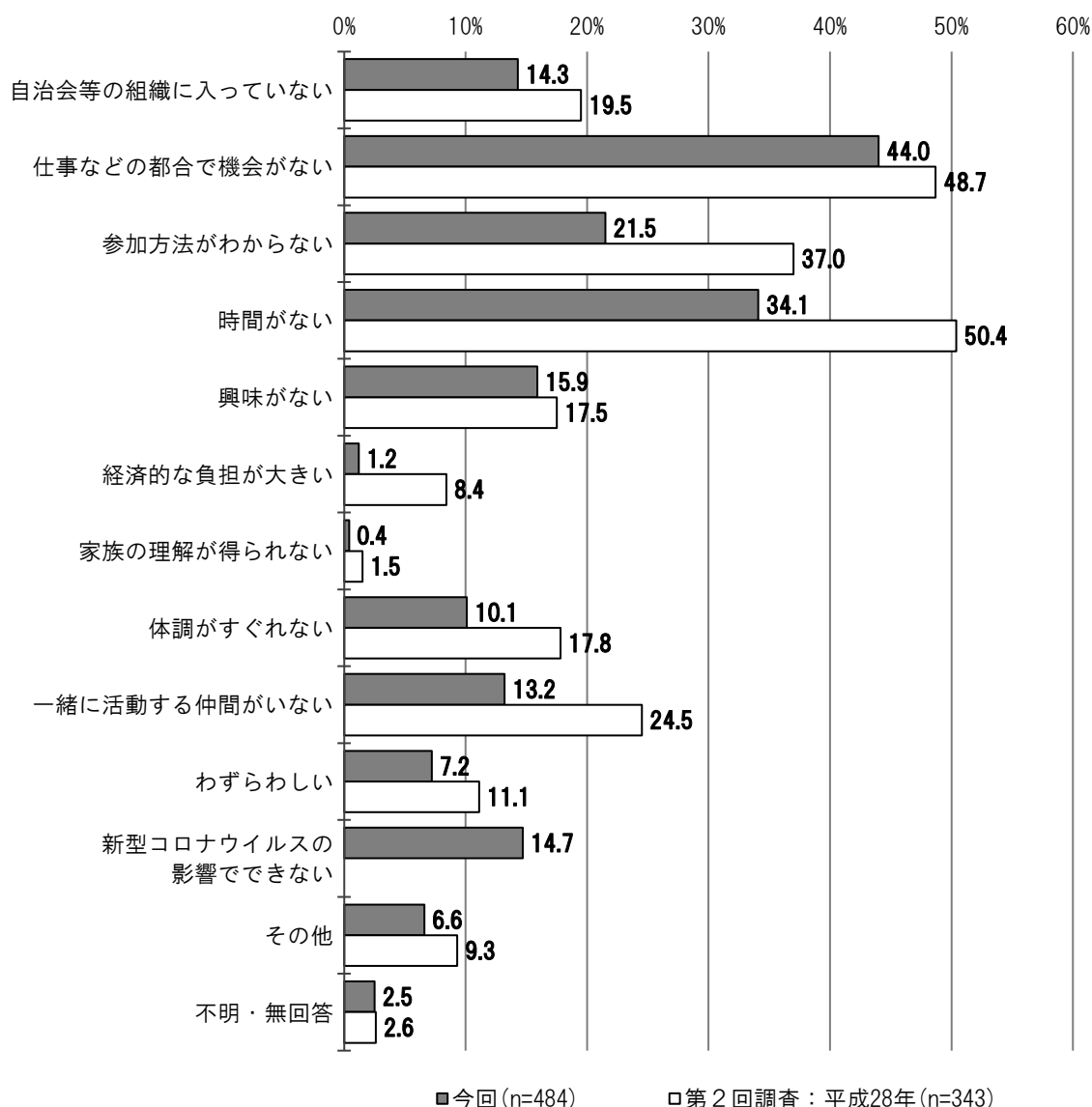
問 11-3 現在活動していない理由は何ですか。

(複数回答)

現在活動していない理由についてみると、「仕事などの都合で機会がない」が 44.0%と最も高く、次いで「時間がない」が 34.1%、「参加方法がわからない」が 21.5%となっています。

第2回調査では「新型コロナウイルスの影響でできない」の選択肢が無く単純な比較はできませんが、「参加方法がわからない」「時間がない」「一緒に活動する仲間がいない」が 10 ポイント以上減少している一方、今回調査からの新しい項目「新型コロナウイルスの影響でできない」が 14.7%となっています。

【現在活動していない理由・前回比較】



《年代別》

年代別にみると、〈60歳代〉以下の年代で「仕事などの都合で機会がない」「時間が無い」がいずれも3割を超えて〈70歳代以上〉に比べて高くなっています。

また〈10歳代・20歳代〉〈40歳代〉で「参加方法がわからない」が約3割と他の年代に比べて高くなっています。

%		問11-3 現在活動していない理由は何ですか。							
		n	自治会等の組織に入っていない	仕事などの都合で機会がない	参加方法がわからない	時間が無い	興味がない	経済的な負担が大きい	家族の理解が得られない
年代	全体	484	14.3	44.0	21.5	34.1	15.9	1.2	0.4
	10・20歳代	140	18.6	35.0	31.4	41.4	20.7	0.0	0.0
	30歳代	91	15.4	50.5	16.5	41.8	19.8	0.0	0.0
	40歳代	67	13.4	59.7	29.9	34.3	19.4	4.5	1.5
	50歳代	65	13.8	60.0	16.9	32.3	12.3	3.1	1.5
	60歳代	56	8.9	44.6	10.7	30.4	8.9	0.0	0.0
	70歳代以上	63	9.5	22.2	12.7	12.7	6.3	1.6	0.0
		n	体調がすぐれない	一緒に活動する仲間がいない	わずらわしい	新型コロナウイルスの影響でできない	その他	不明・無回答	
年代	全体	484	10.1	13.2	7.2	14.7	6.6	2.5	
	10・20歳代	140	3.6	15.0	2.9	11.4	7.1	0.0	
	30歳代	91	7.7	13.2	15.4	13.2	6.6	2.2	
	40歳代	67	6.0	9.0	3.0	14.9	1.5	1.5	
	50歳代	65	7.7	10.8	7.7	20.0	6.2	3.1	
	60歳代	56	8.9	12.5	5.4	10.7	10.7	5.4	
	70歳代以上	63	34.9	17.5	11.1	20.6	7.9	6.3	

問 12 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等に、どの程度取り組んでいきたいと考えていますか。 (単数回答)

今後の各種支援活動への取り組み意欲についてみると、全体では「機会があれば取り組んでもよい」が46.2%と最も高く、次いで「あまり取り組みたくない」が19.9%、「できるだけ取り組んでいきたい」が12.6%となっています。

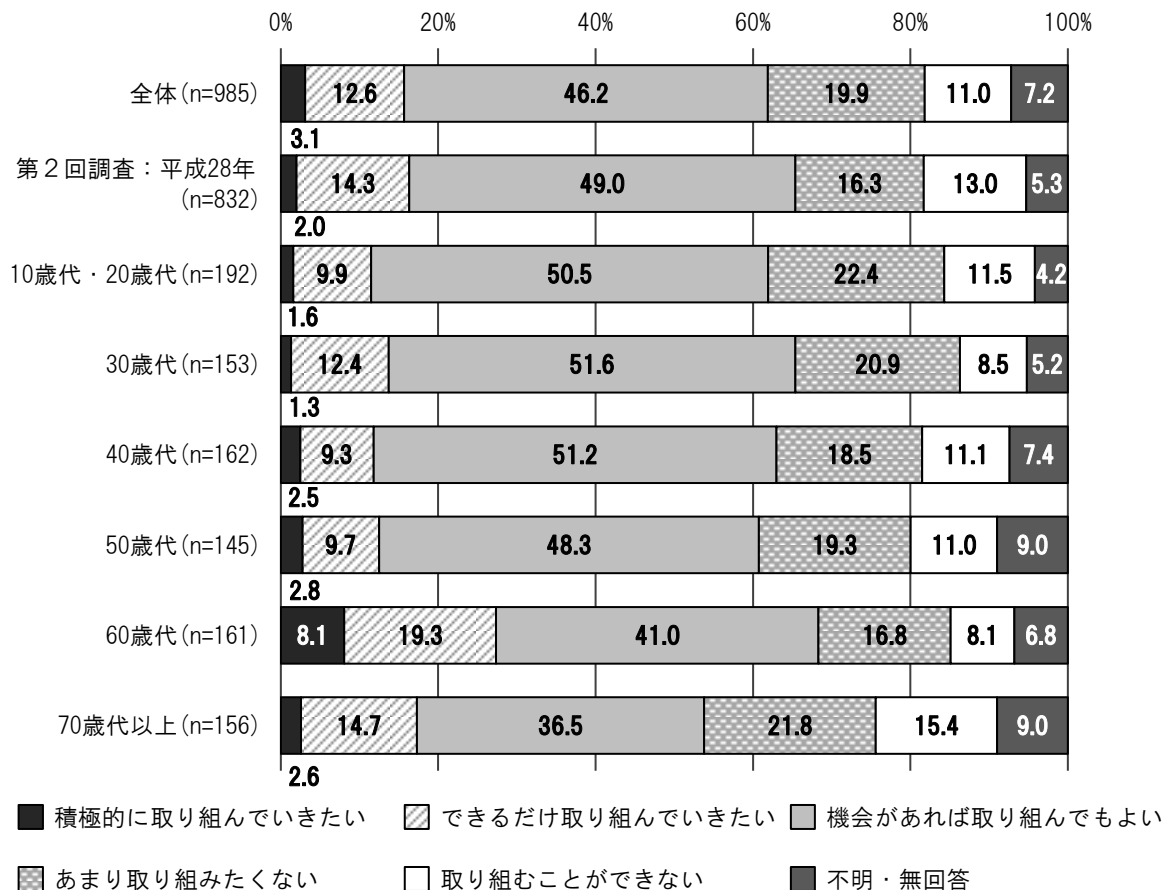
第2回調査と比較すると、概ね同様の結果となっています。

年代別にみると、いずれの年代でも「機会があれば取り組んでもよい」が最も高く、<40 歳代>以下では5割を超えています。

<60 歳代>で“取り組む”が68.4%と他の年代に比べて高い一方、<70 歳代以上>で“取り組む”が53.8%と他の年代に比べて低くなっています。

分析における “**取り組む**”とは「積極的に取り組んでいきたい」「できるだけ取り組んでいきたい」「機会があれば取り組んでもよい」の合計、
 “**取り組まない**”とは「あまり取り組みたくない」「取り組むことができない」の合計です。

【各種支援活動への意欲・前回比較・年代別】



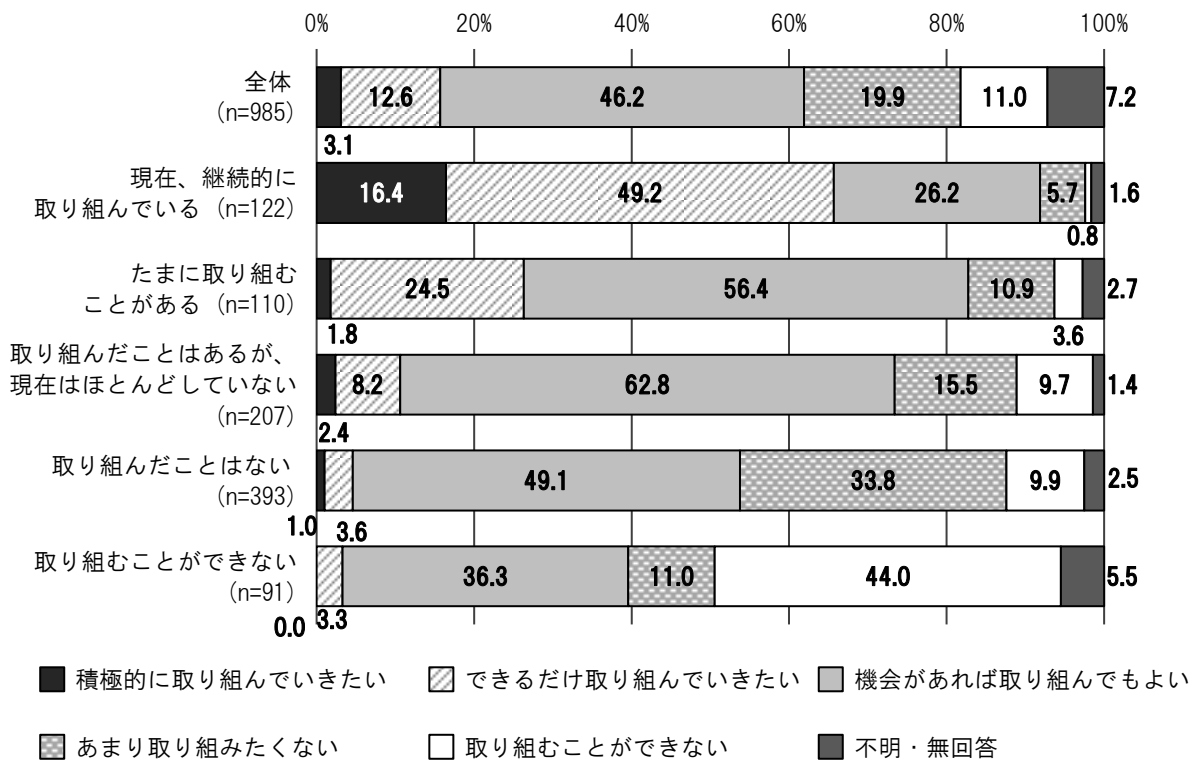
《取り組み頻度別》

取り組み頻度別にみると、〈現在、継続的に取り組んでいる〉では、「できるだけ取り組んでいきたい」が49.2%と最も高く、次いで「機会があれば取り組んでもよい」が26.2%となっています。また、“取り組む”でみると91.8%となっています。

〈たまに、取り組むことがある〉では、「機会があれば取り組んでもよい」が56.4%と最も高く、次いで「できるだけ取り組んでいきたい」が24.5%となっています。

〈取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない〉〈取り組んだことはない〉では、「機会があれば取り組んでもよい」が最も高く、次いで「あまり取り組みたくない」となっています。

【各種支援活動・取り組み頻度別】



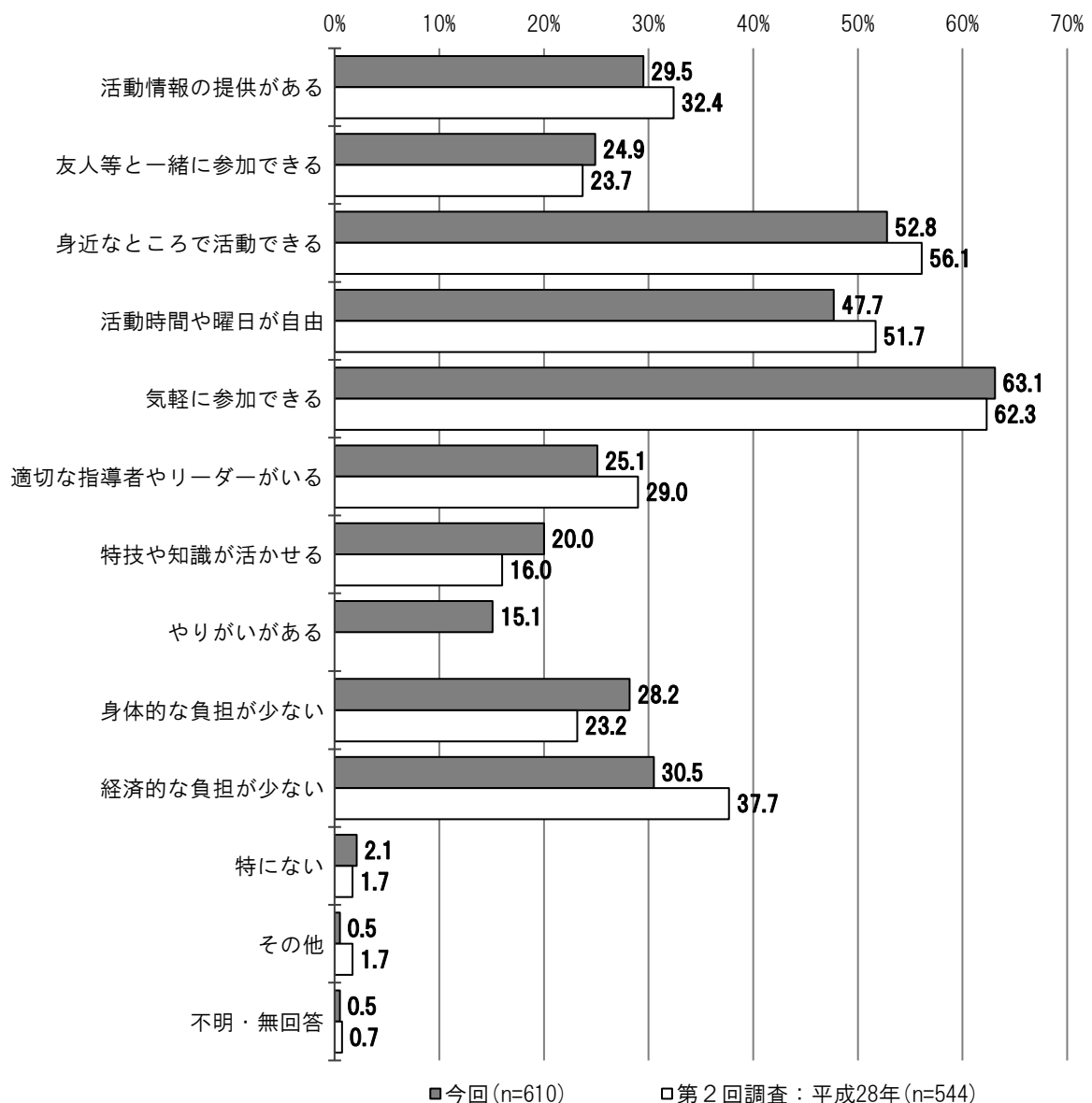
問 12 で「積極的に取り組んでいきたい」「できるだけ取り組んでいきたい」「機会があれば取り組んでもよい」を選んだ人におたずねします。

問 12-2 どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。 (複数回答)

活動・参加したいと思える条件についてみると、「気軽に参加できる」が 63.1%と最も高く、次いで「身近なところで活動できる」が 52.8%、「活動時間や曜日が自由」が 47.7%となっています。

第2回調査では「やりがいがある」の選択肢が無く単純な比較はできませんが、「経済的な負担が少ない」が 7.2 ポイント減少しています。

【どのような条件であれば活動・参加したいか・前回比較】



《年代別》

年代別にみると、いずれの年代も「身近なところで活動できる」「活動時間や曜日が自由」「気軽に参加できる」が高くなっています。また、

〈10歳代・20歳代〉〈50歳代〉〈60歳代〉で「活動情報の提供がある」が3割を超えています。

また、〈10歳代・20歳代〉では「友人と一緒に参加できる」「やりがいがある」も他の年代に比べて高くなっています。

〈30歳代〉〈40歳代〉〈60歳代〉〈70歳代以上〉で「身体的な負担が少ない」が3割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。

%		問12-2 どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。								
		n	活動情報の提供がある	友人等と一緒に参加できる	身近なところで活動できる	活動時間や曜日が自由	気軽に参加できる	適切な指導者やリーダーがいる	特技や知識を活かせる	
年代	全体	610	29.5	24.9	52.8	47.7	63.1	25.1	20.0	
	10・20歳代	119	37.0	38.7	46.2	45.4	71.4	21.0	17.6	
	30歳代	100	26.0	25.0	52.0	46.0	65.0	24.0	27.0	
	40歳代	102	26.5	21.6	52.9	63.7	67.6	30.4	15.7	
	50歳代	88	30.7	14.8	44.3	51.1	56.8	29.5	20.5	
	60歳代	110	30.0	16.4	60.9	41.8	59.1	17.3	23.6	
	70歳代以上	84	23.8	29.8	64.3	39.3	54.8	32.1	15.5	
		n	やりがいがある	身体的な負担が少ない	経済的な負担が少ない	特にない	その他	不明・無回答		
年代	全体	610	15.1	28.2	30.5	2.1	0.5	0.5		
	10・20歳代	119	26.1	16.8	31.1	0.8	0.0	0.0		
	30歳代	100	13.0	34.0	36.0	4.0	2.0	1.0		
	40歳代	102	15.7	30.4	35.3	0.0	1.0	0.0		
	50歳代	88	12.5	22.7	28.4	2.3	0.0	0.0		
	60歳代	110	9.1	30.9	27.3	3.6	0.0	0.0		
	70歳代以上	84	13.1	36.9	23.8	2.4	0.0	2.4		

(4) 福祉サービス・相談について

問 13 あなたは「福祉」に関心がありますか。

(単数回答)

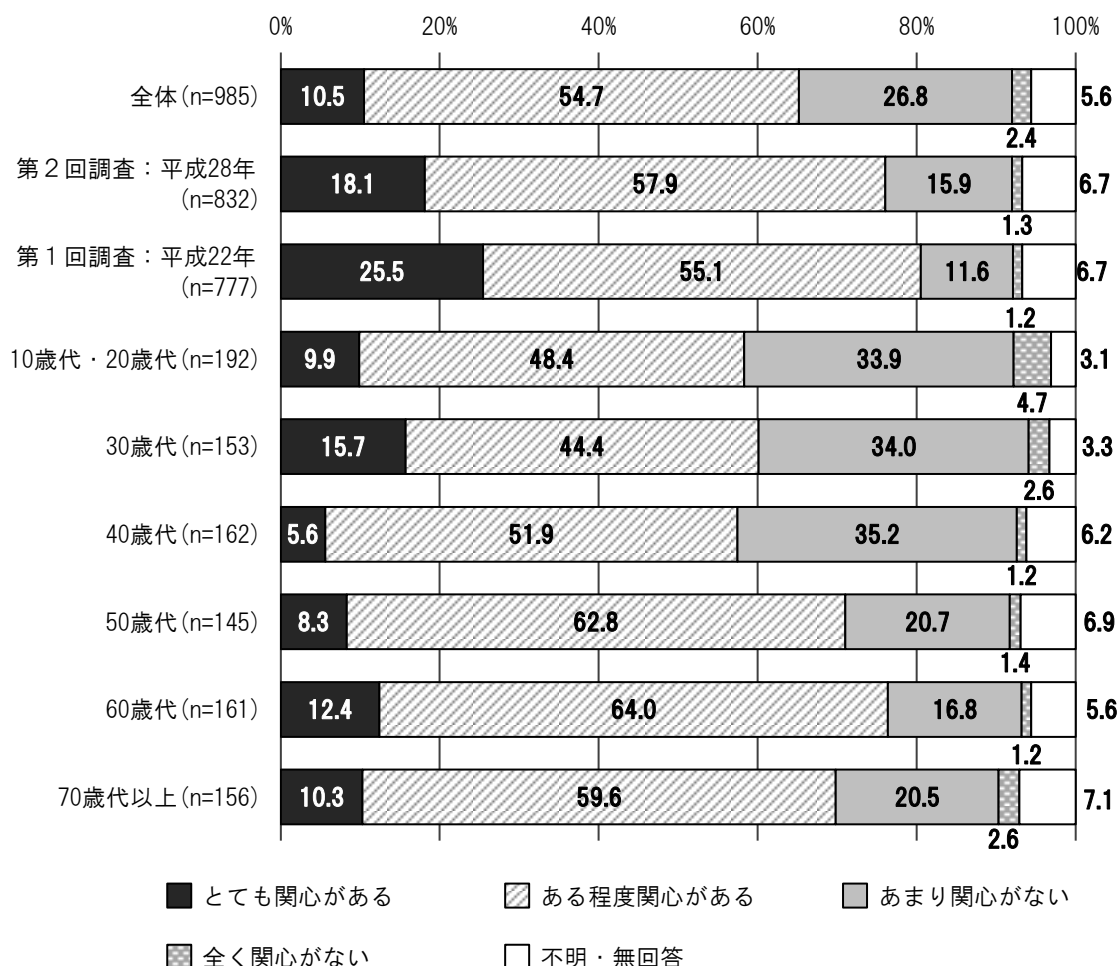
「福祉」への関心についてみると、全体では「ある程度関心がある」が 54.7%と最も高く、次いで「あまり関心がない」が 26.8%、「とても関心がある」が 10.5%となっています。

第1回・第2回の調査と比較すると、「とても関心がある」が一貫して減少している一方、「あまり関心がない」が一貫して増加しています。

年代別にみると、<50 歳代><60 歳代>で“関心がある”が7割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。

分析における “関心がある”とは「とても関心がある」「ある程度関心がある」の合計、
“関心がない”とは「あまり関心がない」「全く関心がない」の合計です。

【福祉への関心・前回比較・年代別】



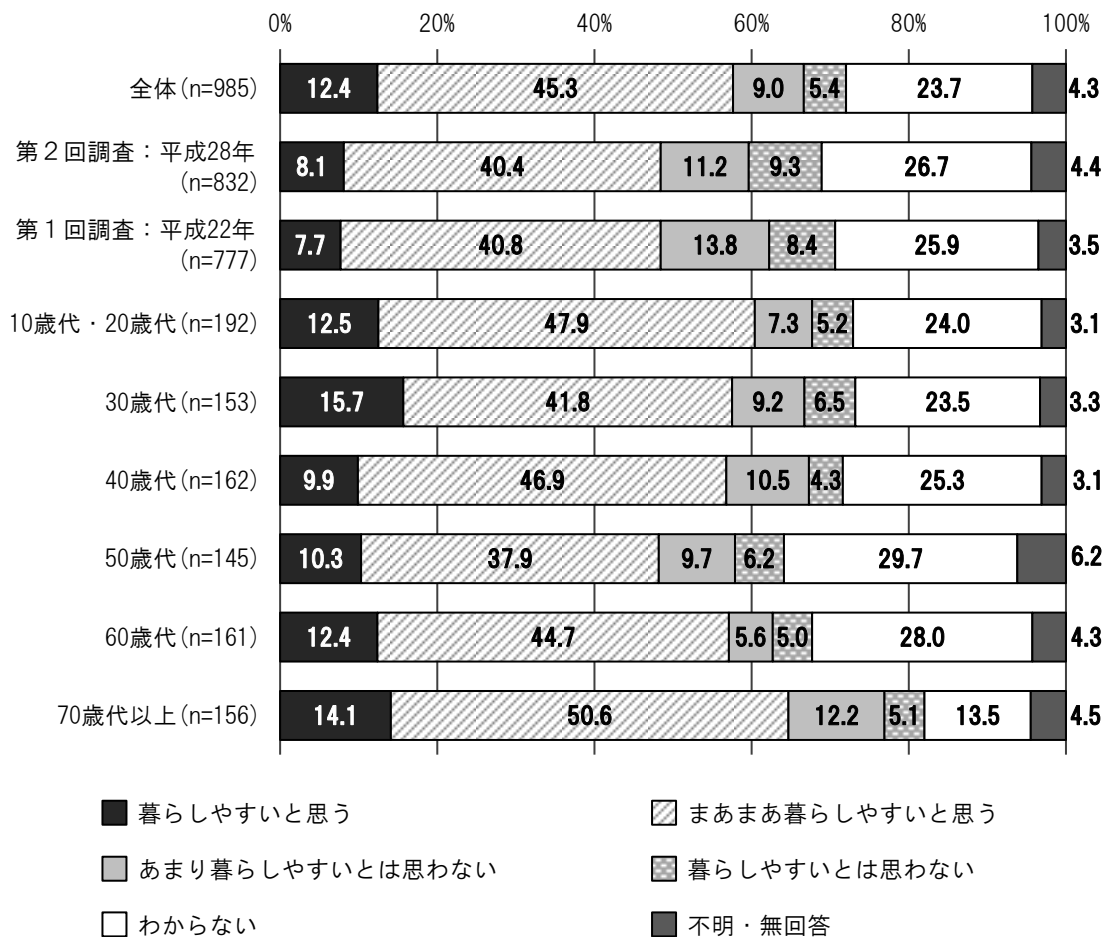
問 14 下野市は子どもや高齢者、障がいのある人などにとって暮らしやすいまちだと思いますか。
(単数回答)

子どもや高齢者、障がいのある人などにとってのまちの暮らしやすさについてみると、全体では「まあまあ暮らしやすいと思う」が45.3%と最も高く、次いで「わからない」が23.7%、「暮らしやすいと思う」が12.4%となっています。

過去の調査と比較すると、第1回、第2回調査では概ね横ばい傾向であったところから、今回の調査では「暮らしやすいと思う」が4.3ポイント、「まあまあ暮らしやすいと思う」が4.9ポイント増加しています。

年代別にみると、いずれの年代でも「まあまあ暮らしやすいと思う」が最も高くなっています。また、<10歳代・20歳代><70歳代以上>で“暮らしやすい”が6割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。

【まちの暮らしやすさ（子どもや高齢者・障がいのある人）
・前回比較・年代別】



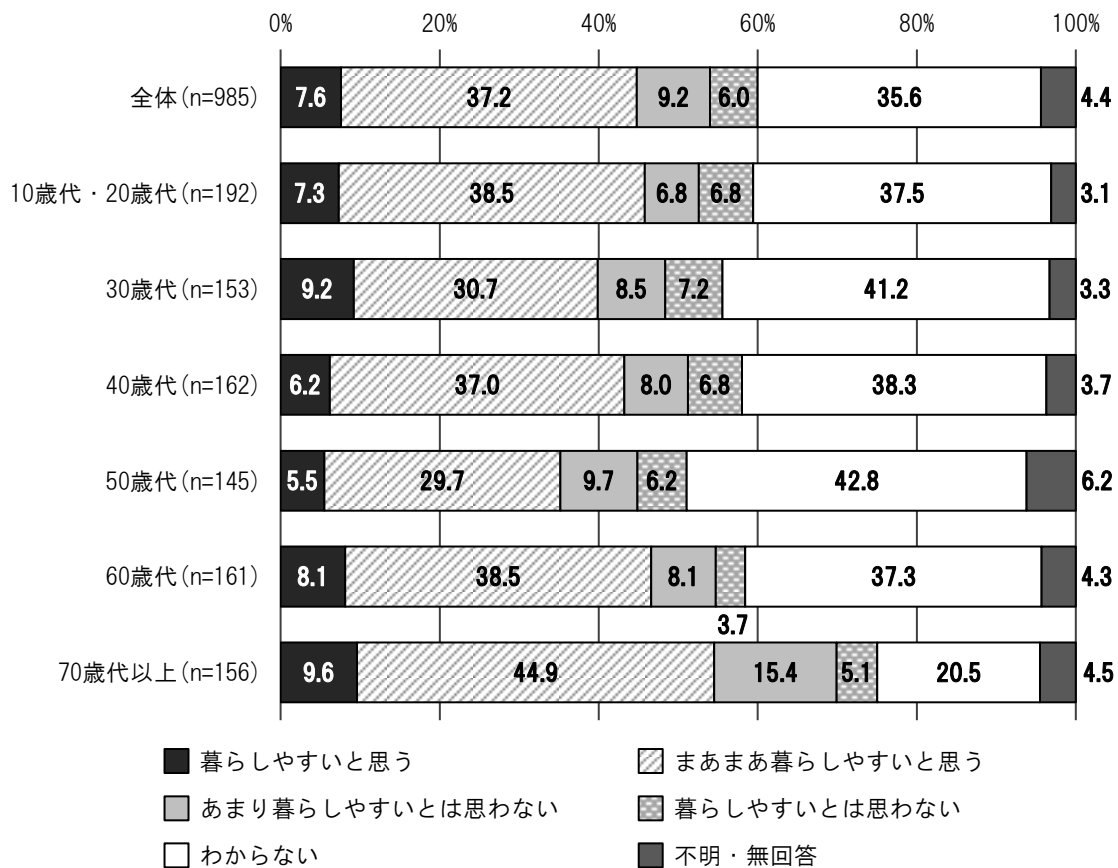
問 15 下野市は子どもや高齢者、障がいのある人などに限らず、様々な悩みや困難を抱える方にとって、相談がしやすいなど、暮らしやすいまちだと思いますか。 (単数回答)

様々な悩みや困難を抱える方にとってのまちの暮らしやすさについてみると、全体では「まあまあ暮らしやすいと思う」が 37.2%と最も高く、次いで「わからない」が 35.6%、「あまり暮らしやすいとは思わない」が 9.2%となっています。

年代別にみると、<10 歳代・20 歳代><60 歳代><70 歳代以上>では、「まあまあ暮らしやすいと思う」が最も高く、次いで「わからない」となっています。

<30 歳代><40 歳代><50 歳代>では、「わからない」が最も高く、次いで「まあまあ暮らしやすいと思う」となっています。

【まちの暮らしやすさ（様々な悩みや困難を抱える方）・年代別】

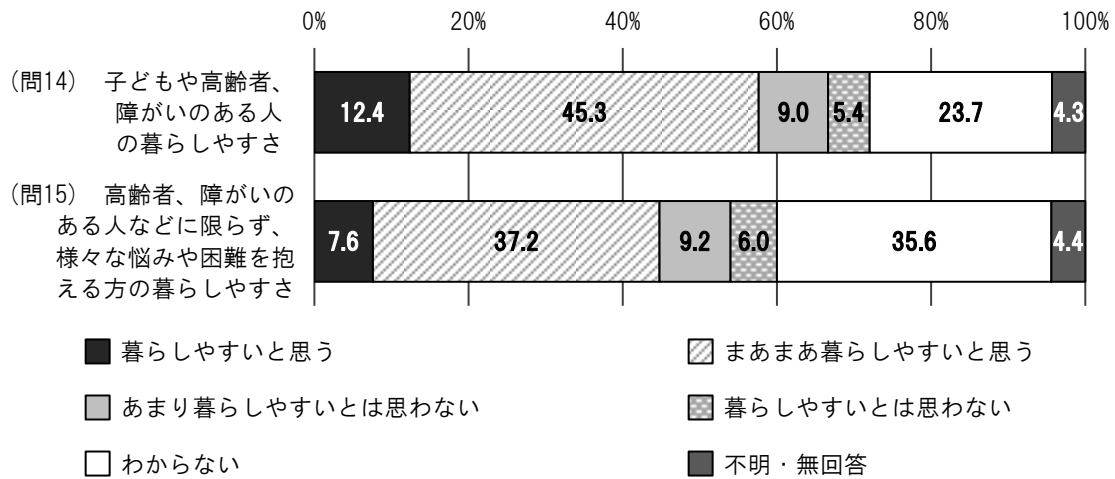


≪問 14(子どもや高齢者、障がいのある人の暮らしやすさ) と

問 15(高齢者、障がいのある人などに限らず、様々な悩みや困難を抱える方の暮らしやすさ) の比較≫

問 14(子どもや高齢者、障がいのある人)と問 15(高齢者、障がいのある人などに限らず、様々な悩みや困難を抱える方)のまちの暮らしやすさを比較してみると、問 14 で「暮らしやすいと思う」「まあまあ暮らしやすいと思う」が、問 15 で「わからない」が高い傾向にあります。

【まちの暮らしやすさ・問14 問15の比較】



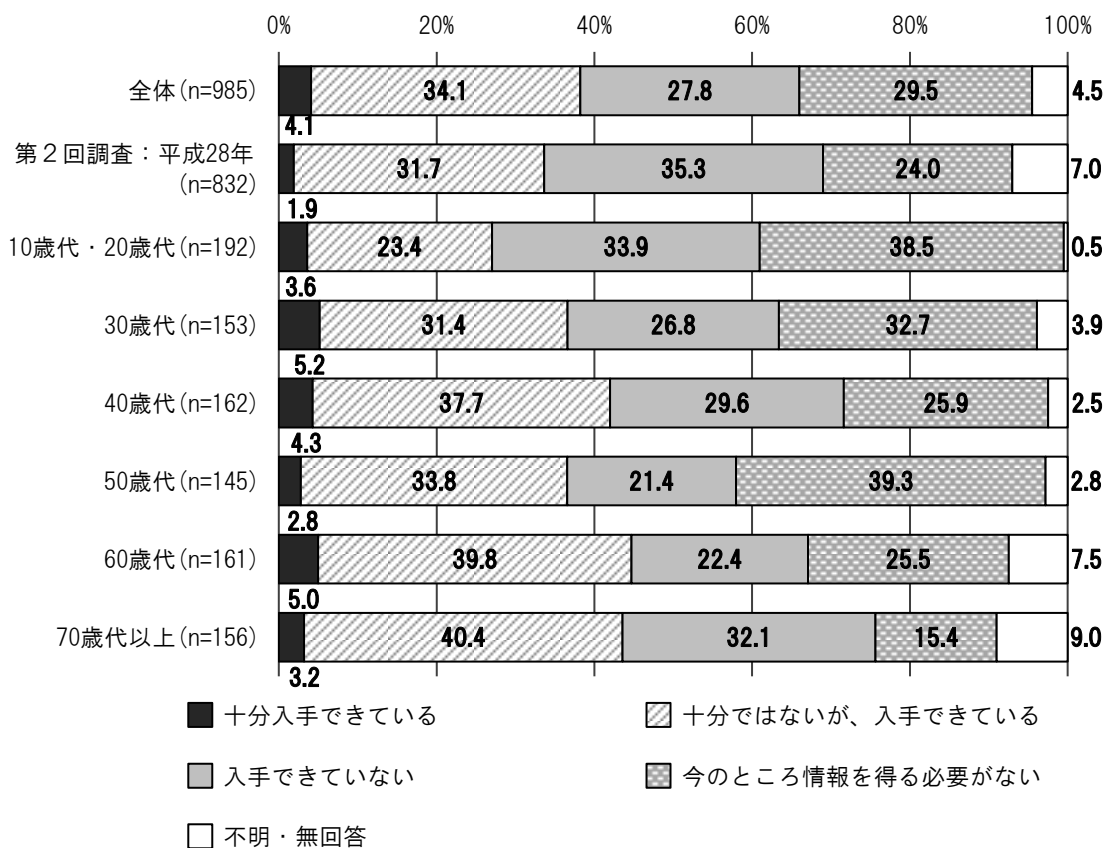
問 16 あなたは、自分に必要な「福祉サービス」の情報をどの程度入手できているとお考えですか。
(単数回答)

自分に必要な「福祉サービス」の情報の入手状況についてみると、全体では「十分ではないが、入手できている」が 34.1%と最も高く、次いで「今のところ情報を得る必要がない」が 29.5%、「入手できていない」が 27.8%となっています。

第2回調査と比較すると、「入手できていない」が 7.5 ポイント減少している一方、「今のところ情報を得る必要がない」が 5.5 ポイント増加しています。

年代別にみると、<10 歳代・20 歳代>で「十分入手で来ている」「十分ではないが入手出来ている」の合計が 27.0%となっており、他の年代が4割前後であるのと比較して低くなっています。

【福祉サービスの情報の入手状況・前回比較】



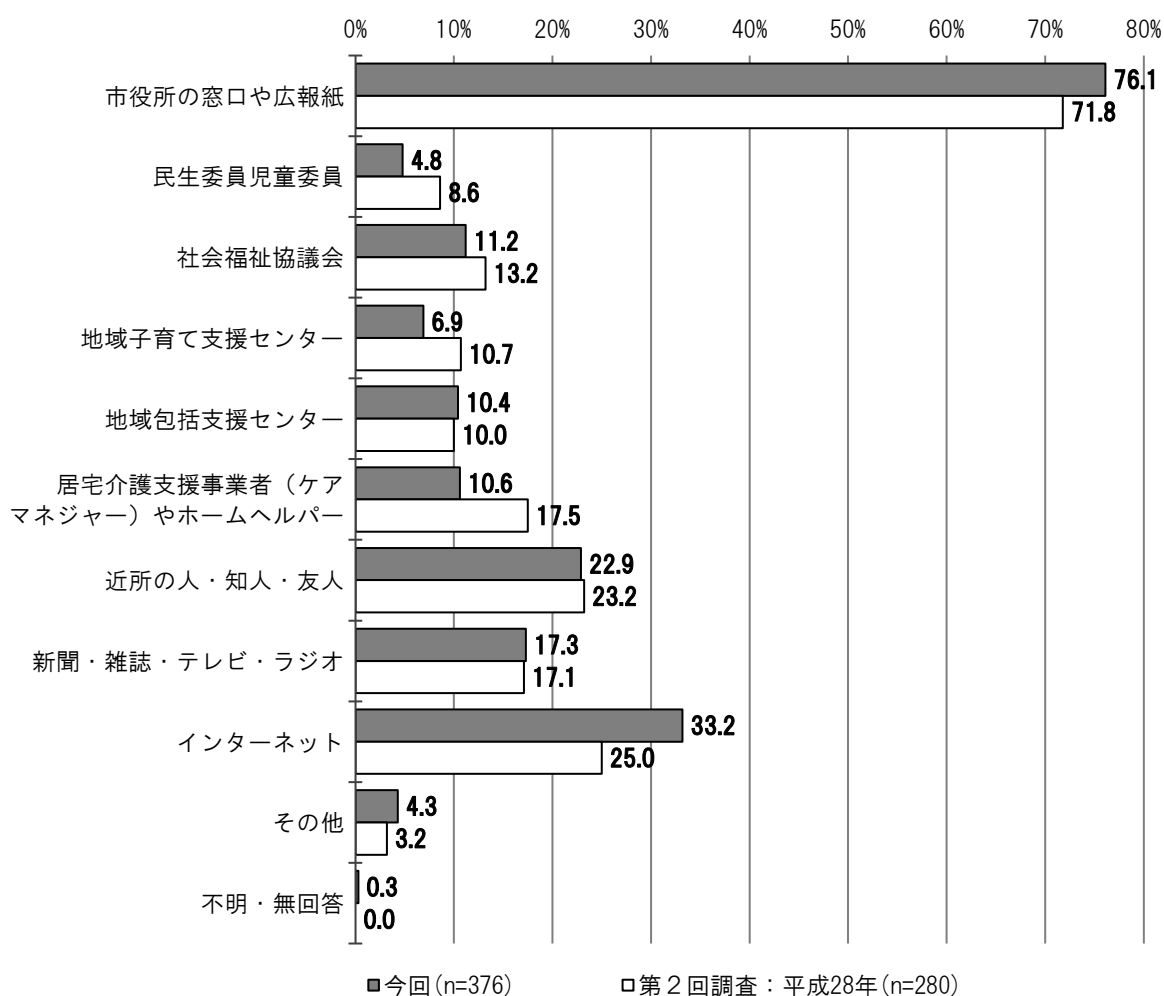
問 16 で「十分入手できている」「十分ではないが、入手できている」を選んだ人におたずねします。

問 16-2 あなたは、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから入手していますか。
(複数回答)

「福祉サービス」に関する情報の入手先についてみると、「市役所の窓口や広報紙」が76.1%と最も高く、次いで「インターネット」が33.2%、「近所の人・知人・友人」が22.9%となっています。

第2回調査と比較すると、「居宅介護支援事業者(ケアマネジャー)やホームヘルパー」が6.9ポイント減少している一方、「インターネット」が8.2ポイント増加しています。

【「福祉サービス」に関する情報の入手先・前回比較】



《年代別》

年代別にみると、いずれの年代でも「市役所の窓口や広報誌」が最も高くなっています。

また、〈40 歳代〉以下の年代で「インターネット」が4割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。

一方で、〈60 歳代〉〈70 歳代以上〉では「近所の人・知人・友人」「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」がそれぞれ2割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。

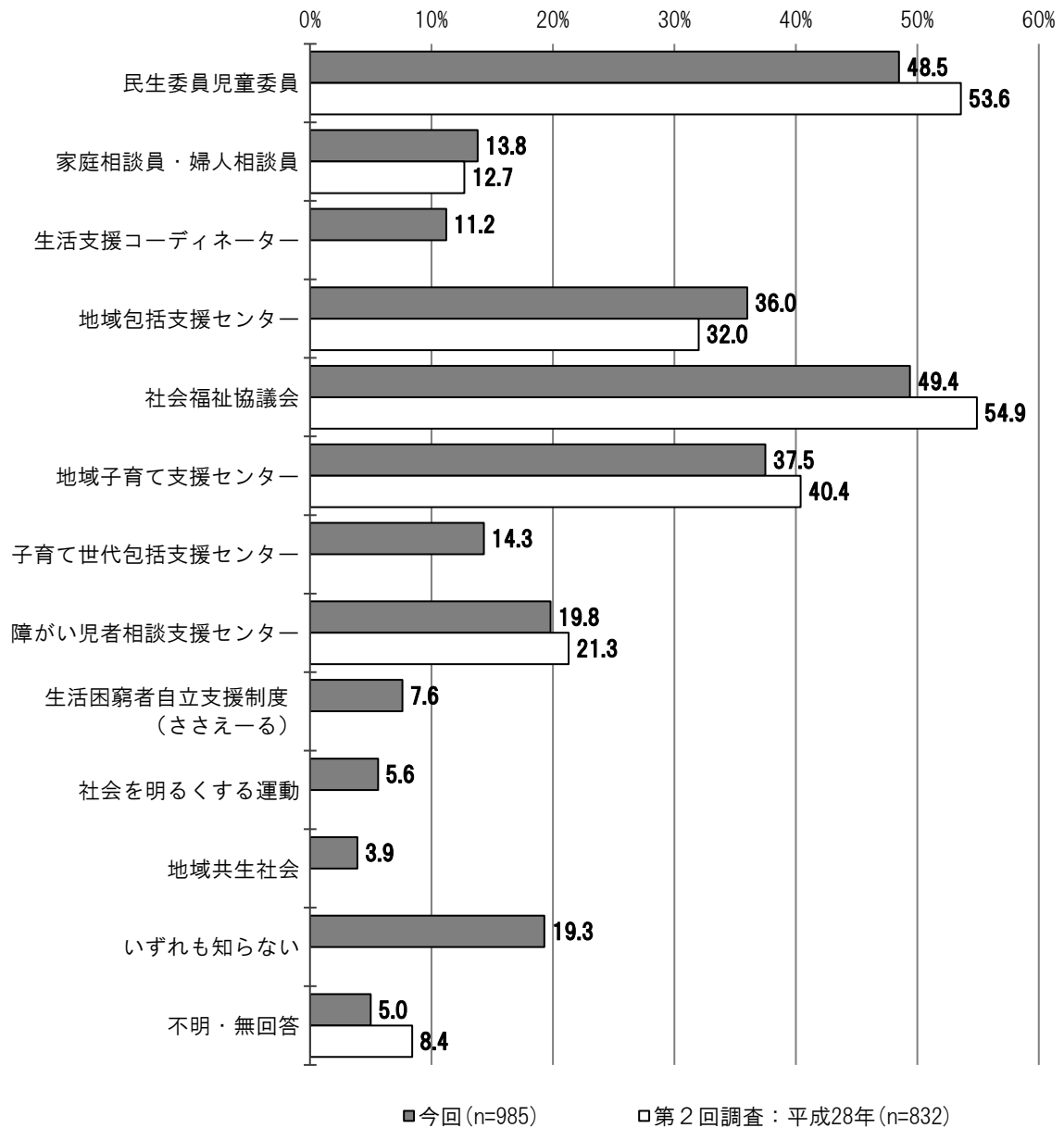
%		問16-2 あなたは、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから入手していますか。							
		n	市役所の窓口や 広報誌	民生委員児童委員	社会福祉協議会	地域子育て 支援センター	地域包括 支援センター	居宅介護支援 事業者（ケア マネジャー）や ホームヘルパー	近所の人・知人・ 友人
年代	全体	376	76.1	4.8	11.2	6.9	10.4	10.6	22.9
	10・20歳代	52	63.5	1.9	9.6	7.7	1.9	1.9	19.2
	30歳代	56	82.1	3.6	1.8	19.6	3.6	7.1	19.6
	40歳代	68	73.5	1.5	8.8	11.8	4.4	8.8	20.6
	50歳代	53	67.9	9.4	9.4	1.9	15.1	15.1	11.3
	60歳代	72	86.1	4.2	13.9	1.4	16.7	19.4	29.2
	70歳代以上	68	79.4	7.4	19.1	1.5	16.2	8.8	30.9
		n	新聞・雑誌・ テレビ・ラジオ	インターネット	その他	不明・無回答			
年代	全体	376	17.3	33.2	4.3	0.3			
	10・20歳代	52	15.4	42.3	5.8	0.0			
	30歳代	56	8.9	46.4	7.1	0.0			
	40歳代	68	11.8	45.6	2.9	0.0			
	50歳代	53	7.5	35.8	5.7	1.9			
	60歳代	72	23.6	29.2	1.4	0.0			
	70歳代以上	68	29.4	7.4	4.4	0.0			

問 17 あなたは、次の団体や機関・制度等を知っていますか。

(複数回答)

団体や機関・制度等の認知度についてみると、「社会福祉協議会」が 49.4%と最も高く、次いで「民生委員児童委員」が 48.5%、「地域子育て支援センター」が 37.5%となっています。

第2回調査では選択肢に無いものが複数あり、単純な比較はできませんが、「民生委員児童委員」「社会福祉協議会」が5ポイント程度減少している一方、「地域包括支援センター」で一定の増加がみられます。



《年代別》

年代別にみると、〈10歳代・20歳代〉で「民生委員児童委員」が28.6%、「社会福祉協議会」が32.3%と、他の年代に比べて低くなっている一方、「障がい児者相談支援センター」が27.6%、「いずれも知らない」が35.4%と、他の年代に比べて高くなっています。

〈30歳代〉〈40歳代〉で「地域子育て支援センター」が5割を超えて、〈10歳代・20歳代〉〈30歳代〉で「子育て世代包括支援センター」が2割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。

%		問17あなたは、次の団体や機関・制度等を知っていますか。							
		n	民生委員児童委員	家庭相談員・ 婦人相談員	生活支援 コーディネーター	地域包括 支援センター	社会福祉協議会	地域子育て 支援センター	子育て世代 包括支援センター
年代	全体	985	48.5	13.8	11.2	36.0	49.4	37.5	14.3
	10・20歳代	192	28.6	12.5	10.9	33.9	32.3	42.2	21.4
	30歳代	153	37.9	17.0	13.1	33.3	42.5	58.2	26.8
	40歳代	162	51.9	12.3	9.9	30.2	46.9	53.1	13.0
	50歳代	145	53.8	10.3	8.3	40.7	53.1	29.0	7.6
	60歳代	161	59.0	16.1	12.4	39.1	64.0	22.4	9.3
	70歳代以上	156	64.1	14.7	11.5	39.1	59.0	19.9	6.4
		n	障がい児者 相談支援センター	生活困窮者 自立支援制度 (ささえーる)	社会を明るくする 運動	地域共生社会	いずれも知らない	不明・無回答	
年代	全体	985	19.8	7.6	5.6	3.9	19.3	5.0	
	10・20歳代	192	27.6	7.3	4.2	4.7	35.4	1.0	
	30歳代	153	20.3	7.2	5.2	5.9	17.0	3.3	
	40歳代	162	19.1	4.9	4.9	2.5	19.1	3.1	
	50歳代	145	13.1	7.6	3.4	2.8	19.3	7.6	
	60歳代	161	18.6	9.9	6.8	5.0	15.5	7.5	
	70歳代以上	156	17.9	8.3	9.0	2.6	7.7	7.7	

《中学校区別》

中学校区別にみると、〈南河内〉では「生活困窮者自立支援制度(ささえーる)」が、〈国分寺〉で「地域子育て支援センター」が、他の中学校区に比べてやや高くなっています。

%		問17あなたは、次の団体や機関・制度等を知っていますか。							
		n	民生委員児童委員	家庭相談員・ 婦人相談員	生活支援 コーディネーター	地域包括 支援センター	社会福祉協議会	地域子育て 支援センター	子育て世代 包括支援センター
中学校区	全体	985	48.5	13.8	11.2	36.0	49.4	37.5	14.3
	南河内	179	49.7	16.2	11.7	35.2	50.8	38.0	15.6
	南河内第二	206	51.0	12.6	13.1	38.3	51.0	32.0	12.1
	石橋	293	44.7	14.0	9.6	36.5	48.5	36.2	14.3
	国分寺	277	49.8	13.7	10.5	33.6	47.7	43.7	15.2
		n	障がい児者 相談支援センター	生活困窮者 自立支援制度 (ささえーる)	社会を明るくする 運動	地域共生社会	いずれも知らない	不明・無回答	
中学校区	全体	985	19.8	7.6	5.6	3.9	19.3	5.0	
	南河内	179	21.2	12.3	7.8	3.4	20.7	7.8	
	南河内第二	206	19.9	7.3	4.9	3.4	18.4	3.9	
	石橋	293	18.4	5.8	6.1	5.1	22.5	4.8	
	国分寺	277	19.9	6.9	4.3	3.6	15.9	3.6	

《問 16-2 「福祉サービス」に関する情報の入手手段別》

情報の入手手段別にみると、概ね〈民生委員児童委員〉から情報を得ている方で各団体や機関・制度等の認知度が高い傾向にある一方で、〈入手できていない〉で最も低く、次いで〈市の窓口や広報紙〉〈インターネット〉〈今のところ情報を得る必要がない〉で次いで低い傾向がみられます。

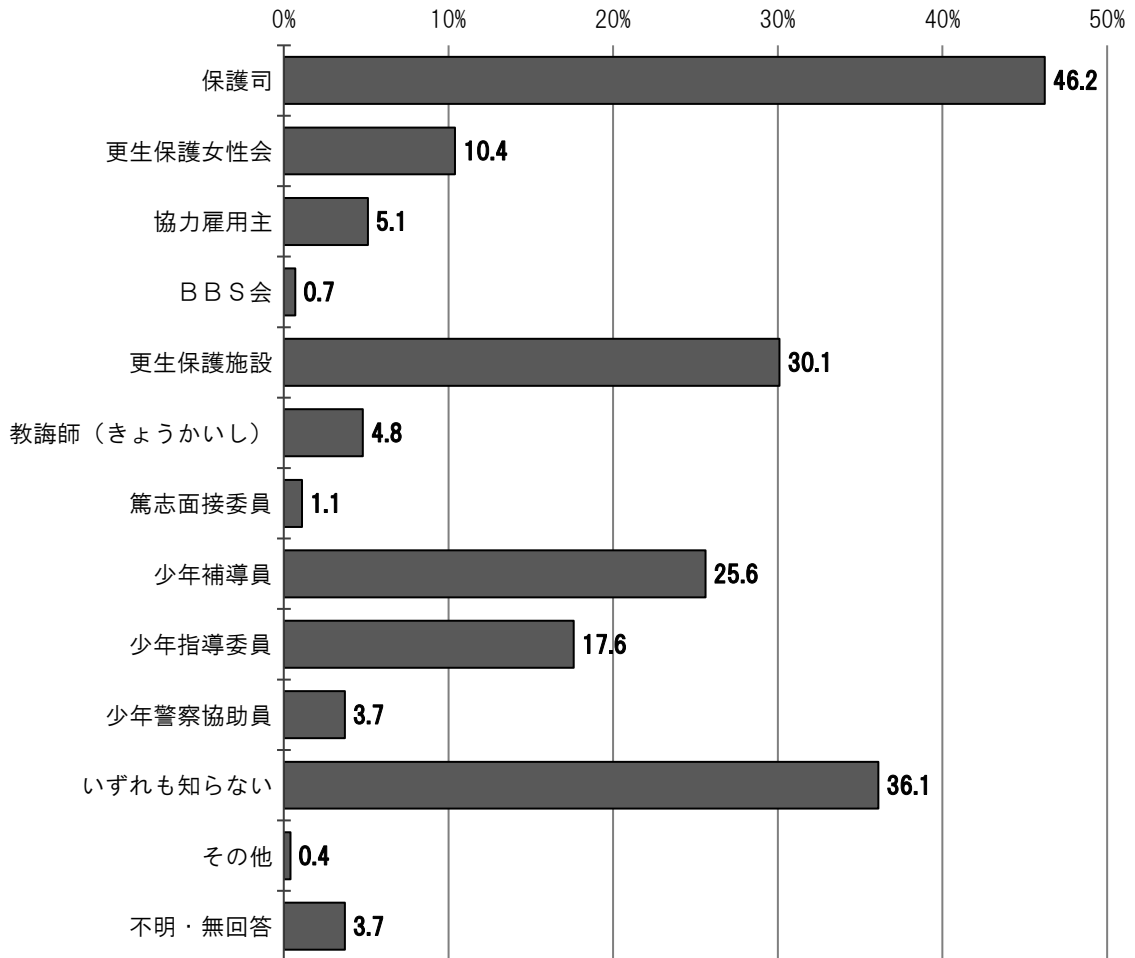
また、「いずれも知らない」の割合が高い区分についてみると、〈入手できていない〉で 31.8%、〈今のところ情報を得る必要がない〉で 25.1%、〈インターネット〉で 7.2%となっています。

%	問17あなたは、次の団体や機関・制度等を知っていますか。								
	n	民生委員児童委員	家庭相談員・ 婦人相談員	生活支援 コーディネーター	地域包括 支援センター	社会福祉協議会	地域子育て 支援センター	子育て世代 包括支援センター	
全体	985	48.5	13.8	11.2	36.0	49.4	37.5	14.3	
情報 入手 手段	市役所の窓 口や広報紙	286	62.6	19.9	17.8	48.6	67.5	46.2	19.9
	民生委員 児童委員	18	88.9	38.9	38.9	72.2	72.2	66.7	44.4
	社会福祉 協議会	42	69.0	33.3	26.2	57.1	85.7	54.8	23.8
	地域子育て 支援センター	26	50.0	26.9	23.1	38.5	46.2	96.2	42.3
	地域包括支 援センター	39	71.8	33.3	33.3	92.3	82.1	38.5	25.6
	居宅介護支 援事業者等	40	67.5	22.5	22.5	80.0	72.5	30.0	20.0
	近所の人・ 知人・友人	86	70.9	25.6	15.1	43.0	64.0	52.3	19.8
	新聞・ テレビ等	65	72.3	36.9	29.2	58.5	81.5	50.8	24.6
	インター ネット	125	64.0	16.8	19.2	51.2	63.2	54.4	21.6
	その他	16	50.0	31.3	31.3	56.3	56.3	43.8	31.3
入手できていない	274	35.8	9.5	5.8	19.3	34.3	33.9	11.3	
今のところ情報を得 る必要がない	291	48.5	11.7	8.6	36.4	48.8	34.0	12.0	
	n	障がい児者 相談支援センター	生活困窮者 自立支援制度 (ささえーる)	社会を明るくする 運動	地域共生社会	いずれも知らない	不明・無回答		
全体	985	19.8	7.6	5.6	3.9	19.3	5.0		
情報 入手 手段	市役所の窓 口や広報紙	286	27.6	13.3	9.1	8.0	4.9	7.0	
	民生委員 児童委員	18	55.6	38.9	33.3	27.8	0.0	5.6	
	社会福祉 協議会	42	45.2	26.2	14.3	11.9	0.0	7.1	
	地域子育て 支援センター	26	34.6	19.2	15.4	11.5	0.0	3.8	
	地域包括支 援センター	39	35.9	17.9	15.4	7.7	0.0	5.1	
	居宅介護支 援事業者等	40	35.0	15.0	7.5	10.0	2.5	5.0	
	近所の人・ 知人・友人	86	34.9	14.0	12.8	5.8	3.5	9.3	
	新聞・ テレビ等	65	44.6	23.1	24.6	16.9	0.0	6.2	
	インター ネット	125	28.0	15.2	9.6	9.6	7.2	4.8	
	その他	16	43.8	25.0	6.3	12.5	6.3	6.3	
入手できていない	274	14.2	4.4	2.6	1.8	31.8	2.2		
今のところ情報を得 る必要がない	291	16.2	3.8	6.2	2.4	25.1	1.0		

問 18 あなたは、再犯防止に協力する民間協力者として、次の方々がいることを知っていますか。
(複数回答)

認知している再犯防止に協力する民間協力者についてみると、「保護司」が 46.2%と最も高く、次いで「いずれも知らない」が 36.1%、「更生保護施設」が 30.1%となっています。

n=985



《年代別》

年代別にみると、〈60歳代〉〈70歳代以上〉で「保護司」が6割台半ばを超えている一方で、〈40歳代〉以下の年代で「いずれも知らない」が4割台半ばを超えて高くなっています。

%		問18あなたは、再犯防止に協力する民間協力者として、次の方々がいることを知っていますか。							
		n	保護司	更生保護女性会	協力雇用主	BBS会	更生保護施設	教誨師 (きょうかいし)	篤志面接委員
年代	全体	985	46.2	10.4	5.1	0.7	30.1	4.8	1.1
	10・20歳代	192	17.7	3.6	5.2	2.1	27.6	5.2	1.6
	30歳代	153	37.9	7.8	5.2	0.7	26.8	5.9	0.0
	40歳代	162	39.5	9.9	4.3	0.0	26.5	3.7	0.6
	50歳代	145	54.5	11.0	6.2	0.0	33.8	6.9	1.4
	60歳代	161	65.8	13.0	5.0	0.0	34.2	3.7	1.2
	70歳代以上	156	66.7	17.3	4.5	0.6	30.8	3.8	1.9
		n	障がい児者 相談支援センター	生活困窮者 自立支援制度 (ささえー)	社会を明るくする 運動	いずれも知らない	その他	不明・無回答	
年代	全体	985	25.6	17.6	3.7	36.1	0.4	3.7	
	10・20歳代	192	21.4	21.4	6.8	51.0	1.0	1.6	
	30歳代	153	25.5	13.1	5.2	47.1	0.0	2.0	
	40歳代	162	21.0	13.0	0.6	45.7	0.6	2.5	
	50歳代	145	28.3	17.9	2.8	29.7	0.0	4.1	
	60歳代	161	31.1	21.7	2.5	21.7	0.0	3.7	
	70歳代以上	156	28.2	16.0	3.8	19.9	0.6	8.3	

問 19 あなたは、犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。 (単数回答)

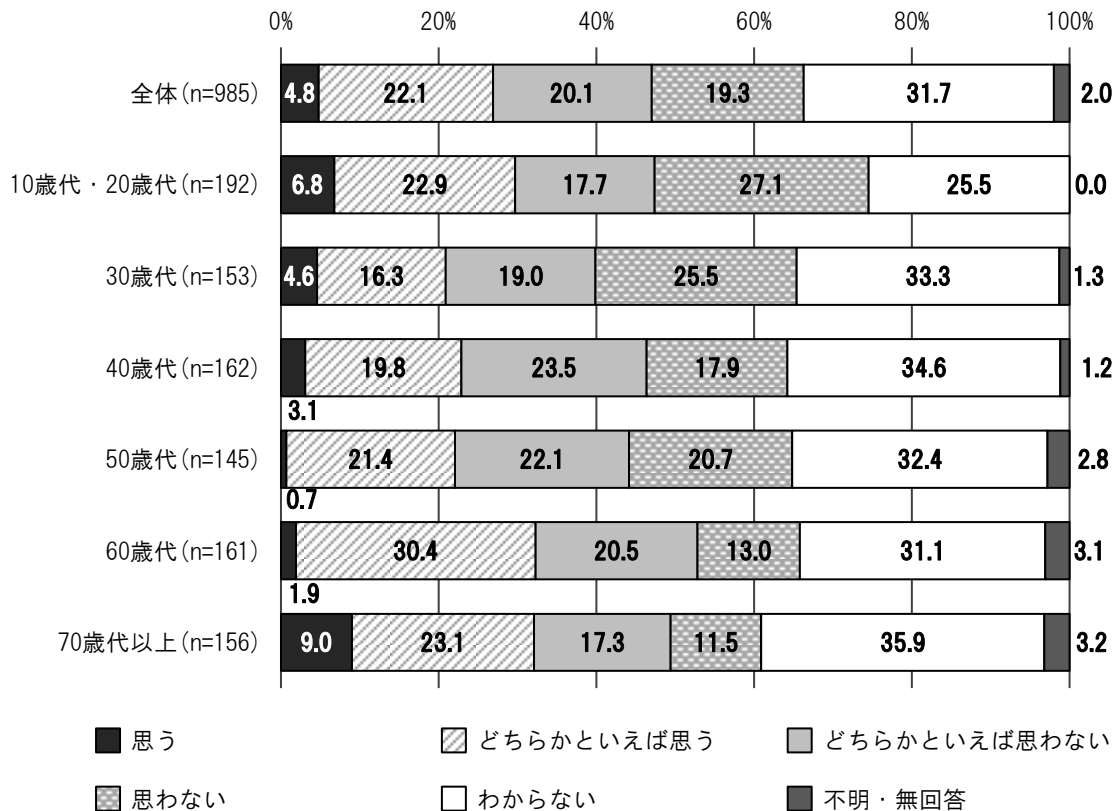
犯罪をした人の立ち直りへの協力についてみると、「わからない」が 31.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば思う」が 22.1%、「どちらかといえば思わない」が 20.1%となっています。

年代別にみると、<10 歳代・20 歳代>で「思わない」が、それ以外の年代では「わからない」が最も高くなっています。

また、<50 歳代>以下の年代で“思う”が“思わない”を 10 ポイント以上下回っている一方、<70 歳代以上>では“思う”が“思わない”を上回っています。

分析における “思う”とは「思う」「どちらかといえば思う」の合計、
 “思わない”とは「どちらかといえば思わない」「思わない」の合計です。

【犯罪をした人の立ち直りへの協力・年代別】



問 20 社会福祉協議会の広報紙「しもつけ社協だより」（年6回発行）をご存じですか。
（単数回答）

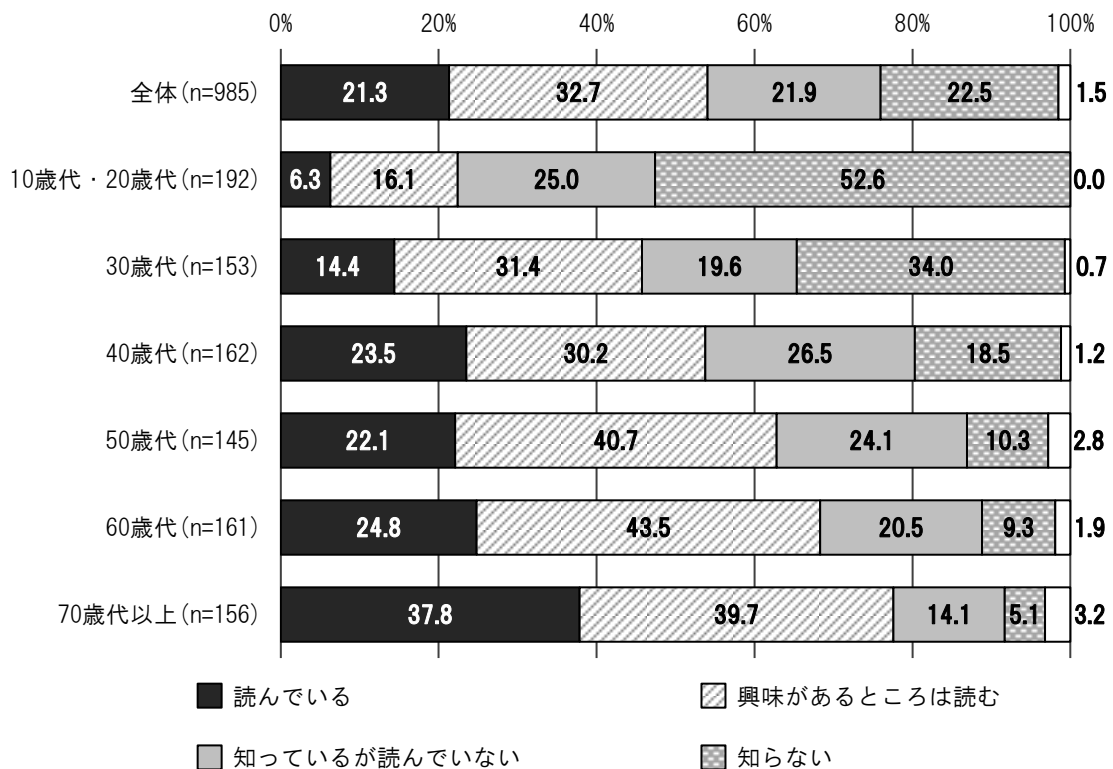
広報誌「しもつけ社協だより」の認知状況についてみると、全体では「興味があるところは読む」が32.7%と最も高く、次いで「知らない」が22.5%、「知っているが読んでいない」が21.9%となっています。

年代別にみると、<10歳代・20歳代><30歳代>では「知らない」が、<40歳代>以上の年代では、「興味があるところは読む」が最も高くなっています。

また、年代が上がるにつれ、「読んでいる」が高くなっています。

分析における “読んでいる”とは「読んでいる」「興味があるところは読む」の合計です。

【広報誌「しもつけ社協だより」の認知状況・年代別】

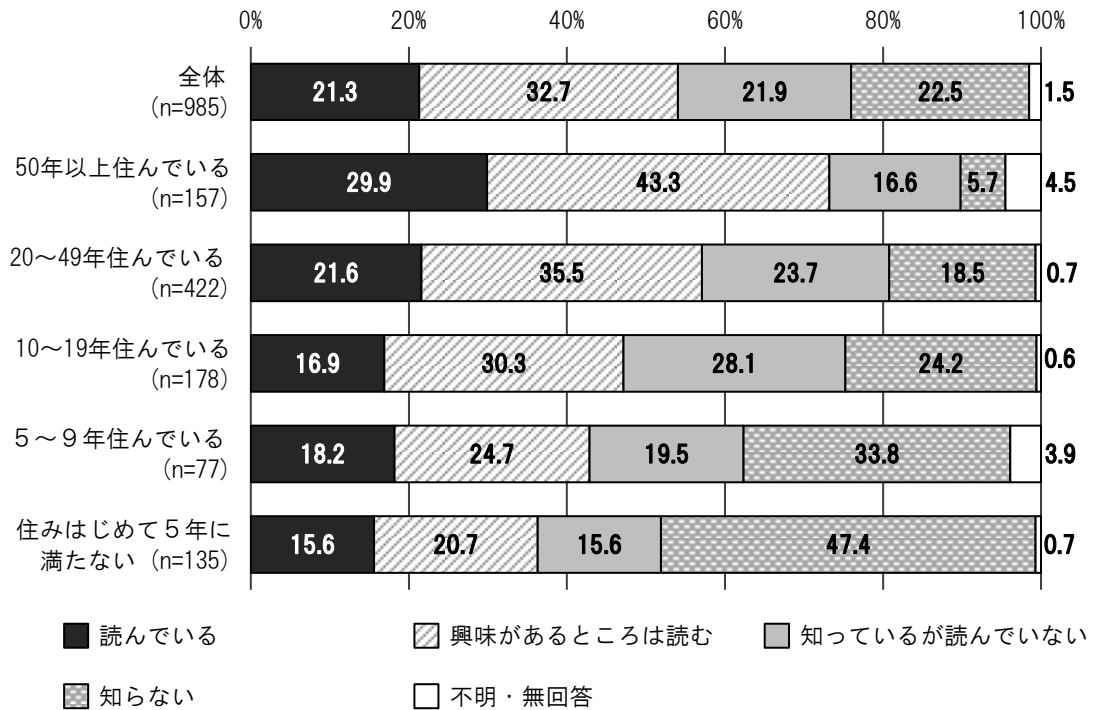


《居住年数別》

居住年数別にみると、〈50年以上住んでいる〉〈20～49年住んでいる〉〈10～19年住んでいる〉では、「興味があるところは読む」が、〈5～9年住んでいる〉〈住みはじめて5年に満たない〉では、「知らない」が最も高くなっています。

また、居住年数が上がるにつれ、「読んでいる」が高くなる傾向にあります。

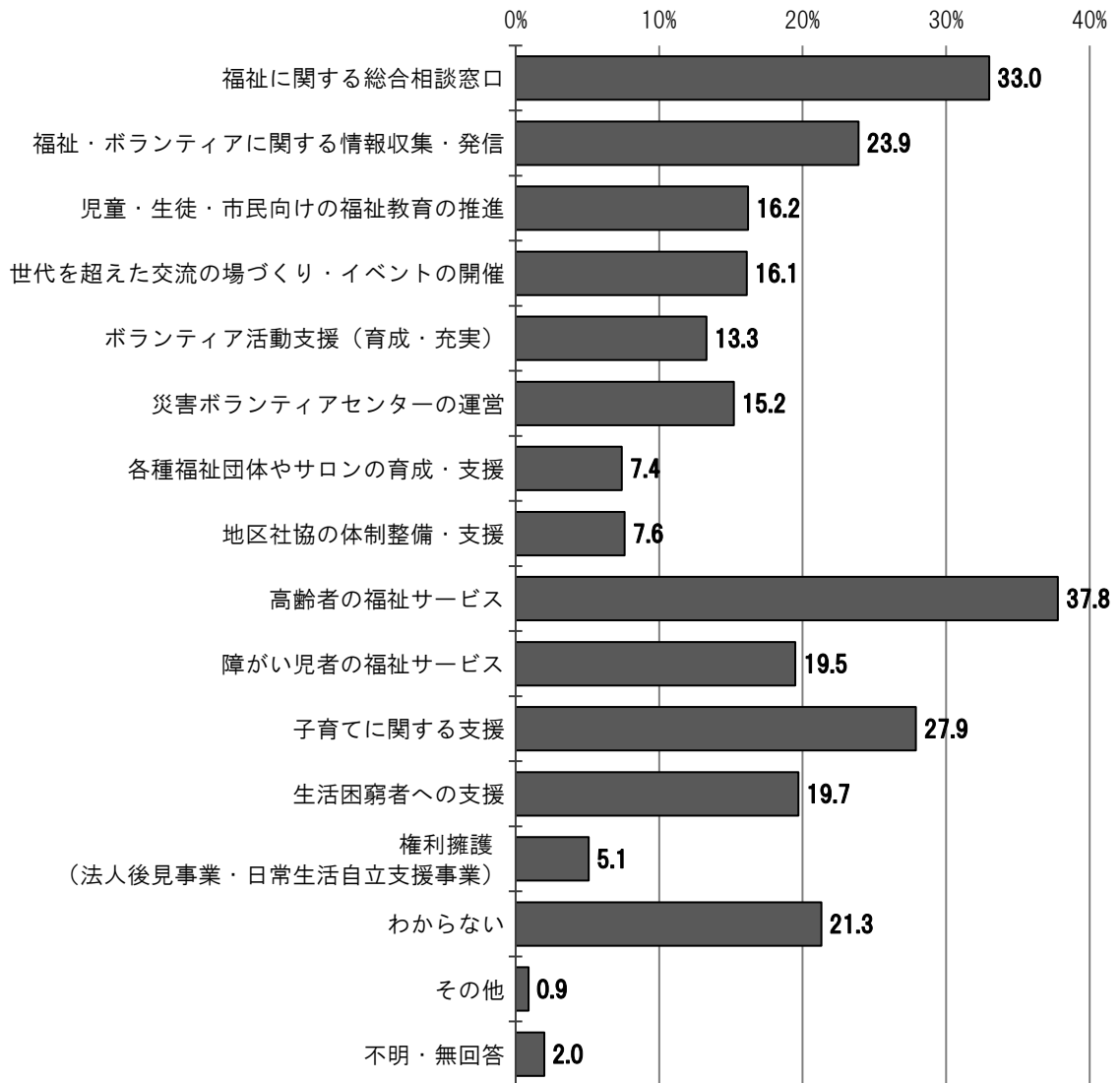
【広報誌「しもつけ社協だより」の認知状況・居住年数別】



問 21 地域で暮らしやすくしていくために、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことは何ですか。
(複数回答)

地域で暮らしやすくしていくために、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことについてみると、「高齢者の福祉サービス」が37.8%と最も高く、次いで「福祉に関する総合相談窓口」が33.0%、「子育てに関する支援」が27.9%となっています。

n=985



《年代別》

年代別にみると、〈50 歳代〉〈60 歳代〉で「福祉に関する総合相談窓口」が4割を超えて、〈50 歳代〉〈60 歳代〉〈70 歳代以上〉で「高齢者の福祉サービス」が4割を超えて、〈30 歳代〉で「子育てに関する支援」が51.6%と、他の年代に比べて高くなっています。

%		問21地域で暮らしやすくしていくために、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことは何ですか。							
		n	福祉に関する 総合相談窓口	福祉・ボラン ティアに関する 情報収集・発信	児童・生徒・ 市民向けの 福祉教育の推進	世代を超えた 交流の場づくり・ イベントの開催	ボランティア 活動支援 (育成・充実)	災害ボランティア センターの運営	各種福祉団体や サロンの 育成・支援
年代	全体	985	33.0	23.9	16.2	16.1	13.3	15.2	7.4
	10・20歳代	192	18.8	18.8	20.8	15.1	13.0	14.6	4.7
	30歳代	153	26.1	23.5	20.3	13.7	9.8	15.7	7.8
	40歳代	162	31.5	22.8	24.1	16.0	16.0	13.6	7.4
	50歳代	145	42.1	22.8	11.7	17.2	18.6	16.6	7.6
	60歳代	161	44.1	34.2	12.4	18.0	13.7	16.8	9.3
	70歳代以上	156	37.8	21.8	7.1	17.3	9.0	14.7	8.3
年代	全体	985	7.6	37.8	19.5	27.9	19.7	5.1	21.3
	10・20歳代	192	3.1	27.6	22.4	39.1	22.4	3.1	27.6
	30歳代	153	9.2	28.1	20.9	51.6	17.6	7.2	17.6
	40歳代	162	6.2	35.2	20.4	33.3	21.0	4.9	21.0
	50歳代	145	6.9	40.0	22.1	20.0	20.0	5.5	24.1
	60歳代	161	8.7	44.1	16.8	14.9	16.1	4.3	20.5
	70歳代以上	156	11.5	53.2	14.7	8.3	19.9	6.4	16.7
年代	全体	985	0.9	2.0					
	10・20歳代	192	0.0	1.6					
	30歳代	153	0.7	1.3					
	40歳代	162	0.6	1.2					
	50歳代	145	1.4	2.8					
	60歳代	161	2.5	1.2					
	70歳代以上	156	0.6	4.5					
		n	その他	不明・無回答					

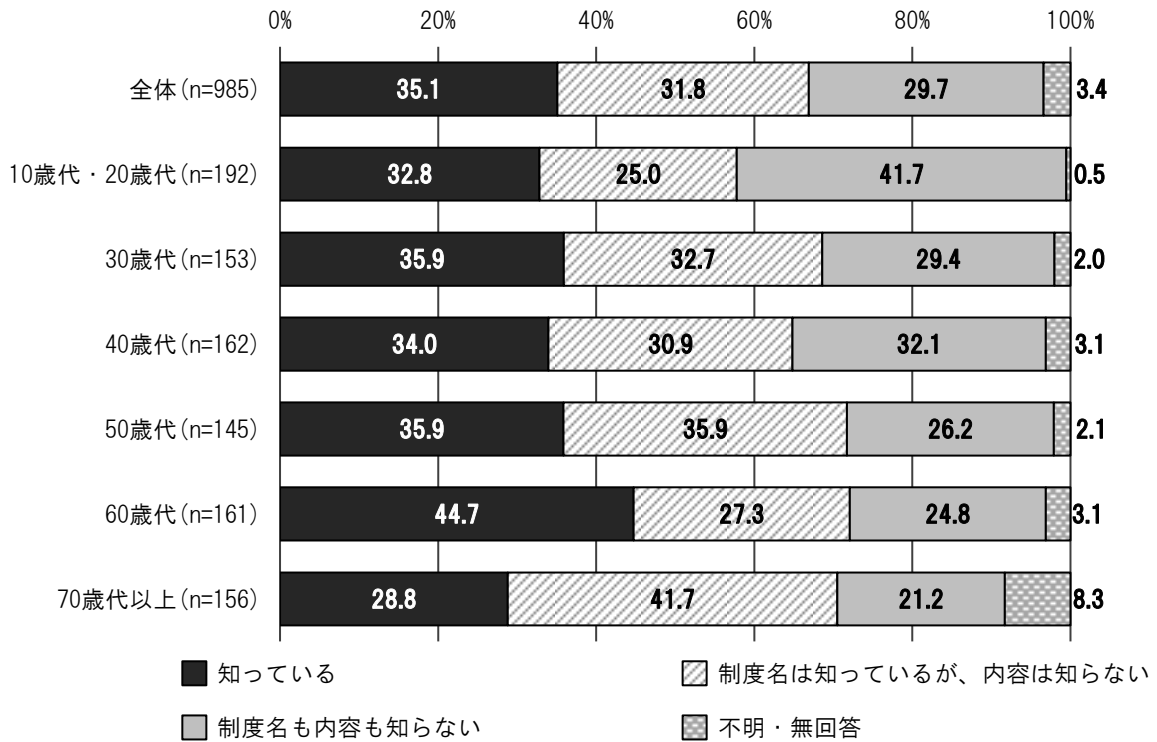
(5) 権利擁護について

問 22 ア 判断能力が十分でない方の権利を守るための、成年後見制度について知っていますか。
(単数回答)

成年後見制度の認知度についてみると、全体では「知っている」が 35.1%と最も高く、次いで「制度名は知っているが、内容は知らない」が 31.8%、「制度名も内容も知らない」が 29.7%となっています。

年代別にみると、<10 歳代・20 歳代>では、「制度名も内容も知らない」が、<30 歳代><40 歳代><50 歳代><60 歳代>では、「知っている」が、<70 歳代以上>では、「制度名は知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。また、<10 歳代・20 歳代>で「制度名も内容も知らない」が 41.7%、<60 歳代>で「知っている」が 44.7%と、他の年代に比べて高くなっています。

【成年後見制度の認知度・年代別】

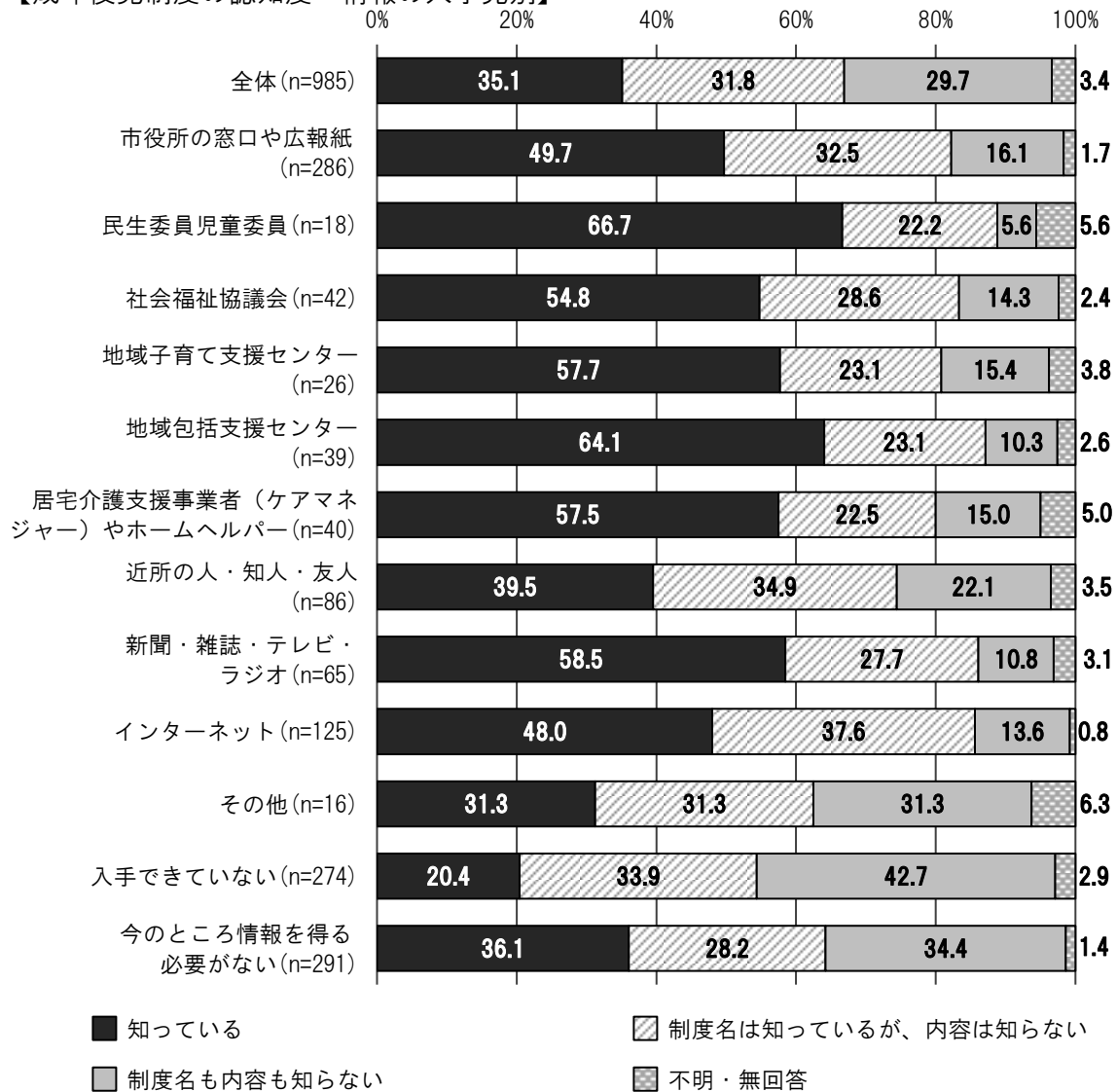


《問 16-2 「福祉サービス」に関する情報の入手手段別》

情報の入手手段別にみると、〈民生委員児童委員〉〈地域包括支援センター〉から情報を得ている方で「知っている」が6割を超えています。

一方で、〈入手できていない〉で 20.4%と低くなっており、次いで〈近所の人・知人・友人〉 〈今のところ情報を得る必要がない〉で3割台、〈市の窓口や広報紙〉〈インターネット〉で4割台と比較的低くなっています。

【成年後見制度の認知度・情報の入手先別】

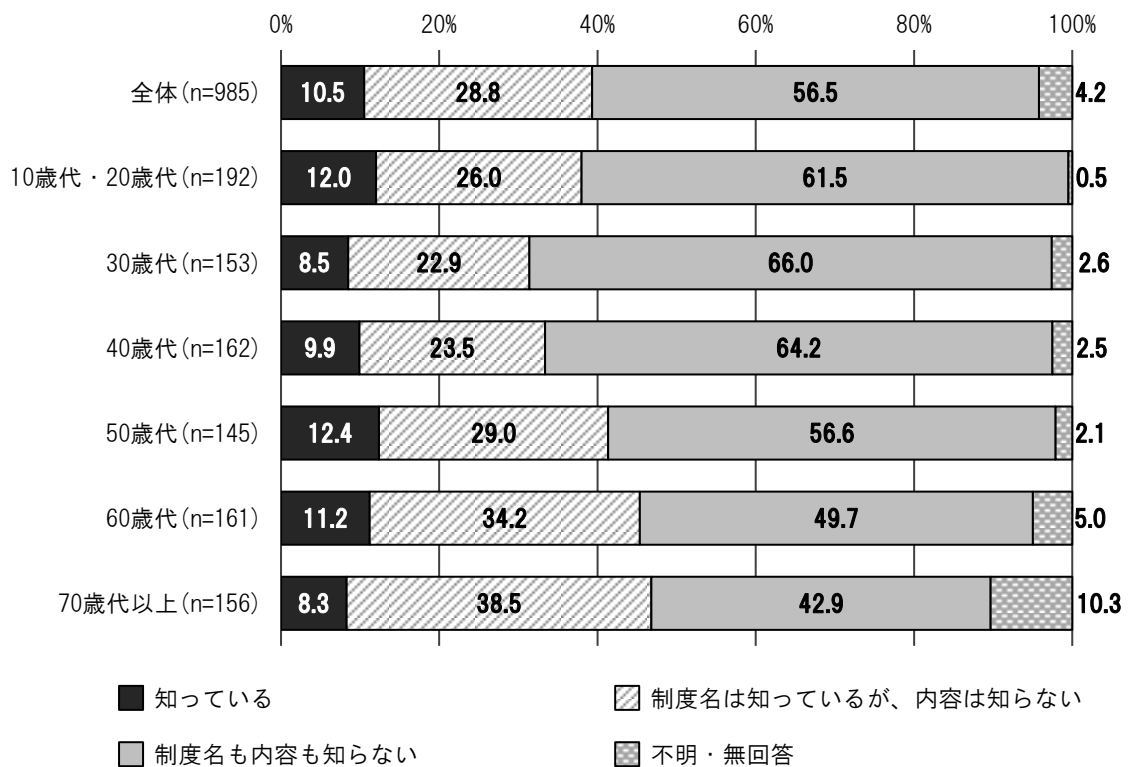


問 22 イ 判断能力が十分でない方の権利を守るための、日常生活自立支援事業（あすてらす）について知っていますか。

日常生活自立支援事業（あすてらす）の認知度についてみると、全体では「制度名も内容も知らない」が 56.5%と最も高く、次いで「制度名は知っているが、内容は知らない」が 28.8%、「知っている」が 10.5%となっています。

年代別にみると、<40 歳代>以下の年代で「制度名も内容も知らない」が6割を超えており、高くなっています。

【日常生活自立支援事業（あすてらす）認知度・年代別】

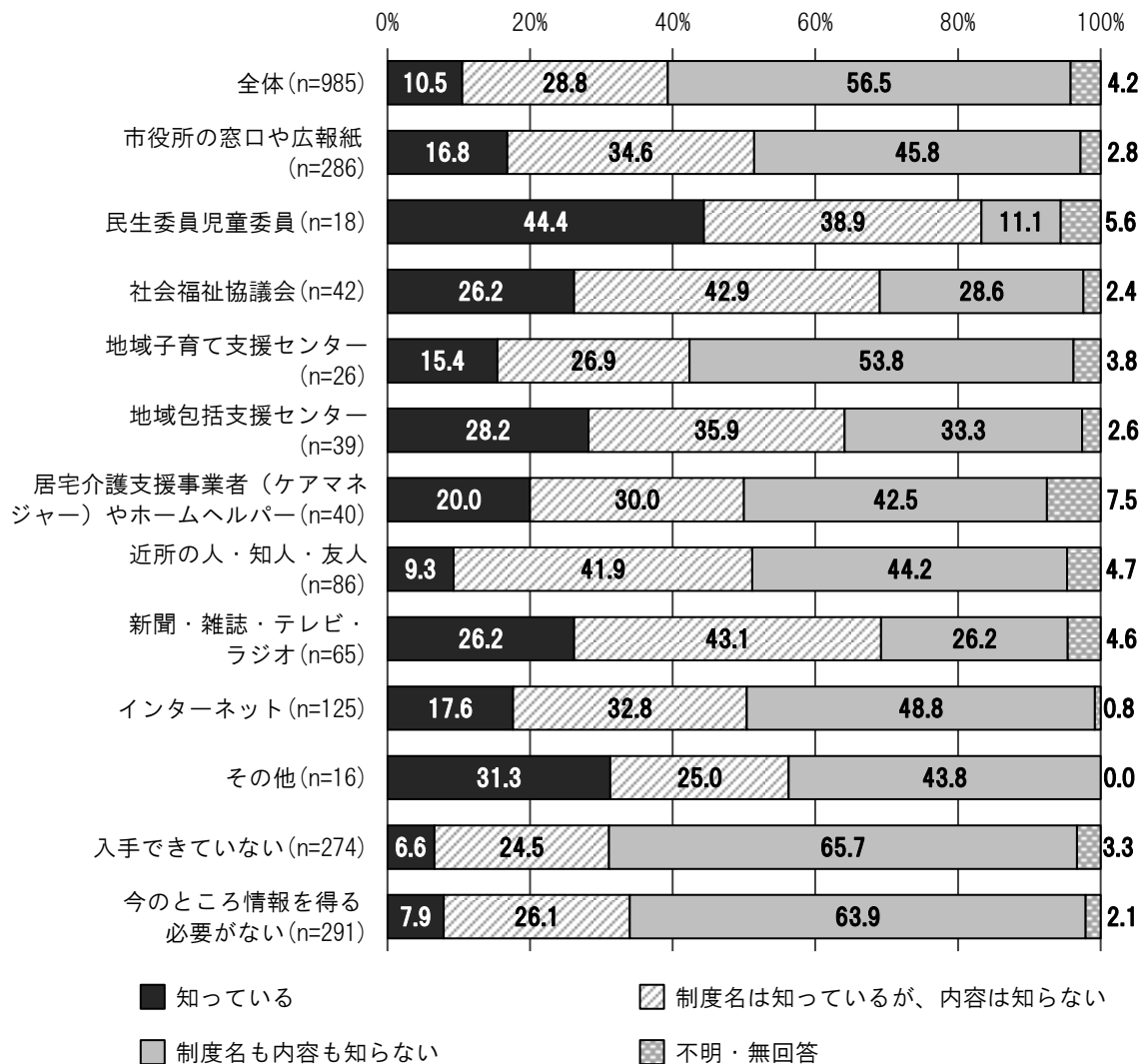


《問 16-2 「福祉サービス」に関する情報の入手手段別》

情報の入手手段別にみると、〈民生委員児童委員〉から情報を得ている方で「知っている」が4割を超えています。

一方で、〈近所の人・友人・知人〉〈入手できていない〉〈今のところ情報を得る必要がない〉で1割未満と低くなっており、次いで〈市役所の窓口や広報紙〉〈地域子育て支援センター〉〈インターネット〉で1割台と比較的低くなっています。

【日常生活自立支援事業（あすてらす）の認知度・情報の入手先別】

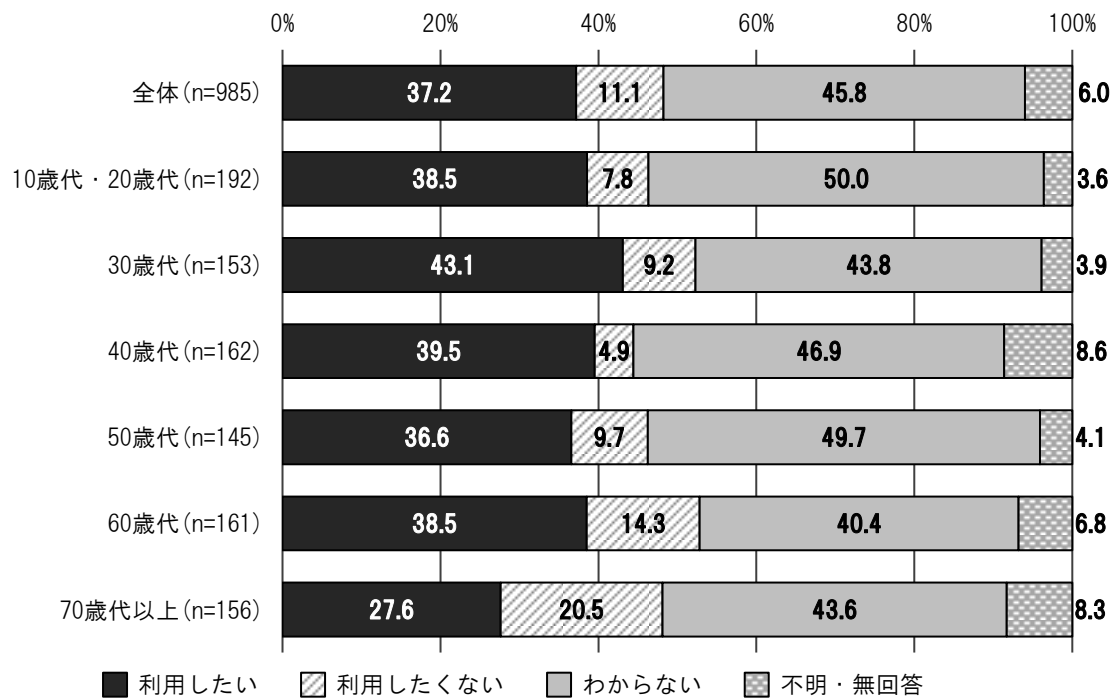


**問 23 将来的にあなた自身の判断能力が不十分になった場合、成年後見制度を利用したい
と思いますか。** (単数回答)

将来的な成年後見制度の利用意向についてみると、全体では「わからない」が 45.8%と最も高く、次いで「利用したい」が 37.2%、「利用したくない」が 11.1%となっています。

年代別にみると、<30 歳代>で「利用したい」が 43.1%、<70 歳代以上>で「利用したくない」が 20.5%と、他の年代に比べて高くなっています。

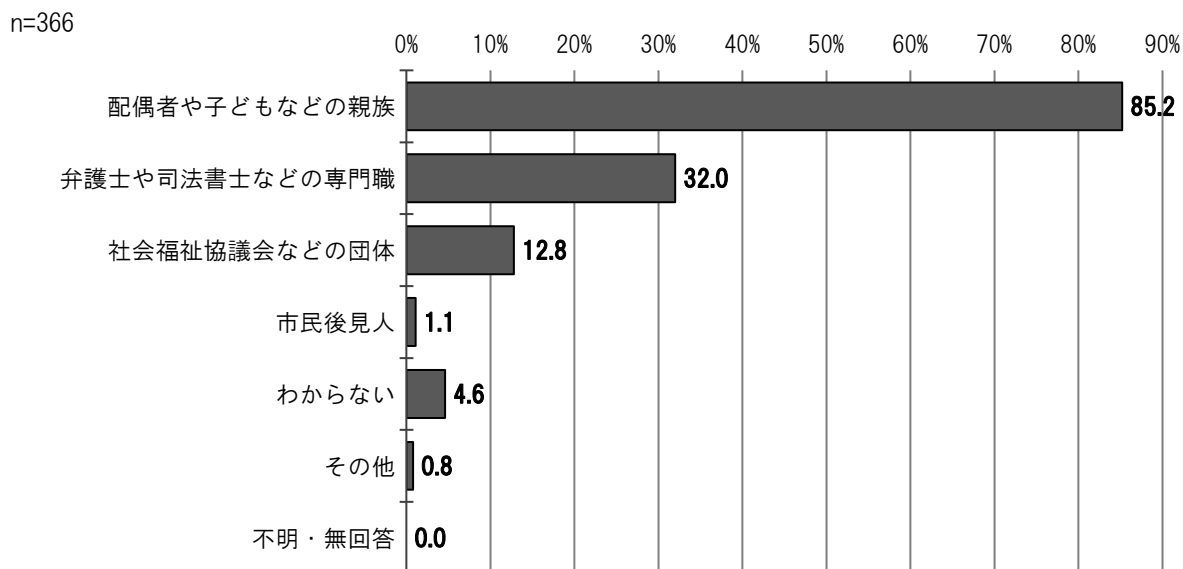
【成年後見制度の利用意向・年代別】



問 23 で「利用したい」を選んだ人におたずねします。

問 23-2 成年後見制度を利用することになった場合、誰に後見人になって支援してほしいですか。
(複数回答)

後見人になって支援してほしい人についてみると、「配偶者や子どもなどの親族」が 85.2%と最も高く、次いで「弁護士や司法書士などの専門職」が 32.0%、「社会福祉協議会などの団体」が 12.8%となっています。



《年代別》

年代別にみると、いずれの年代も「配偶者や子どもなどの親族」が8割を超えて最も高くなっています。また、<30歳代>で「弁護士や司法書士などの専門職」が 45.5%と、他の年代に比べて高くなっています。

%	問23-2 成年後見制度を利用することになった場合、誰に後見人になって支援してほしいですか。							
	n	配偶者や子どもなどの親族	弁護士や司法書士などの専門職	社会福祉協議会などの団体	市民後見人	わからない	その他	不明・無回答
全体	366	85.2	32.0	12.8	1.1	4.6	0.8	0.0
10・20歳代	74	89.2	27.0	16.2	0.0	5.4	0.0	0.0
30歳代	66	87.9	45.5	12.1	1.5	3.0	4.5	0.0
40歳代	64	81.3	28.1	12.5	1.6	6.3	0.0	0.0
50歳代	53	86.8	35.8	9.4	0.0	3.8	0.0	0.0
60歳代	62	83.9	30.6	14.5	3.2	3.2	0.0	0.0
70歳代以上	43	81.4	23.3	11.6	0.0	4.7	0.0	0.0

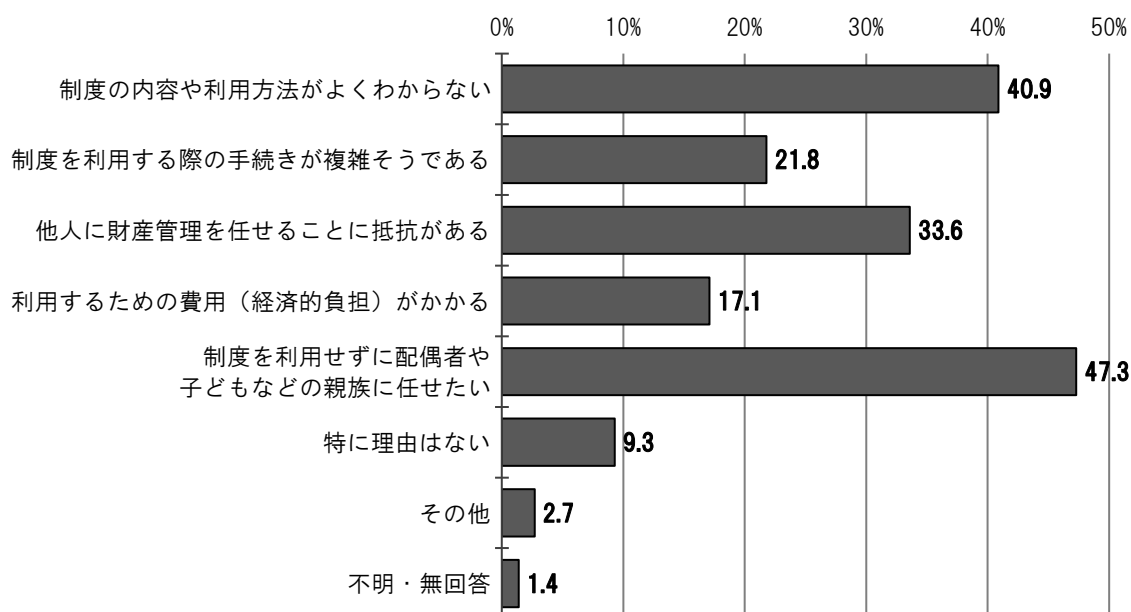
問 23 で「利用したくない」「わからない」を選んだ人におたずねします。

問 23-3 「利用したくない」あるいは「わからない」と答えた理由は何ですか。

(複数回答)

成年後見制度を「利用したくない」「利用したいかわからない」と答えた理由についてみると、「制度を利用せずに配偶者や子どもなどの親族に任せたい」が 47.3%と最も高く、次いで「制度の内容や利用方法がよくわからない」が 40.9%、「他人に財産管理を任せることに抵抗がある」が 33.6%となっています。

n=560



《年代別》

年代別にみると、〈30 歳代〉〈40 歳代〉〈50 歳代〉で「制度の内容や利用方法がよくわからない」が5割前後と高くなっています。

また、〈60 歳代〉〈70 歳代以上〉で「制度を利用せずに配偶者や子どもなどの親族に任せたい」が5割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。

%		問23-3 「利用したくない」あるいは「わからない」と答えた理由は何ですか。							
		n	制度の内容や 利用方法が よくわからない	制度を利用する 際の手続きが 複雑そうである	他人に財産管理を 任せることに 抵抗がある	利用するための 費用（経済的 負担）がかかる	制度を利用せずに 配偶者や子ども などの親族に 任せたい	特に理由はない	その他
年代	全体	560	40.9	21.8	33.6	17.1	47.3	9.3	2.7
	10・20歳代	111	39.6	18.0	33.3	9.9	34.2	18.0	2.7
	30歳代	81	45.7	21.0	44.4	19.8	40.7	14.8	2.5
	40歳代	84	53.6	25.0	26.2	14.3	41.7	7.1	2.4
	50歳代	86	46.5	26.7	40.7	25.6	41.9	8.1	2.3
	60歳代	88	31.8	17.0	26.1	17.0	58.0	3.4	4.5
	70歳代以上	100	31.0	24.0	31.0	19.0	66.0	3.0	2.0
	n	不明・無回答							
年代	全体	985	1.4						
	10・20歳代	192	0.9						
	30歳代	153	0.0						
	40歳代	162	1.2						
	50歳代	145	0.0						
	60歳代	161	1.1						
	70歳代以上	156	4.0						

(6) 地域福祉に関する施策について

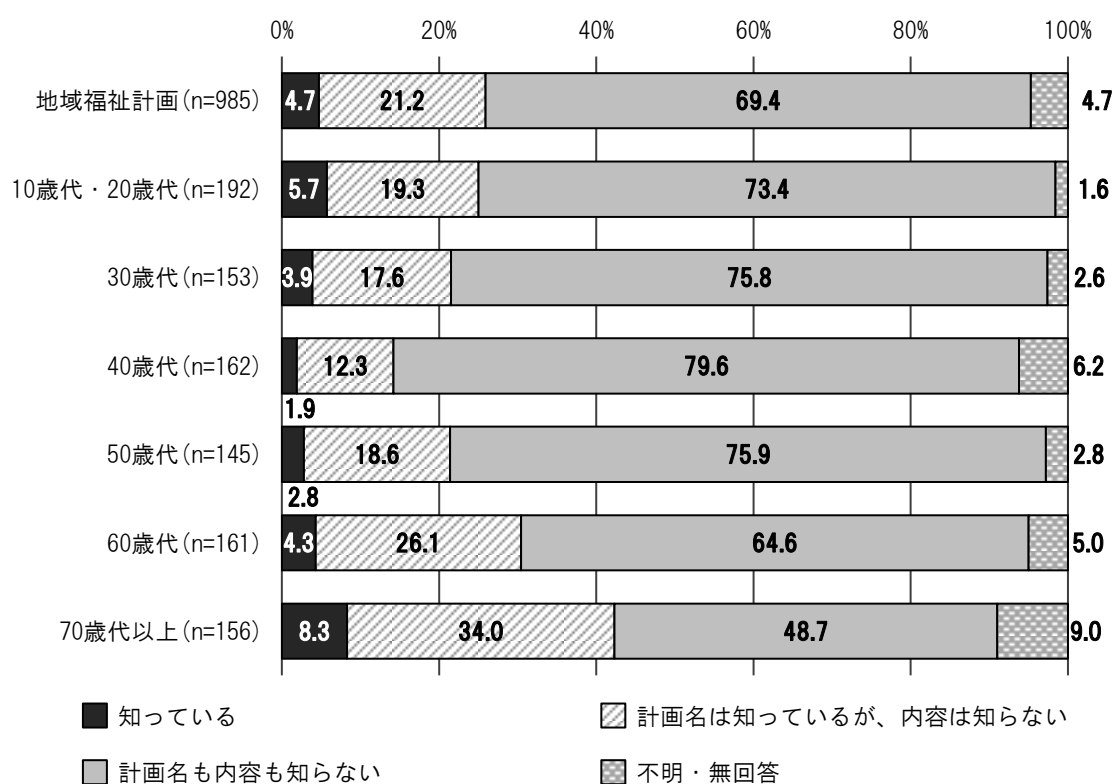
問 24 ア あなたは、地域福祉を進めるための下野市地域福祉計画を知っていますか。
(単数回答)

下野市地域福祉計画の認知度についてみると、全体では「計画名も内容も知らない」が69.4%と最も高く、次いで「計画名は知っているが、内容は知らない」が21.2%、「知っている」が4.7%となっています。

年代別にみると、<50歳代>以下の年代で「計画名も内容も知らない」が7割以上と高くなっています。

一方で、<70歳代以上>で「知っている」が8.3%、「計画名は知っているが、内容は知らない」が34.0%と、他の年代に比べて高くなっています。

【下野市地域福祉計画・地域福祉活動計画の認知度】



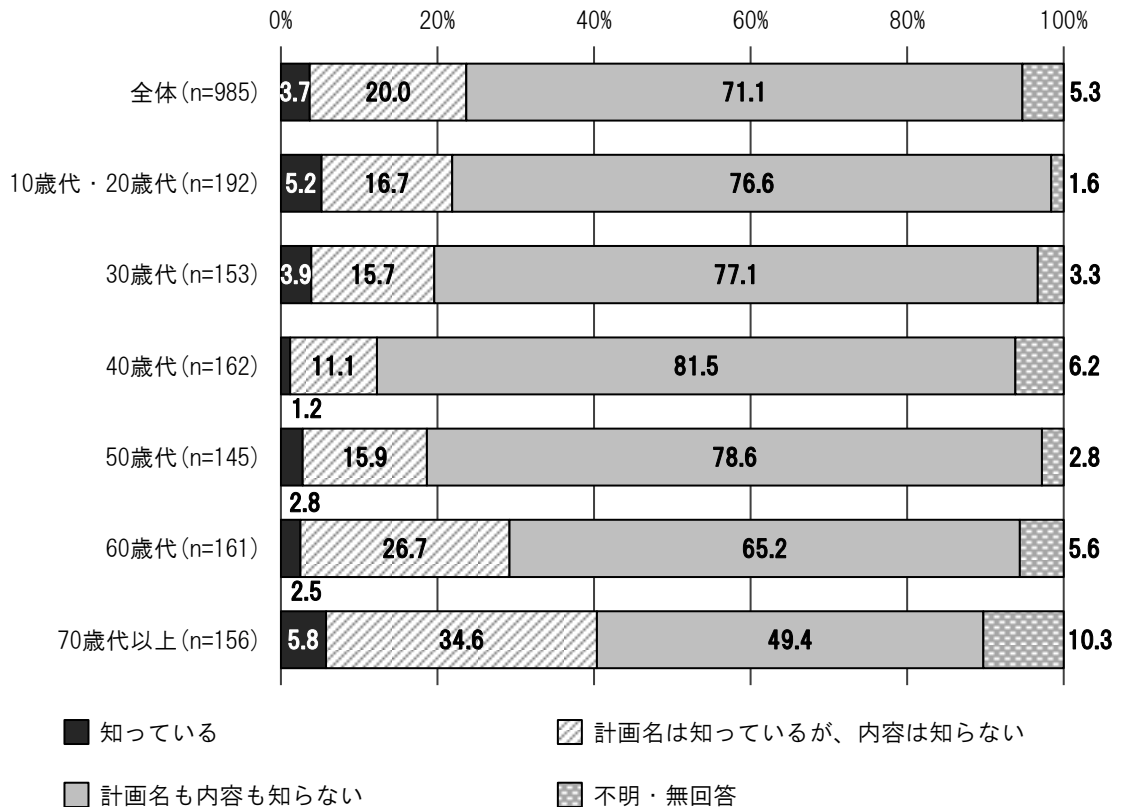
問 24 イ あなたは、地域福祉を進めるための下野市地域福祉活動計画を知っていますか。
(単数回答)

下野市地域福祉活動計画の認知度についてみると、全体では「計画名も内容も知らない」が 71.1%と最も高く、次いで「計画名は知っているが、内容は知らない」が 20.0%、「知っている」が 3.7%となっています。

年代別にみると、<50 歳代>以下の年代で「計画名も内容も知らない」が7割以上と高くなっています。

一方で、<70 歳代以上>で「知っている」が 5.8%、「計画名は知っているが、内容は知らない」が 34.6%と、他の年代に比べて高くなっています。

【下野市地域福祉活動計画の認知度・年代別】



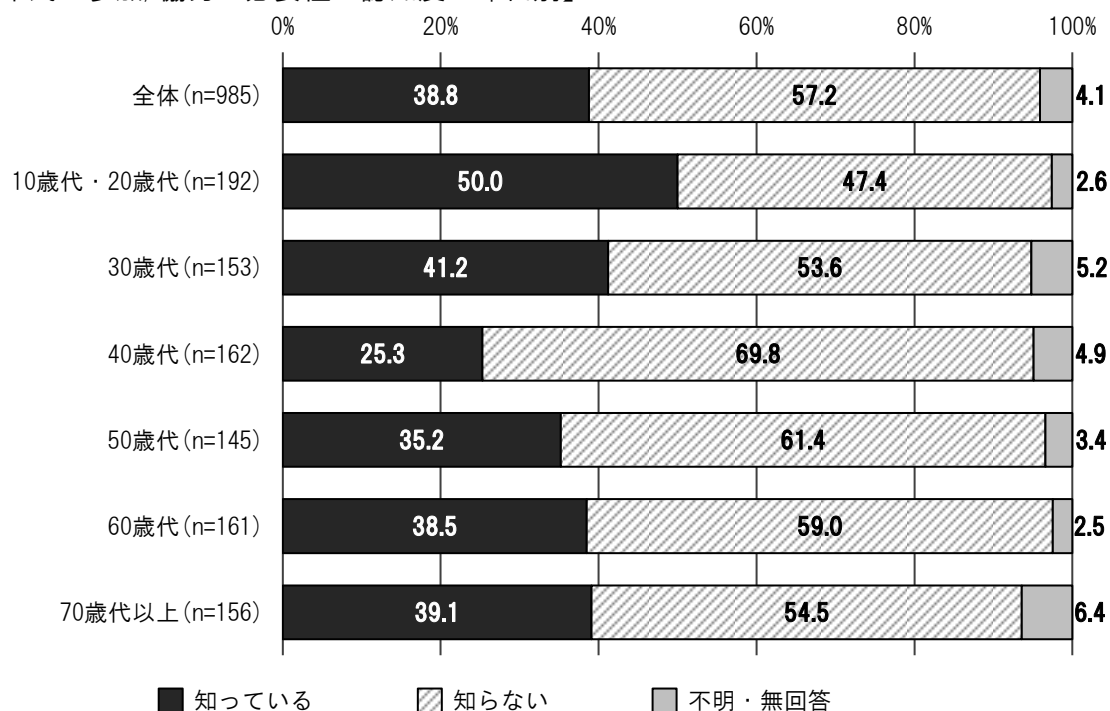
問 25 あなたは、地域福祉を進めるためには、市民の参加・協力が必要とされていることを知っていますか。
(単数回答)

地域福祉を進めるためには、市民の参加・協力が必要とされていることの認知度についてみると、全体では「知らない」が57.2%と、「知っている」の38.8%を上回っています。

年代別にみると、<10歳代・20歳代>では、「知っている」が50.0%と、「知らない」の47.4%を上回っています。

<30歳代>以上の年代では「知らない」が、「知っている」を上回っており、中でも<40歳代><50歳代>では「知らない」が6割を超えて高くなっています。

【市民の参加/協力の必要性の認知度・年代別】



問 26 下野市の保健福祉施策（サービス）について、あなたはどのように感じていますか。
（単数回答）

下野市の保健福祉施策（サービス）への評価についてみると、全体では「わからない」が 56.8%と最も高く、次いで「まあまあ充実している」が 26.5%、「あまり充実していない」が 7.9%となっています。

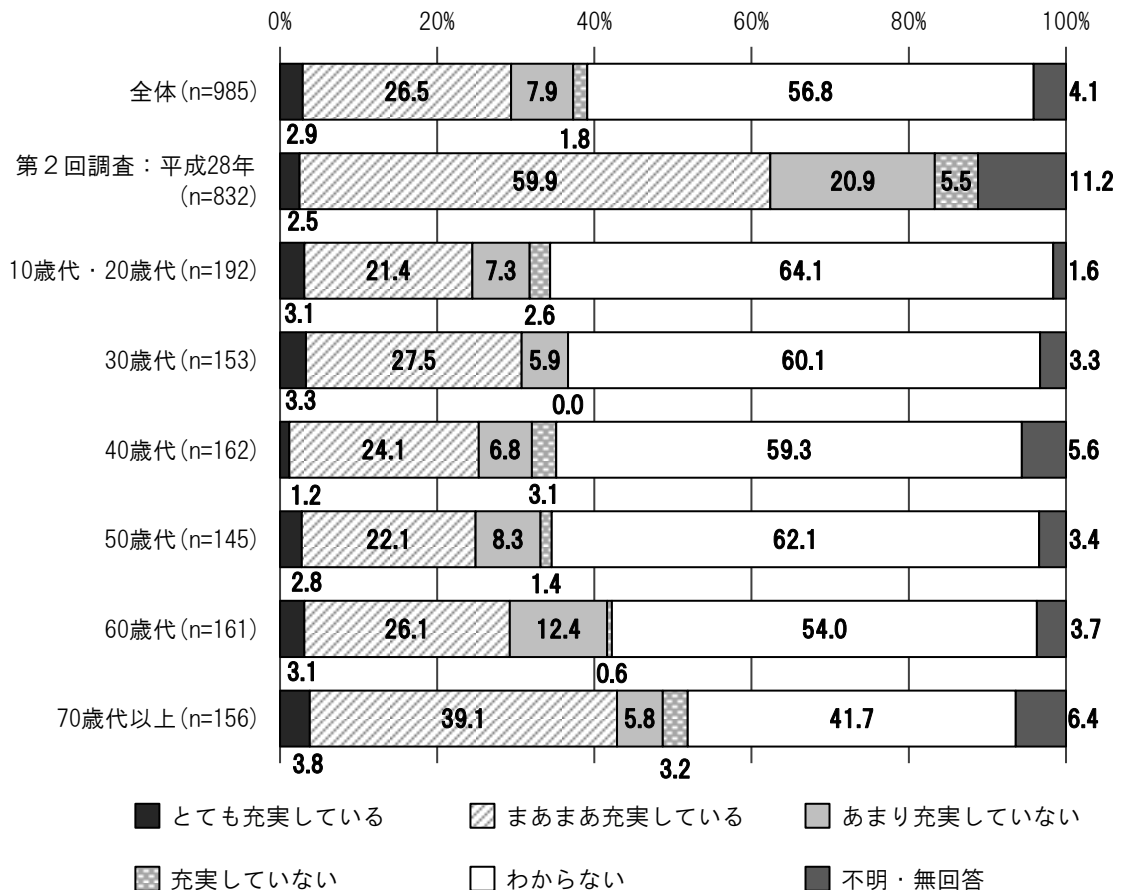
第2回調査では「わからない」の選択肢が無く単純な比較はできませんが、「まあまあ充実している」が 33.4ポイント減少、「あまり充実していない」が 13.0ポイント減少しています。

年代別にみると、いずれの年代も「わからない」が最も高く、次いで「まあまあ充実している」となっています。

中でも<70 歳代以上>で、「とても充実している」と「まあまあ充実している」を合わせた”充実している”が 42.9%と高い割合となっています。

分析における “充実している”とは「とても充実している」「まあまあ充実している」の合計です。

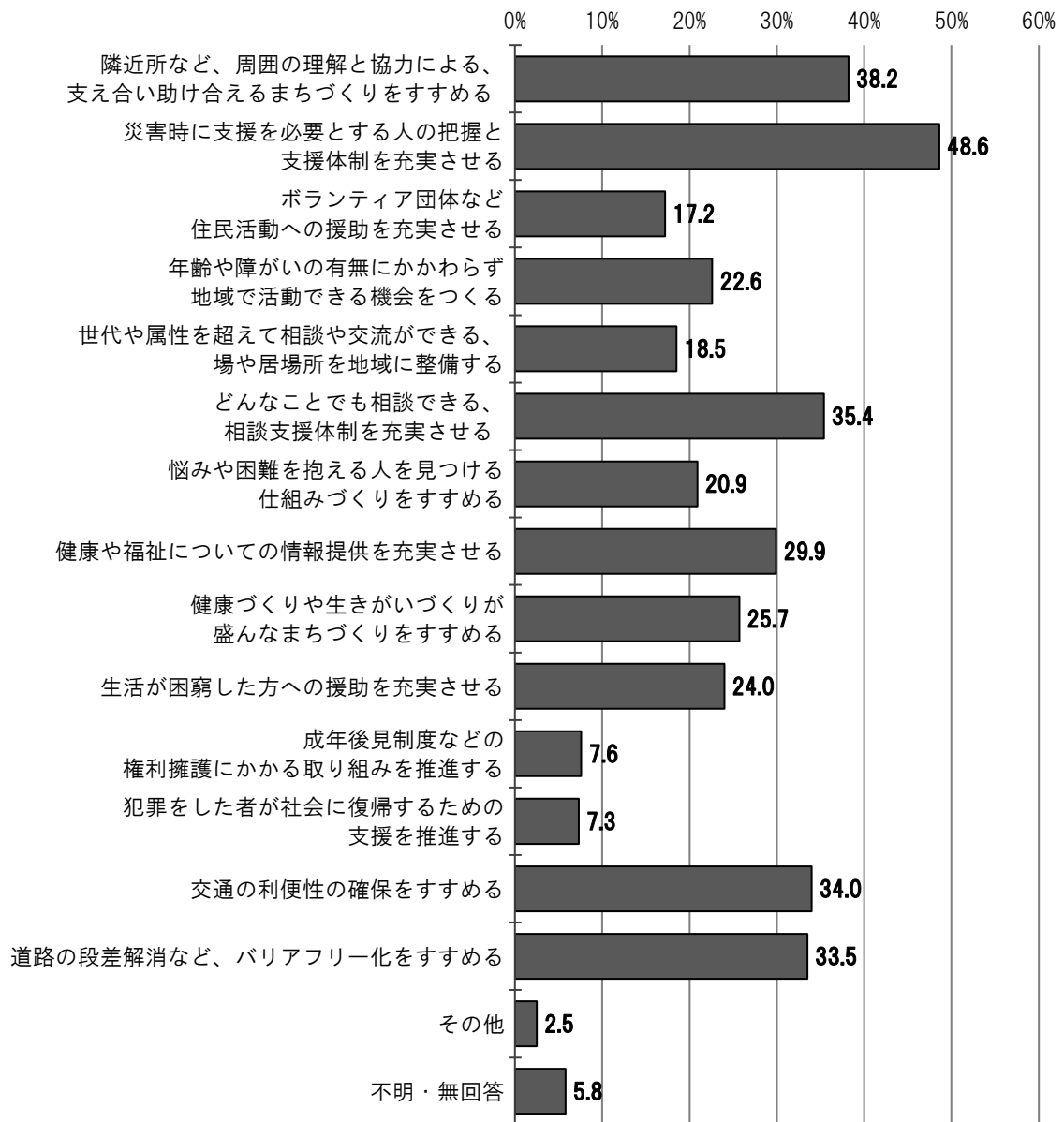
【保健福祉施策についての評価・前回比較・年代別】



問 27 下野市の保健福祉施策をより充実していくために、あなたが重要と考える取り組みはどれですか。
(複数回答)

下野市の保健福祉施策をより充実していくために重要と考える取り組みについてみると、「災害時に支援を必要とする人の把握と支援体制を充実させる」が 48.6%と最も高く、次いで「隣近所など、周囲の理解と協力による、支え合い助け合えるまちづくりをすすめる」が 38.2%、「どんなことでも相談できる、相談支援体制を充実させる」が 35.4%となっています。

n=985



《年代別》

年代別にみると、いずれの年代も概ね同様の結果となっていますが、〈70歳代以上〉で「隣近所など、周囲の理解と協力による、支え合い助け合えるまちづくりをすすめる」が51.9%、〈30歳代〉で「道路の段差解消など、バリアフリー化をすすめる」が40.5%と、他の年代に比べて高くなっています。

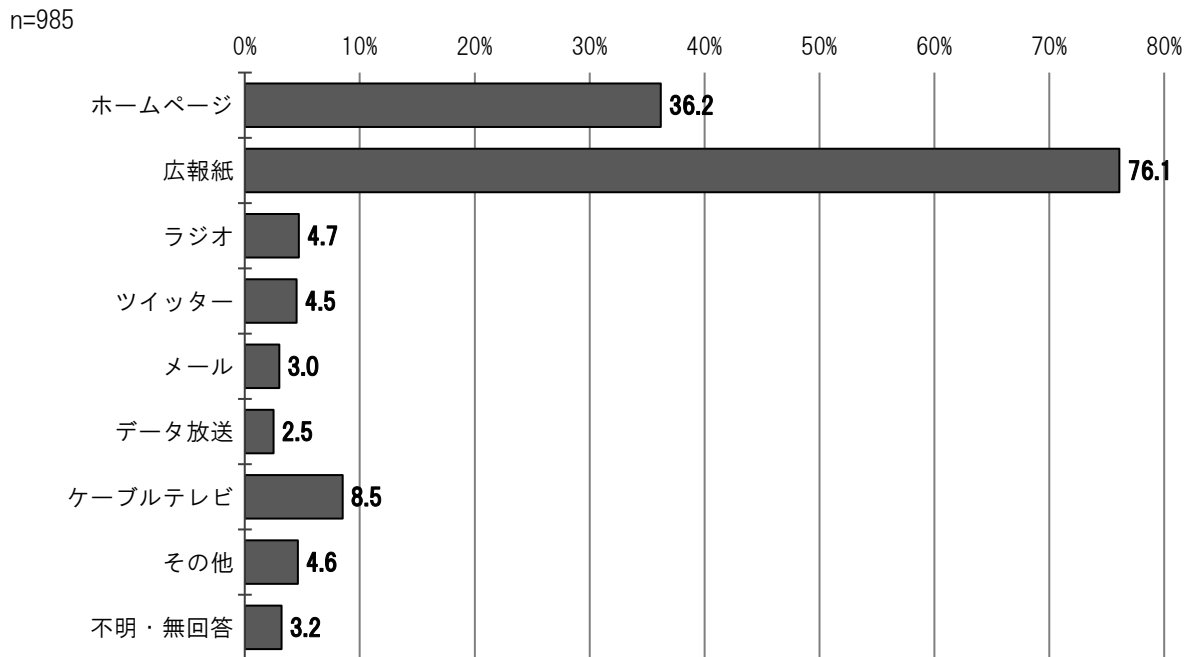
%		問27下野市の保健福祉施策をより充実していくために、あなたが重要と考える取り組みはどれですか。							
		n	隣近所など、周囲の理解と協力による、支え合い助け合えるまちづくりをすすめる	災害時に支援を必要とする人の把握と支援体制を充実させる	ボランティア団体など住民活動への援助を充実させる	年齢や障がいの有無にかかわらず地域で活動できる機会をつくる	世代や属性を超えて相談や交流ができる、場や居場所を地域に整備する	どんなことでも相談できる、相談支援体制を充実させる	悩みや困難を抱える人を見つける仕組みづくりをすすめる
年代	全体	985	38.2	48.6	17.2	22.6	18.5	35.4	20.9
	10・20歳代	192	40.6	49.5	16.7	22.9	21.9	31.3	22.9
	30歳代	153	31.4	51.0	16.3	24.8	17.6	40.5	29.4
	40歳代	162	29.0	45.7	13.6	23.5	17.9	34.0	25.9
	50歳代	145	36.6	53.8	13.1	17.2	11.0	34.5	15.9
	60歳代	161	37.3	48.4	23.6	21.1	23.0	39.1	16.1
	70歳代以上	156	51.9	44.9	19.9	25.0	16.7	35.9	15.4
年代	全体	985	29.9	25.7	24.0	7.6	7.3	34.0	33.5
	10・20歳代	192	28.6	25.0	27.6	6.3	8.9	33.9	37.5
	30歳代	153	28.8	22.9	27.5	10.5	8.5	39.2	40.5
	40歳代	162	24.7	17.9	25.9	8.0	5.6	34.6	31.5
	50歳代	145	30.3	22.1	20.7	4.8	6.2	32.4	36.6
	60歳代	161	31.1	30.4	19.3	8.1	6.8	31.1	24.8
	70歳代以上	156	37.2	33.3	22.4	7.7	7.1	32.7	30.8
	n	その他	不明・無回答						
年代	全体	985	2.5	5.8					
	10・20歳代	192	0.5	2.1					
	30歳代	153	4.6	4.6					
	40歳代	162	4.9	6.8					
	50歳代	145	1.4	4.8					
	60歳代	161	1.9	7.5					
	70歳代以上	156	2.6	9.6					

(7) 市からの情報について

問 33 あなたは、どのように市政に関する情報を得ていますか。

(複数回答)

市政に関する情報の入手先についてみると、「広報紙」が 76.1%と最も高く、次いで「ホームページ」が 36.2%、「ケーブルテレビ」が 8.5%となっています。



《年代別》

年代別にみると、いずれの年代も「広報紙」「ホームページ」が高くなっていますが、「広報紙」については年代が上がるにつれ高くなる傾向にあり、「ホームページ」については<30 歳代>で 56.2%と高く、それ以上の年代では年代が上がるほど低くなる傾向にあります。

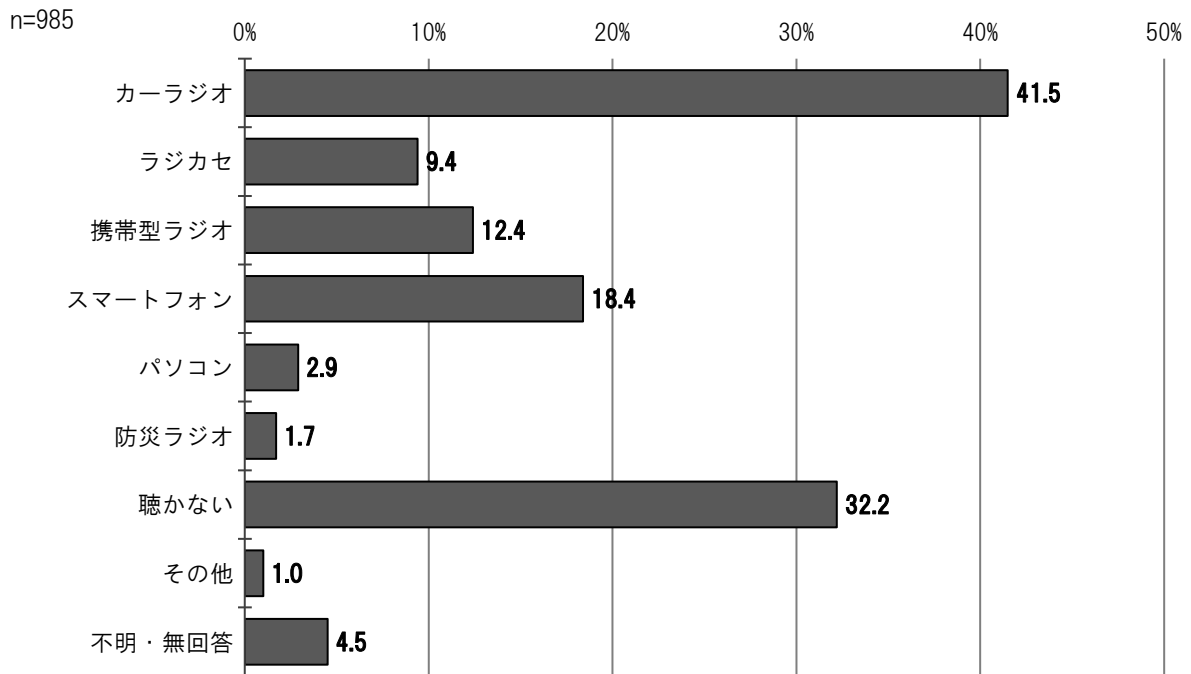
また、<60 歳代><70 歳代以上>では「ケーブルテレビ」が1割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。また、<10 歳代・20 歳代>で「その他」が 13.5%となっています。

%		問33あなたは、どのように市政に関する情報を得ていますか。							
		n	ホームページ	広報紙	ラジオ	ツイッター	メール	データ放送	ケーブルテレビ
年代	全体	560	36.2	76.1	4.7	4.5	3.0	2.5	8.5
	10・20歳代	111	38.5	52.1	5.2	9.9	1.0	2.1	6.3
	30歳代	81	56.2	70.6	1.3	9.2	3.3	2.0	5.2
	40歳代	84	42.6	78.4	2.5	2.5	6.2	1.9	6.2
	50歳代	86	37.9	83.4	5.5	3.4	5.5	4.8	6.9
	60歳代	88	31.1	92.5	4.3	0.6	1.9	2.5	11.2
	70歳代以上	100	14.1	92.9	9.0	0.6	1.3	2.6	16.0
		n	その他	不明・無回答					
年代	全体	985	4.6	3.2					
	10・20歳代	192	13.5	4.2					
	30歳代	153	2.6	0.7					
	40歳代	162	4.3	1.2					
	50歳代	145	1.4	1.4					
	60歳代	161	2.5	1.9					
	70歳代以上	156	1.3	1.3					

問 34 あなたがラジオを聴く際に利用する機器はなんですか。

(複数回答)

ラジオを聴く際に利用する機器についてみると、「カーラジオ」が 41.5%と最も高く、次いで「聴かない」が 32.2%、「スマートフォン」が 18.4%となっています。



《年代別》

年代別にみると、<10 歳代・20 歳代><30 歳代>で「聴かない」が最も高く、<40 歳代>以上の年代で「カーラジオ」が最も高くなっています。特に、<40 歳代><50 歳代><60 歳代>で「カーラジオ」が5割を超えて高い割合となっています。

また、<10 歳代・20 歳代><30 歳代>で「スマートフォン」が2割台と、他の年代に比べて高くなっています。

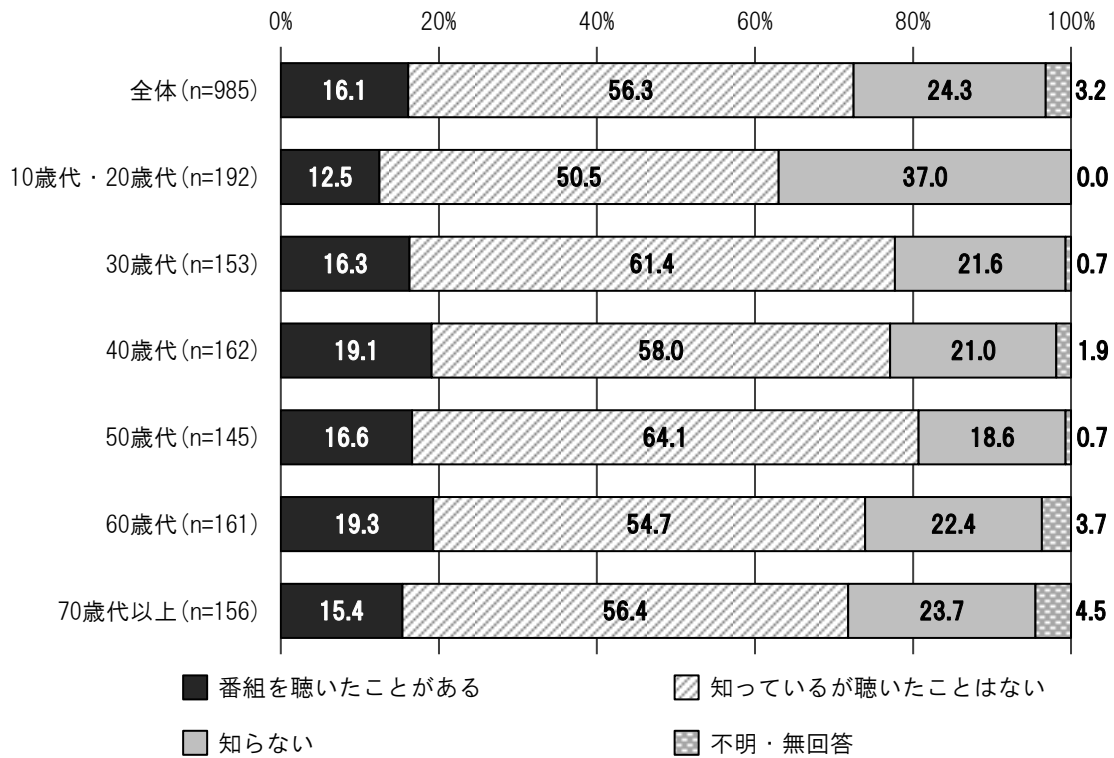
%		問34あなたがラジオを聴く際に利用する機器はなんですか。							
		n	カーラジオ	ラジカセ	携帯型ラジオ	スマートフォン	パソコン	防災ラジオ	聴かない
年代	全体	560	41.5	9.4	12.4	18.4	2.9	1.7	32.2
	10・20歳代	111	22.4	3.6	1.6	28.1	5.2	0.0	49.5
	30歳代	81	35.9	2.6	3.3	23.5	3.9	2.6	41.8
	40歳代	84	55.6	5.6	4.3	16.7	1.9	0.0	31.5
	50歳代	86	59.3	9.7	11.7	17.9	2.8	4.8	21.4
	60歳代	88	50.3	16.8	23.0	16.1	1.9	1.2	23.0
	70歳代以上	100	34.6	20.5	34.0	7.1	1.9	2.6	25.0
		n	その他	不明・無回答					
年代	全体	985	1.0	4.5					
	10・20歳代	192	1.0	2.1					
	30歳代	153	1.3	3.9					
	40歳代	162	1.9	1.9					
	50歳代	145	0.7	2.1					
	60歳代	161	0.6	3.1					
	70歳代以上	156	0.6	5.1					

問 35 あなたは、下野コミュニティFM「FMゆうがお」を知っていますか。 (単数回答)

下野コミュニティ FM「FM ゆうがお」の認知度についてみると、全体では「知っているが聴いたことはない」が56.3%と最も高く、次いで「知らない」が24.3%、「番組を聴いたことがある」が16.1%となっています。

年代別にみると、いずれの年代でも「知っているが聴いたことはない」が最も高くなっています。また、<10 歳代・20 歳代>で「知らない」が37.0%と、他の年代に比べて高くなっています。

【「FMゆうがお」の認知度・年代別】



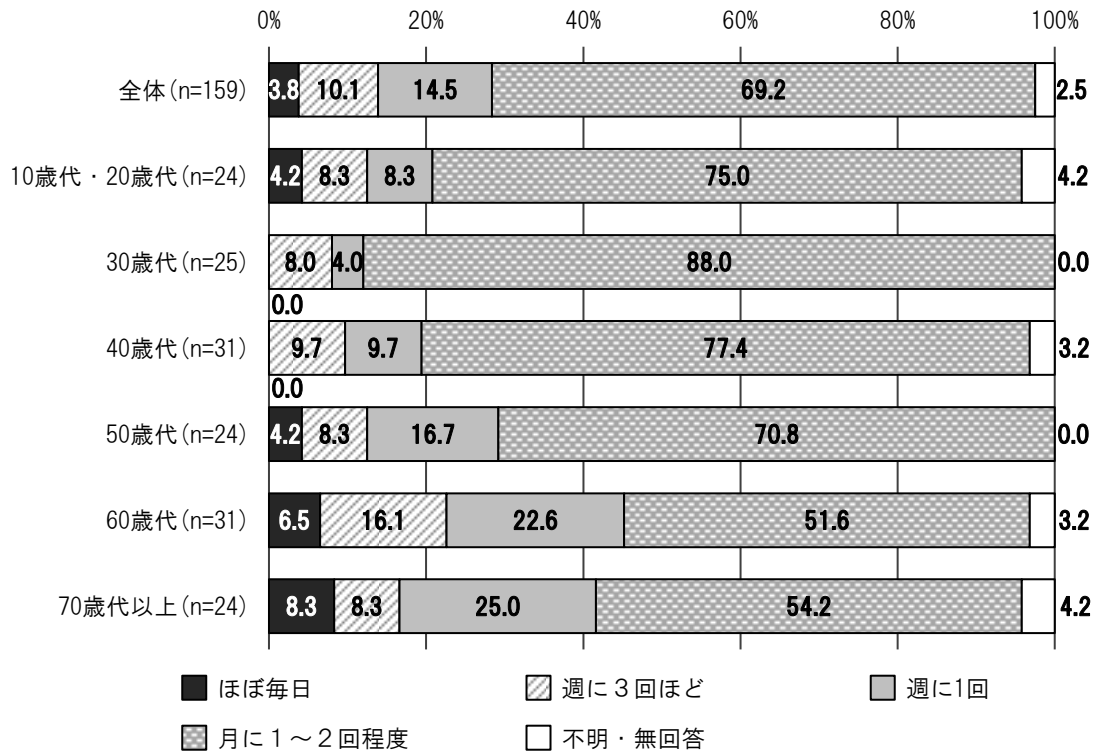
問 35 で「番組を聞いたことがある」を選んだ人におたずねします。

問 35-2 あなたは、「FMゆうがお」をどのくらいの頻度で聴きますか。 (単数回答)

「FM ゆうがお」の利用頻度についてみると、全体では「月に1～2回程度」が 69.2%と最も高く、次いで「週に1回」が 14.5%、「週に3回ほど」が 10.1%となっています。

年代別の結果はサンプル数がやや少なく参考程度の結果となりますが、年代が上がるほど聴く頻度が高い傾向にあります。

【「FMゆうがお」の利用頻度・年代別】

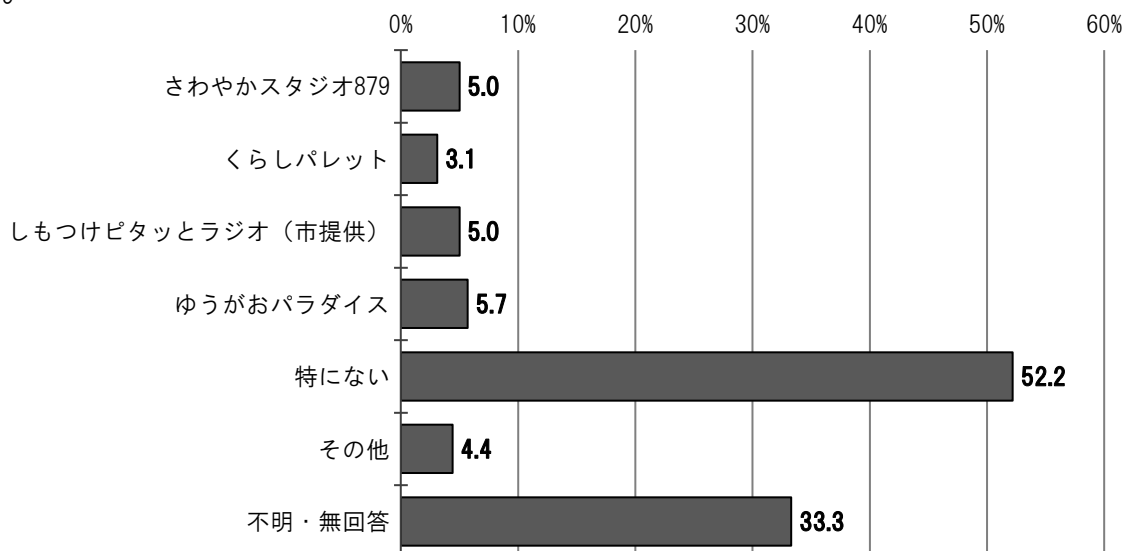


問 35 で「番組を聴いたことがある」を選んだ人におたずねします。

問 35-3 あなたが好きな「FMゆうがお」の番組はどれですか。 (複数回答)

好きな「FM ゆうがお」の番組についてみると、「特にない」が 52.2%と最も高く、次いで「ゆうがおパラダイス」が 5.7%、「さわやかスタジオ 879」「しもつけピタッとラジオ(市提供)」が 5.0%となっています。

n=159



《年代別》

年代別にみると、いずれの年代も「特にない」が最も高くなっています。

	%	問35-3 あなたが好きな「FMゆうがお」の番組はどれですか。							
		n	さわやかスタジオ 879	くらしパレット	しもつけピタッと ラジオ(市提供)	ゆうがお パラダイス	特にない	その他	不明・無回答
年代	全体	159	5.0	3.1	5.0	5.7	52.2	4.4	33.3
	10・20歳代	24	0.0	0.0	4.2	4.2	50.0	4.2	37.5
	30歳代	25	0.0	0.0	4.0	0.0	60.0	0.0	36.0
	40歳代	31	3.2	6.5	0.0	0.0	48.4	0.0	41.9
	50歳代	24	8.3	4.2	4.2	4.2	45.8	8.3	37.5
	60歳代	31	6.5	0.0	3.2	12.9	51.6	6.5	32.3
	70歳代以上	24	12.5	8.3	16.7	12.5	58.3	8.3	12.5

問 36 自由記述

合計で 152 件のご意見をいただきました。いただいたご意見の分類結果については以下の表のとおりとなっています。

普段からの地域のつながりについて	21 件
地域環境・地域における課題について	30 件
地域活動について	16 件
子育て支援について	13 件
高齢者福祉について	9 件
障がい者福祉について	4 件
情報提供について	17 件
相談支援について	6 件
公共交通・移動支援について	14 件
その他福祉施策について	22 件
合計	152 件

いただいたご意見のうち一部を以下に抜粋・要約し掲載しています。

普段からの地域のつながりについて

- 地域の方と普段からあいさつや立ち話等出来ればよいと思う。
- 地域との関わりを深めて、何か協力できる事があれば関わっていきたい。
- 隣近所にアパートが増えてきましたので、住人に会った時はこちらから声を（挨拶）かけるようにしている。
- 隣人同士のつながりが薄れてきている。

地域環境・地域における課題について

- 地域安全のため街灯を増やしてほしい。
- 子どもを連れて買い物に行くのが大変なので近くにスーパーが欲しい。
- 空き家問題が気になっている。今後、高齢化社会が進むにつれ、深刻になっていくと思うので、何か対策が必要だと感じている。
- ごみ捨て場が車で行かないといけないほど遠くにあり、不便に感じている。

地域活動について

- 講演会とか体操教室など誰でも参加できる催しを開いてほしい。
- 高齢化に伴い自治会の存続の仕方などを考えていかないといけない。
- 地域のサークルやボランティア活動の情報を発信してほしい。
- 中学生や高校生、大学生が参加できるボランティアを市で募集・運営してほしい。

子育て支援について

- 産まれてすぐ新生児訪問、4ヶ月、10ヶ月、1才半、3才とそれぞれの検診で保健士さんにお会いする機会があるが、以降はかなりあいてしまう印象。赤ちゃんの頃と違った悩みや発達の不安がある中、もう少し気軽に相談が出来るサービスがあればいいと思う。
- 病児保育をもっと増やしてほしい。習い事をさせたいが、送迎が難しい。ファミリー・サポート・センターがあるのは知っているが、利用方法などが分からない。
- 小学校通学路で見守って下さる方が足りない。横断歩道等、登下校の見守りをして頂けると大変助かる。

高齢者福祉について

- 自治会や班長さん等で高齢者の独居老人宅は特に見守りが必要ではないかと思う。
- 昼間に家で一人になってしまうお年寄りが多いように思う。何か、徒歩で気軽に行くことができ、憩いの場となるような施設があると良いと思う。
- 年金受給額の範囲内で支援を受けられる制度の充実を望む。

障がい者福祉について

- 障がい者との関わる機会が無いので接し方がわからない。
- 障がい者(児)が入所、通所するところが近くに無い。

情報提供について

- 福祉に関する情報を積極的に発信しないといけないと思う。
- 個人に対してだけでなく、団体に対しても多くの情報を発信してほしいし、連携を取ってほしい。
- メールやアプリを使って情報が容易に入手できるようになってほしい。

相談支援について

- 相談する人や機会を今以上に増やすことが必要である。
- 高齢者や子供への虐待防止の為に気軽に相談できる窓口はあるかと思うが、こういった悩み、相談の場合は、この課へというような分かりやすい書面を配布してはどうか。

公共交通・移動支援について

- 高齢者が移動できるよう、タクシー券やデマンドバスなどを充実させてほしい。
- 車を所有していない人は、買い物や通院に不便を感じる環境だと思う。
- 道の駅やふれあい館にバスで行けないのはもったいないし不便。

その他福祉施策について

- 子ども食堂や、低所得の為塾に行けない中・高生(今後小学生も)に勉強を教えるなど、子どもの貧困対策を推進してほしい。
- 災害時など緊急時に、近所で声を掛け合って助け合うには事前の準備(誰が助けを求めているか、誰は助けられる余裕があるかなど)の話し合いなどが必要と思うが、機会がないように思う。リーダーシップを取れる方が地域に必要なのだが、輪番で回ってくる班長や自治会長にすべてを任せるのは負担が大きく、行政の手助けが必要だと思う。
- 支出できる予算が限られている中で、若者への支援など重点を絞って取り組んでほしい。

（8）～地域との付き合い度合い別にみた調査結果～

（再掲）問3 あなたは、ふだん近所の人とどの程度の付き合いをされていますか。
（単数回答）

近所の人との付き合いの程度についてみると、「会えばあいさつをかわす」が42.2%と最も高く、次いで「たまに立ち話をする」が28.1%、「付き合いがほとんどない」が11.9%となっています。

以下(8)では

付き合いが“ある”

（「常日ごろから家族ぐるみの付き合いがある」

「困っているとき（悩み、病気、事故など）に、相談をしたり、助け合ったりする」

「一緒にお茶を飲んだり、留守にするとときに声をかけあう」の合計）

付き合いが“少しある”

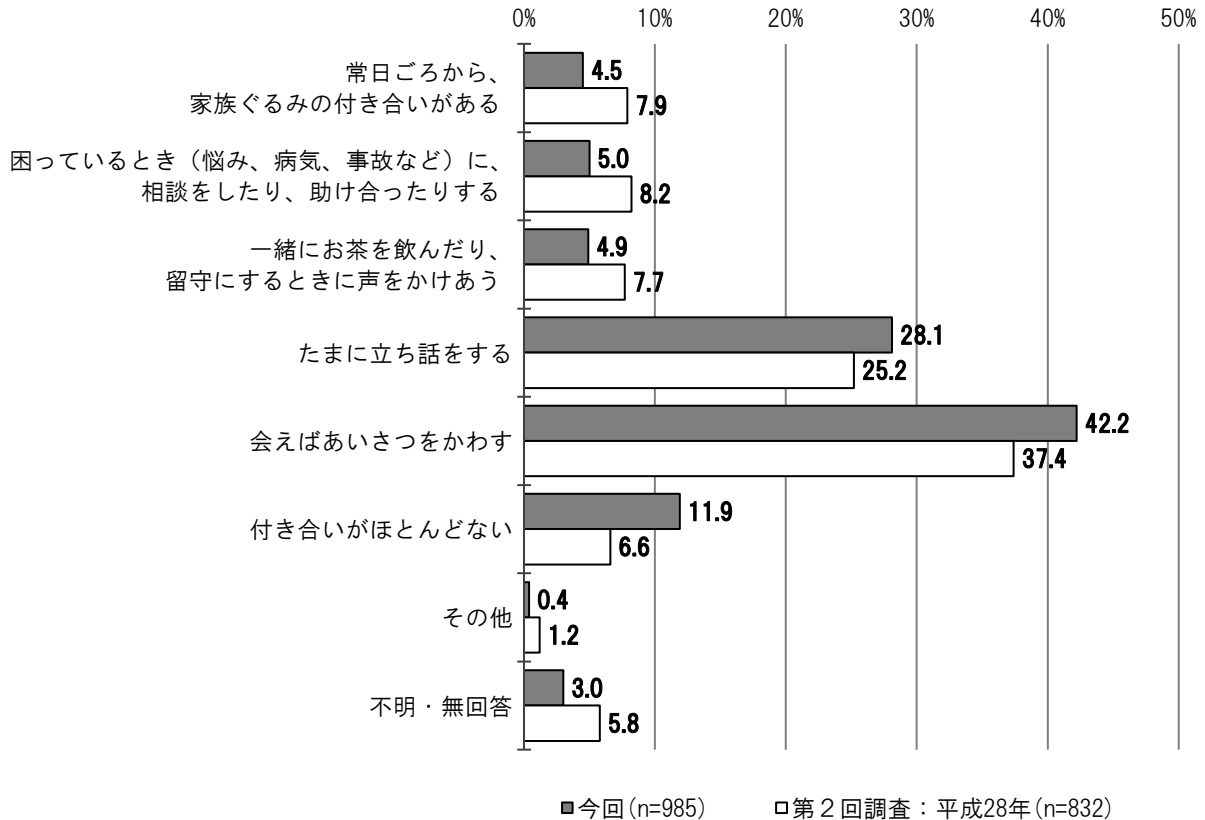
（「たまに立ち話をする」「会えばあいさつをかわす」の合計）

付き合いが“ほとんどない”

（「付き合いがほとんどない」）

の3区分に分けて、地域での付き合いの状況が地域活動や支援への意向、情報の入手状況などにどのような影響を与えているかを分析しています。

【普段の付き合い・前回比較】



問7 隣近所で、高齢者や障がいのある人の介助・介護や子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができると思いますか。(複数回答)

あなたのできる、高齢者や障がいのある人の介助・介護や子育てなどで困っている家庭への手助けについて、地域との付き合い度合い別にみると、ほとんど全ての項目で、付き合い度合いが強いほど高い割合となっています。

一方、「災害時の手助け」では、付き合い度合いに関わらず同様の結果となっています。

また、「特にない」についてみると“ある”と“少しある”では 2.2 ポイントの差にとどまった一方で、“ほとんどない”では 26.5%と、他と比べて 15 ポイント以上高くなっています。

%		問7隣近所で、高齢者や障がいのある人の介助・介護や子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができると思いますか。									
		n	安否確認の声かけ	趣味などの話し相手	買い物の手伝い	ごみ出し	外出の手助け	家の前などの掃除	短時間の子どもの預かり		
付き合い	全体	985	57.7	14.4	17.8	18.7	7.5	16.5	7.6		
	ある	141	69.5	19.9	25.5	21.3	12.8	19.1	12.8		
	少しある	693	57.6	13.0	17.2	19.3	6.8	16.6	6.9		
	ほとんどない	117	43.6	13.7	12.8	9.4	4.3	9.4	4.3		
		n	子どもの送り迎え	子どもの通学路の見守り	高齢者等の介護	災害時の手助け	災害以外の緊急時の手助け	特にない	その他		
付き合い	全体	985	5.4	14.5	3.4	49.4	32.3	12.4	1.9		
	ある	141	6.4	22.0	2.1	45.4	35.5	8.5	2.1		
	少しある	693	6.1	14.3	3.9	50.6	33.2	10.7	1.9		
	ほとんどない	117	0.9	6.0	1.7	50.4	25.6	26.5	2.6		
		n	不明・無回答								
付き合い	全体	985	2.3								
	ある	141	2.8								
	少しある	693	2.5								
	ほとんどない	117	0.9								

問9 あなたは、暮らしの中で相談や手助けが必要なとき誰に頼みたいと思いますか。
(複数回答)

暮らしの中で相談や手助けを頼みたい人について、地域との付き合い度合い別にみると、いずれも「家族・親戚」が8割以上、「知人・友人」が4割程度となっています。

「隣近所の人」「医療機関の医師」「自治会長」「民生委員児童委員」「地域包括支援センター」「障がい児者相談支援センター」で付き合いの度合いが強いほど頼みたいと思う割合が高くなっています。特に「隣近所の人」でこの傾向が顕著で“ある”が39.0%と、“少しある”“ほとんどない”の1割前後を大きく上回っています。

一方で、「職場の人」は付き合いの度合いが弱いほど頼みたいと思う割合が高くなっています。

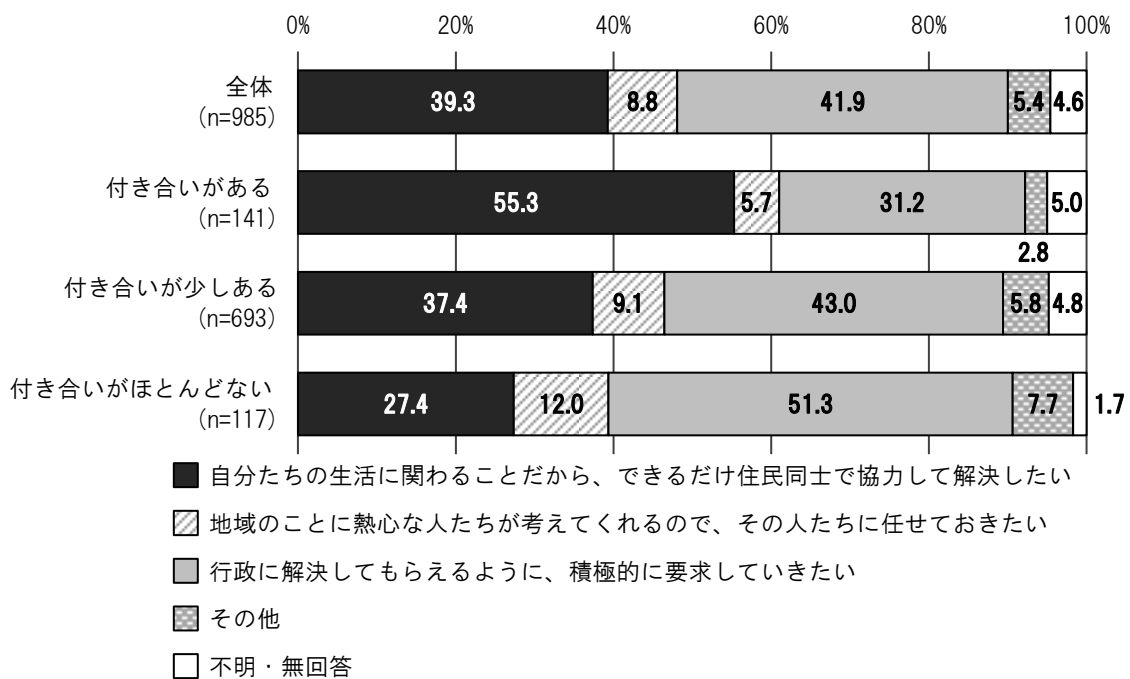
%		問9あなたは、暮らしの中で相談や手助けが必要なとき誰に頼みたいと思いますか。							
		n	家族・親戚	隣近所の人	知人・友人	職場の人	医療機関の医師	自治会長	民生委員児童委員
付き合い	全体	985	86.6	16.4	43.7	10.6	12.6	3.4	4.1
	ある	141	85.1	39.0	41.8	4.3	16.3	7.8	8.5
	少しある	693	87.9	13.0	44.6	11.3	12.6	2.9	3.5
	ほとんどない	117	82.9	8.5	38.5	15.4	9.4	0.0	1.7
		n	社会福祉協議会	地域子育て支援センター	地域包括支援センター	障がい児者相談支援センター	市役所の窓口や職員（保健師等）	頼める人がいない	頼むつもりはない
付き合い	全体	985	6.8	4.8	13.2	3.5	21.3	1.4	1.9
	ある	141	12.1	4.3	19.1	5.7	15.6	0.7	2.8
	少しある	693	5.8	5.1	13.0	3.3	23.8	1.3	1.6
	ほとんどない	117	6.0	5.1	7.7	2.6	16.2	1.7	3.4
		n	その他	不明・無回答					
付き合い	全体	985	1.0	2.7					
	ある	141	1.4	4.3					
	少しある	693	0.9	2.2					
	ほとんどない	117	0.9	4.3					

問 10 日常生活の中で起こる問題に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。
(単数回答)

日常生活での問題に対する解決方法について、地域との付き合い度合い別にみると、“ある”では「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ住民同士で協力して解決したい」が、“少しある”“ほとんどない”では「行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」が最も高くなっています。

また、付き合い度合いが強くなるほど「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ住民同士で協力して解決したい」の割合が高くなっています。

【日常生活での問題に対する解決方法・付き合い度合い別】

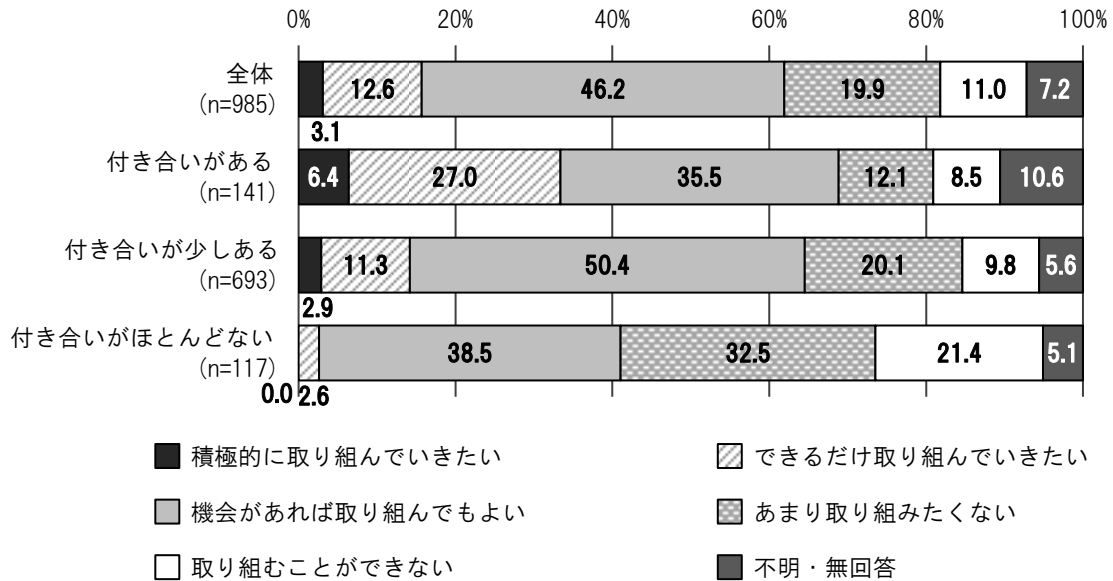


問 12 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等に、どの程度取り組んでいきたいと考えていますか。(単数回答)

今後の各種支援活動への取り組み意欲について、地域との付き合い度合い別にみると、付き合い度合いが強くなるほど、「積極的に取り組んでいきたい」「できるだけ取り組んでいきたい」の割合が高くなっています。

また、“ほとんどない”では「あまり取り組みたくない」が 32.5%、「取り組むことができない」が 21.4%と、他に比べて高くなっています。

【各種支援活動への意欲・付き合い度合い別】

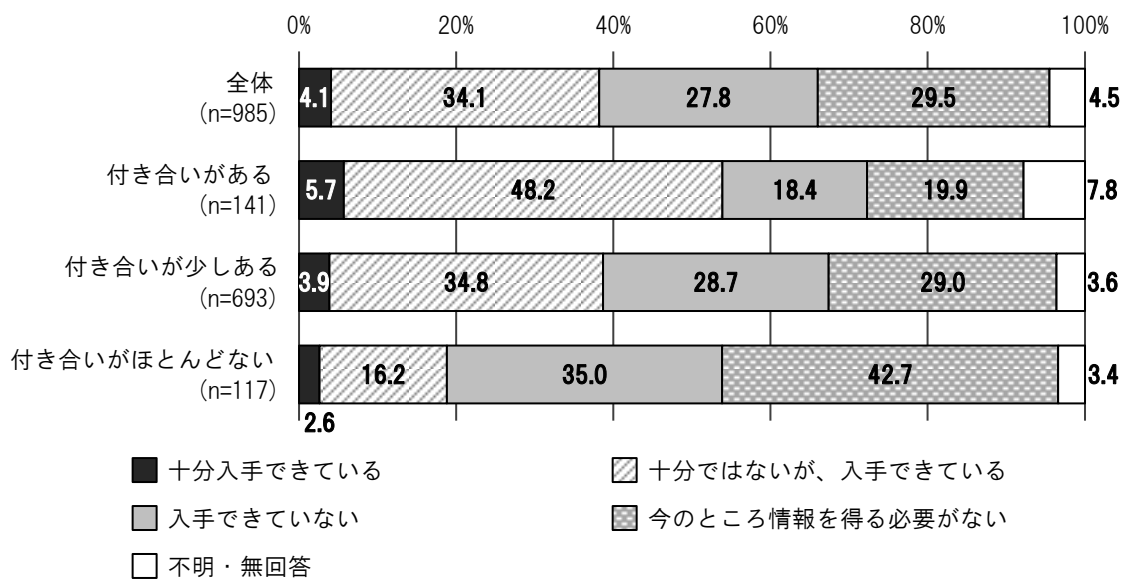


問 16 あなたは、自分に必要な「福祉サービス」の情報をどの程度入手できているとお考えですか。
(単数回答)

自分に必要な「福祉サービス」の情報の入手状況について、地域との付き合い度合い別にみると、“ある”“少しある”では「十分ではないが、入手できている」が、“ほとんどない”では「今のところ情報を得る必要がない」が最も高くなっています。

また、付き合い度合いが強くなるほど、「十分入手できている」「十分ではないが、入手できている」が高い割合となっています。

【福祉サービスの情報の入手状況・付き合い度合い別】



問 16-2 あなたは、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから入手していますか。
(複数回答)

「福祉サービス」に関する情報の入手先について、付き合い度合い別にみると、“ある”では「社会福祉協議会」「地域包括支援センター」「近所の人・知人・友人」「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が他に比べて高くなっています。

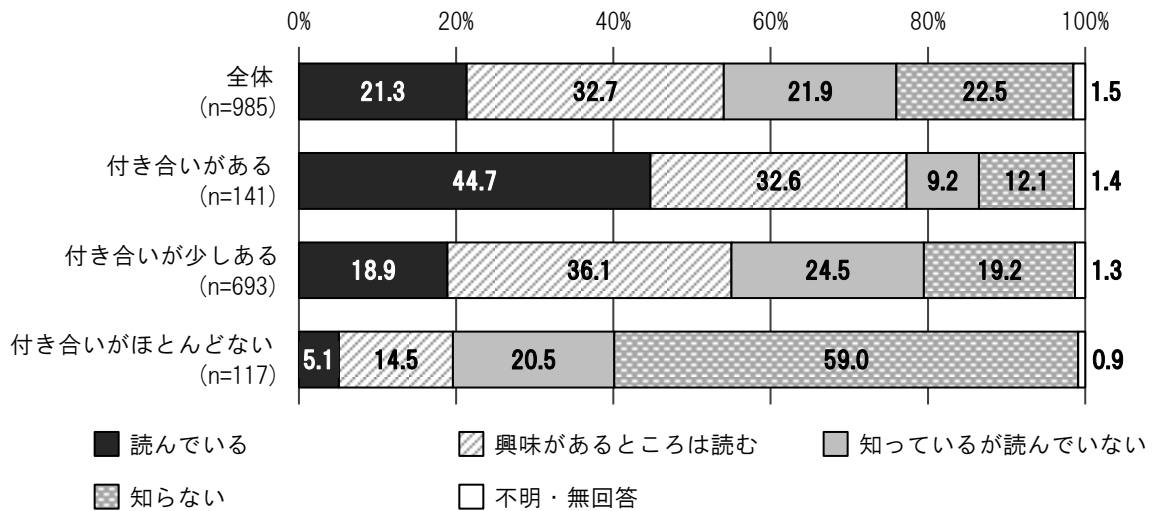
“ほとんどない”では「市役所の窓口や広報誌」が他に比べて低く、「地域子育て支援センター」「インターネット」が他に比べて高い割合となっています。

%		問16-2 あなたは、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから入手していますか。							
		n	市役所の窓口や 広報紙	民生委員児童委員	社会福祉協議会	地域子育て 支援センター	地域包括 支援センター	居宅介護支援 事業者（ケア マネジャー）や ホームヘルパー	近所の人・知人・ 友人
付き合い	全体	376	76.1	4.8	11.2	6.9	10.4	10.6	22.9
	ある	76	77.6	9.2	15.8	9.2	15.8	13.2	38.2
	少しある	268	77.2	3.7	10.4	6.0	10.1	10.8	19.4
	ほとんど ない	22	59.1	0.0	0.0	13.6	0.0	0.0	0.0
		n	新聞・雑誌・ テレビ・ラジオ	インターネット	その他	不明・無回答			
付き合い	全体	376	17.3	33.2	4.3	0.3			
	ある	76	23.7	27.6	2.6	0.0			
	少しある	268	16.0	34.7	4.1	0.4			
	ほとんど ない	22	0.0	45.5	9.1	0.0			

問 20 社会福祉協議会の広報紙「しもつけ社協だより」（年6回発行）をご存じですか。
（単数回答）

広報誌「しもつけ社協だより」の認知状況について、地域との付き合い度合い別にみると、“ある”では「読んでいる」が、“少しある”では「興味があるところは読む」が、“ほとんどない”では「知らない」が最も高くなっています。付き合い度合いが強くなるほど、「読んでいる」が高くなっています。

【広報紙「しもつけ社協だより」の認知状況・付き合い度合い別】



IV. 調査票

「第3期下野市地域福祉計画及び地域福祉活動計画」策定のための アンケート調査 ご協力をお願い

市民の皆様には日ごろから福祉行政にご協力いただき、ありがとうございます。

下野市並びに下野市社会福祉協議会では、「第2期下野市地域福祉計画・地域福祉活動計画」に基づき、『思いやりの心で互いに支え合い、いきいきと暮らせる 幸せ実感のまち 下野』を目指して、福祉の様々な取り組みを進めてきました。

このたび、新たに「第3期計画」を策定するため、ご近所付き合いやボランティア活動、地域福祉活動などに関するアンケート調査を、18歳以上の市民2,000名を対象に実施することといたしました。

なお、このアンケート調査に際しましては、プライバシーの保護に万全を期しておりますので、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年7月

下野市長 広瀬 寿雄
下野市社会福祉協議会長 小口 昇

記入上のおお願い

1. このアンケートは**選択式**です。考えすぎることなく、あてはまる選択肢の**番号に○**をつけてください。また、記入欄については、具体的にその内容をご記入ください。
2. ご記入は、ご本人にお願いいたします。ご本人のご記入が困難な場合は、ご家族の方などがご本人のお考えをお聞きのうえ、またはご意向をくみ取ったうえで、代理でご記入をお願いいたします。
3. ご記入いただいた調査票は、**7月26日（月）**までに、同封の封筒に入れて投函してください。（切手は不要です。）



下野薬師寺歴史館
イメージキャラクター
こまる・べにまる

【問い合わせ先】

下野市健康福祉部 社会福祉課 社会福祉グループ
電話：0285-32-8899 FAX：0285-32-8601

■ 地域福祉って何？

普段の生活の中で、ちょっとした不安を感じたことはありませんか？

地域に心配な人がいるけど
どうしたらよいか…



気になることがあるけど
どこに相談しよう…



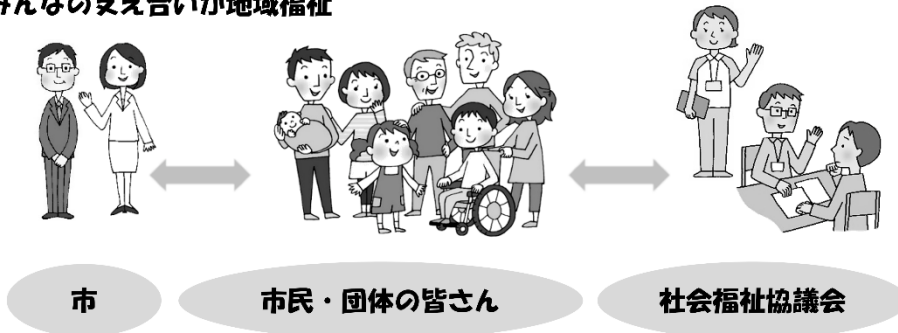
最近ご近所のつながりが
弱くなっているな…



など、こういった不安は、ほんの少しの手助けや気づかいで解決できることがたくさんあります。

誰もが住み慣れたところで自分らしく安心して暮らせる地域であるために、皆さん一人ひとりがお住まいの地域にある困りごとを「自分のこと」としてとらえ、「暮らしやすい地域づくりの担い手」となって、地域の皆さん、市、社会福祉協議会をはじめとしたみんなで支え合っていくことが「**地域福祉**」です。

みんなの支え合いが地域福祉



地域福祉を
進めていくためには？

地域のことや、日頃感じる生活の
課題などを一番よく知っている
**地域の皆さんの参加と協力が
必要不可欠**となります。

**地域参加への第一歩として、
アンケート調査へのご協力を
よろしくお願いします。**

1. 地域との関わりについて

問1 あなたが考える「地域」の範囲をお答えください。(ひとつだけ○)

- | | |
|---------|-----------|
| 1. 隣近所 | 4. 中学校区 |
| 2. 自治会 | 5. 下野市全域 |
| 3. 小学校区 | 6. その他() |

問2 あなたは、今住んでいる地域に愛着がありますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|--------------|----------|
| 1. 大いにある | 4. あまりない |
| 2. ある程度ある | 5. 全くない |
| 3. どちらともいえない | |

問3 あなたは、ふだん近所の人とどの程度の付き合いをされていますか。(ひとつだけ○)

- | |
|---|
| 1. 常日ごろから、家族ぐるみの付き合いがある |
| 2. 困っているとき(悩み、病気、事故など)に、相談をしたり、助け合ったりする |
| 3. 一緒にお茶を飲んだり、留守にするとときに声をかけあう |
| 4. たまに立ち話をする |
| 5. 会えばあいさつをかわす |
| 6. 付き合いがほとんどない |
| 7. その他() |

問4 あなたが住んでいる地域の人々は地域の助け合い・支え合いに積極的だと思いますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 積極的だと思う | 4. あまり積極的だと思わない |
| 2. ある程度積極的だと思う | 5. 積極的だと思わない |
| 3. どちらともいえない | |



問5 現在、あなたの住んでいる地域の中での問題点や不足していると思うものは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. あいさつをしない人が多い
2. 災害時、緊急時の協力体制ができていない
3. 犯罪の増加
4. 交通マナーの乱れ
5. 道ばたのごみが増えた
6. 地域での子どもの見守りがなされていない
7. 地域の問題や困りごとを隣近所の人と相談できない
8. 隣近所との交流が少ない
9. 世代間の交流が少ない
10. 地域の活動が活発でない
11. 地域の中で気軽に集まれる場が少ない
12. 障がいのある人に対する理解が不足している
13. 健康に対する意識が低い
14. 特にない
15. その他 ()

問6 あなたの住んでいる地域の中に、以下のように見受けられる世帯はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事や学校に行かず、概ね6か月以上続けて自宅にひきこもっている人がいる
2. 10代から30代前後で、就学や就労していない人がいる
3. 80歳前後の親と、50歳前後の無職未婚の子が同居している
4. 親の介護と子育てを同時にしている
5. 18歳未満の子どもが家族の世話や介護をしている
6. 建物や敷地内にごみなどを積み上げた状態（いわゆる「ごみ屋敷」）で生活している
7. 働いているが、生活に支障があるほど経済的に困っている
8. 経済的な理由で、衣食住の確保や病院の受診などができていない人がいる
9. 子どもや高齢者、障がいなどの各福祉分野に該当するサービスなどがなく、必要な支援を受けることができていない人がいる
10. 犯罪や非行を繰り返している人がいる
11. その他お困りの人がいる ()
12. いない
13. わからない

問7 隣近所で、高齢者や障がいのある人の介助・介護や子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができますかと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 安否確認の声かけ | 8. 子どもの送り迎え |
| 2. 趣味などの話し相手 | 9. 子どもの通学路の見守り |
| 3. 買い物の手伝い | 10. 高齢者等の介護 |
| 4. ごみ出し | 11. 災害時の手助け |
| 5. 外出の手助け | 12. 災害以外の緊急時の手助け |
| 6. 家の前などの掃除 | 13. 特にない |
| 7. 短時間の子どもの預かり | 14. その他 () |

問8 あなたが将来日常生活で困ることがあった場合、隣近所の人にどのような手助けをしてもらいたいと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 安否確認の声かけ | 8. 子どもの送り迎え |
| 2. 趣味などの話し相手 | 9. 子どもの通学路の見守り |
| 3. 買い物の手伝い | 10. 高齢者等の介護 |
| 4. ごみ出し | 11. 災害時の手助け |
| 5. 外出の手助け | 12. 災害以外の緊急時の手助け |
| 6. 家の前などの掃除 | 13. 特にない |
| 7. 短時間の子どもの預かり | 14. その他 () |

問9 あなたは、暮らしの中で相談や手助けが必要などき誰に頼みたいと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|------------|----------------|---------------------|
| 1. 家族・親戚 | 6. 自治会長 | 11. 障がい児者相談支援センター |
| 2. 隣近所の人 | 7. 民生委員児童委員 | 12. 市役所の窓口や職員(保健師等) |
| 3. 知人・友人 | 8. 社会福祉協議会 | 13. 頼める人がいない |
| 4. 職場の人 | 9. 地域子育て支援センター | 14. 頼むつもりはない |
| 5. 医療機関の医師 | 10. 地域包括支援センター | 15. その他 () |

問10 日常生活の中で起こる問題に対して、どのような方法で解決するのが良いと思えますか。(ひとつだけ○)

- | |
|---|
| 1. 自分たちの生活に関わることだから、できるだけ住民同士で協力して解決したい |
| 2. 地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに任せておきたい |
| 3. 行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい |
| 4. その他 () |

2. 地域活動やボランティア活動などについて

問11 あなたは、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等について、取り組んでいますか。(ひとつだけ○)

1. 現在、継続的に取り組んでいる	4. 取り組んだことはない
2. たまに、取り組むことがある	5. 取り組むことができない
3. 取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない	

↓

問 11-3へ

問11で「1」「2」「3」を選んだ人におたずねします。

問 11-2 どのような活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自治会の活動	7. スポーツ団体の活動
2. 婦人会・女性会の活動	8. 趣味等のサークル活動
3. 子ども会の活動	9. ボランティア活動
4. 老人クラブの活動	10. NPO活動
5. PTAの活動	11. 地域サロン活動
6. 子育てサークルの活動	12. その他()

問11で「4」「5」を選んだ人におたずねします。

問 11-3 現在活動していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自治会等の組織に入っていない	7. 家族の理解が得られない
2. 仕事などの都合で機会がない	8. 体調がすぐれない
3. 参加方法がわからない	9. 一緒に活動する仲間がいない
4. 時間がない	10. わずらわしい
5. 興味が無い	11. 新型コロナウイルスの影響でできない
6. 経済的な負担が大きい	12. その他()

問12 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等に、どの程度取り組んでいきたいと考えていますか。(ひとつだけ○)

1. 積極的に取り組んでいきたい	4. あまり取り組みたくない
2. できるだけ取り組んでいきたい	5. 取り組むことができない
3. 機会があれば取り組んでもよい	

↓

問 12-2へ

↓

問 13へ

問12で「1」「2」「3」を選んだ人におたずねします。

問12-2 どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 活動情報の提供がある | 7. 特技や知識が活かせる |
| 2. 友人等と一緒に参加できる | 8. やりがいがある |
| 3. 身近なところで活動できる | 9. 身体的な負担が少ない |
| 4. 活動時間や曜日が自由 | 10. 経済的な負担が少ない |
| 5. 気軽に参加できる | 11. 特にない |
| 6. 適切な指導者やリーダーがいる | 12. その他 () |

3. 福祉サービス・相談について

問13 あなたは「福祉」に関心がありますか。(ひとつだけ○)

1. とても関心がある
2. ある程度関心がある
3. あまり関心がない
4. 全く関心がない

問14 下野市は子どもや高齢者、障がいのある人などにとって暮らしやすいまちだと思いますか。
(ひとつだけ○)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 暮らしやすいと思う | 4. 暮らしやすいとは思わない |
| 2. まあまあ暮らしやすいと思う | 5. わからない |
| 3. あまり暮らしやすいとは思わない | |

問15 下野市は子どもや高齢者、障がいのある人などに限らず、様々な悩みや困難を抱える方にとって、相談がしやすいなど、暮らしやすいまちだと思いますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 暮らしやすいと思う | 4. 暮らしやすいとは思わない |
| 2. まあまあ暮らしやすいと思う | 5. わからない |
| 3. あまり暮らしやすいとは思わない | |



問16 あなたは、自分に必要な「福祉サービス」の情報をどの程度入手できているとお考えですか。
(ひとつだけ○)

1. 十分入手できている

2. 十分ではないが、入手できている

3. 入手できていない

4. 今のところ情報を得る必要がない

問17へ

問16で「1」「2」を選んだ人におたずねします。

問16-2 あなたは、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| 1. 市役所の窓口や広報紙 | 6. 居宅介護支援事業者(ケアマネジャー)やホームヘルパー |
| 2. 民生委員児童委員 | 7. 近所の人・知人・友人 |
| 3. 社会福祉協議会 | 8. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ |
| 4. 地域子育て支援センター | 9. インターネット |
| 5. 地域包括支援センター | 10. その他() |

問17 あなたは、次の団体や機関・制度等を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1. 民生委員児童委員 | 7. 子育て世代包括支援センター |
| 2. 家庭相談員・婦人相談員 | 8. 障がい児者相談支援センター |
| 3. 生活支援コーディネーター | 9. 生活困窮者自立支援制度(ささえーる) |
| 4. 地域包括支援センター | 10. 社会を明るくする運動 |
| 5. 社会福祉協議会 | 11. 地域共生社会 |
| 6. 地域子育て支援センター | 12. いずれも知らない |

問18 あなたは、再犯防止に協力する民間協力者として、次の方々がいることを知っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|------------|----------------|--------------|
| 1. 保護司 | 5. 更生保護施設 | 9. 少年指導委員 |
| 2. 更生保護女性会 | 6. 教誨師(きょうかいし) | 10. 少年警察協助手 |
| 3. 協力雇用主 | 7. 篤志面接委員 | 11. いずれも知らない |
| 4. BBS会 | 8. 少年補導員 | 12. その他() |

問19 あなたは、犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|-----------------|----------|
| 1. 思う | 4. 思わない |
| 2. どちらかといえば思う | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば思わない | |

問20 社会福祉協議会の広報紙「しもつけ社協だより」(年6回発行)をご存じですか。(ひとつだけ○)

1. 読んでいる
2. 興味があるところは読む
3. 知っているが読んでいない
4. 知らない



問21 地域で暮らしやすくしていくために、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 福祉に関する総合相談窓口 | 9. 高齢者の福祉サービス |
| 2. 福祉・ボランティアに関する情報収集・発信 | 10. 障がい児者の福祉サービス |
| 3. 児童・生徒・市民向けの福祉教育の推進 | 11. 子育てに関する支援 |
| 4. 世代を超えた交流の場づくり・イベントの開催 | 12. 生活困窮者への支援 |
| 5. ボランティア活動支援(育成・充実) | 13. 権利擁護
(法人後見事業・日常生活自立支援事業) |
| 6. 災害ボランティアセンターの運営 | 14. わからない |
| 7. 各種福祉団体やサロンの育成・支援 | 15. その他() |
| 8. 地区社協の体制整備・支援 | |

4. 権利擁護について

問22 判断能力が十分でない方の権利を守るための、以下の制度について知っていますか。(ア・イそれぞれ、ひとつずつ○)

		知っている	制度名は知っているが、内容は知らない	制度名も内容も知らない
ア	成年後見制度	1	2	3
イ	日常生活自立支援事業(あすてらす)	1	2	3

権利擁護に関する制度

【成年後見制度】

障がいや認知症などで判断能力が十分でない場合、ご本人に代わり財産管理や施設入所・入院の契約手続きなどを家庭裁判所が選任した後見人等が法的に支援する制度です。

【日常生活自立支援事業(あすてらす)】

認知症の高齢者や知的障がい、精神障がいなどにより判断能力に不安がある方に対して、本人との契約により福祉サービスの利用や日常的な金銭管理の支援を行うことで、地域で安心して自立した生活が送れるようにする事業です。



問23 将来的にあなた自身の判断能力が不十分になった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。(ひとつだけ○)

1. 利用したい	2. 利用したくない	3. わからない
----------	------------	----------

問23で「1」を選んだ人におたずねします。

問23-3へ

問23-2 成年後見制度を利用することになった場合、誰に後見人になって支援してほしいですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者や子どもなどの親族	4. 市民後見人
2. 弁護士や司法書士などの専門職	5. わからない
3. 社会福祉協議会などの団体	6. その他 ()

問23で「2」「3」を選んだ人におたずねします。

問23-3 「利用したくない」あるいは「わからない」と答えた理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 制度の内容や利用方法がよくわからない
2. 制度を利用する際の手続きが複雑そうである
3. 他人に財産管理を任せることに抵抗がある
4. 利用するための費用(経済的負担)がかかる
5. 制度を利用せずに配偶者や子どもなどの親族に任せたい
6. 特に理由はない
7. その他 ()

5. 地域福祉に関する施策について

問24 あなたは、地域福祉を進めるための以下の計画を知っていますか。(ア・イそれぞれ、ひとつずつ○)

		知っている	計画名は知っているが、内容は知らない	計画名も内容も知らない
ア	下野市地域福祉計画	1	2	3
イ	下野市地域福祉活動計画	1	2	3

問25 あなたは、地域福祉を進めるためには、市民の参加・協力が必要とされていることを知っていますか。(ひとつだけ○)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問26 下野市の保健福祉施策(サービス)について、あなたはどのように感じていますか。
(ひとつだけ○)

1. とても充実している
2. まあまあ充実している
3. あまり充実していない
4. 充実していない
5. わからない

問27 下野市の保健福祉施策をより充実していくために、あなたが重要と考える取り組みはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 隣近所など、周囲の理解と協力による、支え合い助け合えるまちづくりをすすめる
2. 災害時に支援を必要とする人の把握と支援体制を充実させる
3. ボランティア団体など住民活動への援助を充実させる
4. 年齢や障がいの有無にかかわらず地域で活動できる機会をつくる
5. 世代や属性を超えて相談や交流ができる、場や居場所を地域に整備する
6. どんなことでも相談できる、相談支援体制を充実させる
7. 悩みや困難を抱える人を見つける仕組みづくりをすすめる
8. 健康や福祉についての情報提供を充実させる
9. 健康づくりや生きがいつくりが盛んなまちづくりをすすめる
10. 生活が困窮した方への援助を充実させる
11. 成年後見制度などの権利擁護にかかる取り組みを推進する
12. 犯罪をした者が社会に復帰するための支援を推進する
13. 交通の利便性の確保をすすめる
14. 道路の段差解消など、バリアフリー化をすすめる
15. その他 ()

地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係性



「下野市地域福祉計画」は、地域福祉を推進するための「基盤や仕組み」の整備に向けて、理念や目標、方向性、具体的取り組み等を示した市による行政計画です。

一方、「下野市地域福祉活動計画」は、「下野市地域福祉計画」を実行するための、地域住民や福祉関係団体の活動・行動について示した社会福祉協議会による行動計画です。

これら2つの計画は、車の両輪のような関係であり、どちらも地域福祉の推進を目的としていることから、下野市では同じ理念や目標のもと、両計画を一体的に策定しています。

6. あなたご自身について

問28 あなたの年代はどれですか。(ひとつだけ○)

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1. 10歳代 | 4. 40歳代 | 7. 70歳代 |
| 2. 20歳代 | 5. 50歳代 | 8. 80歳以上 |
| 3. 30歳代 | 6. 60歳代 | |

問29 あなたが住んでいる中学校区は次のどれですか。(ひとつだけ○)

1. 南河内中学校区
2. 南河内第二中学校区
3. 石橋中学校区
4. 国分寺中学校区

問30 あなたは現在の地区(問29で回答された中学校区)に何年住んでいますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 50年以上住んでいる | 4. 5～9年住んでいる |
| 2. 20～49年住んでいる | 5. 住みはじめて5年に満たない |
| 3. 10～19年住んでいる | |

問31 普段の1日あたりの就労時間(休憩時間を含む)はどのくらいですか。一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。(ひとつだけ○)

1. 就労していない(新型コロナウイルスの影響はない)
2. 就労していない(新型コロナウイルスの影響がある)
3. 4時間未満
4. 4～8時間未満
5. 8～12時間未満
6. 12時間以上

問32 あなたの家族構成はどのようになっていますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. ひとり暮らし世帯 | 4. 親と子と孫の3世代世帯 |
| 2. 夫婦のみの世帯 | 5. その他() |
| 3. 親と子の2世代世帯 | |

7. 市からの情報について

問33 あなたは、どのように市政に関する情報を得ていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-----------|----------|------------|
| 1. ホームページ | 4. ツイッター | 7. ケーブルテレビ |
| 2. 広報紙 | 5. メール | 8. その他 () |
| 3. ラジオ | 6. データ放送 | |



問34 あなたがラジオを聴く際に利用する機器はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1. カーラジオ | 4. スマートフォン | 7. 聴かない |
| 2. ラジカセ | 5. パソコン | 8. その他 () |
| 3. 携帯型ラジオ | 6. 防災ラジオ | |

問35 あなたは、下野コミュニティFM「FM ゆうがお」を知っていますか。(ひとつだけ○)

- | | | |
|----------------|-------------------|---------|
| 1. 番組を聴いたことがある | 2. 知っているが聴いたことはない | 3. 知らない |
|----------------|-------------------|---------|



問36へ

問35で「1」を選んだ人におたずねします。

問35-2 あなたは、「FM ゆうがお」をどのくらいの頻度で聴きますか。(ひとつだけ○)

- | | | | |
|---------|-----------|---------|-------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に3回ほど | 3. 週に1回 | 4. 月に1~2回程度 |
|---------|-----------|---------|-------------|



問35で「1」を選んだ人におたずねします。

問35-3 あなたが好きな「FM ゆうがお」の番組はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. さわやかスタジオ879 | 4. ゆうがおパラダイス |
| 2. くらしパレット | 5. 特にない |
| 3. しもつけピタッとラジオ(市提供) | 6. その他 () |

「FMゆうがお」って?



FM ゆうがお
キャラクターしもびい

下野市のいろいろな情報を発信する
放送局です。

【聞き方】

- お手持ちのラジオで! 周波数を FM 87.9MHz に合わせる
- スマートフォンで! 専用アプリをインストールして
- パソコンで! 公式ウェブサイトから (<https://fmyugao879.jp>)

防災ラジオ



